山梨県教育委員会

令和３年度
交流及び共同学習実施報告書

山梨県教育委員会

令和3年度　交流及び共同学習　実施報告書

目　次

【県立】

〇盲学校　・・・・・・・・・・・１
〇ろう学校　・・・・・・・・・・・９
〇甲府支援学校　・・・・・・・・・・２４
〇あけぼの支援学校　・・・・・・・・・・３２
〇わかば支援学校　・・・・・・・・・・４０
〇わかば支援学校ふじかわ分校　・・・・・・・・・・５７
〇やまびこ支援学校　・・・・・・・・・・６５
〇富士見支援学校　・・・・・・・・・・７１
〇富士見支援学校旭分校　・・・・・・・・・・７２
〇ふじざくら支援学校　・・・・・・・・・・７３
〇かえで支援学校　・・・・・・・・・・８３
〇高等支援学校桃花台学園　・・・・・・・・・・９１
〇特別支援学校うぐいすの杜学園　・・・・・・・・・・９７

【国立大学法人】

〇山梨大学教育学部附属特別支援学校　・・・・・・・・・１００

※　各支援学校の「教科等区分」の表記については、次のものを示しています。
・自立：自立活動
・特活：特別活動
・総合：総合的な学習の時間
・生単：生活単元学習
・遊び：遊びの指導
・職家：職業・家庭
・保体：保健体育
・作業：作業学習

令和３度交流及び共同学習実施報告書　　山梨県立盲学校

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立盲学校
所 在 地	〒４００－００６４　甲府市下飯田２丁目１０―２
電話番号	０５５―２２６－３３６１
校 長 名	成田　健
交流及び共同学習主任名	小林　えみ

２　学校教育目標

健康で心豊かな人間を育成し、自己実現・社会的自立ができる力を養う。

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

１　交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所　属　・　職　名	備　考
1	池田地区自治会連合会　会長、池田地区自治会　会長	会長
2	池田地区社会福祉協議会　会長	
3	池田地区シニアクラブ連合会　会長	
4	池田地区ボランティア推進会　会長	
5	山梨ライトハウス青い鳥成人寮　施設長	
6	甲府西幼稚園　園長	
7	甲府市立池田小学校　校長	副会長
8	甲府市立西中学校　校長	
9	山梨県立甲府西高等学校　校長	
10	山梨県立甲府城西高等学校　校長	
11	山梨県立盲学校　ＰＴＡ会長	
12	山梨県立盲学校　校長	
13	山梨県立盲学校　教頭	
14	山梨県立盲学校　事務長	

２　経過

開催月日	会　議　の　内　容
（第１回） ５月１２日	交流及び共同学習推進会議を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症に係る対応等により開催を見送ることになったため、今年度の交流及び共同学習の実施については、交流及び共同学習実施報告書の送付によりご報告させていただくこととする
（第２回） ２月１６日	

Ⅲ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

（１）幼児児童生徒の生活経験を広げ、社会性・協調性を育てる。
（２）相互の理解を深め、社会で共に生きて行くという意識を高める。
（３）視覚障害教育に対する理解と啓発を促す。

【各学部の目的】
（１）幼稚部
①自由あそびや集団での活動をとおして、生活経験を広める。
②継続した交流活動の中で、友だちとふれあう楽しさを味わわせる。
③同年齢の集団における活動の中で、雰囲気を感じたり、自分の気持ちを表現したりできるようにする。

（２）小学部

①休み時間や給食・教科交流・学校行事などの交流及び共同学習を通して、生活経験を広め、集団のルール等の社会性を育てる。

②継続した交流活動の中で、友だちとふれあう楽しさを味わわせながら、より良い関わりを育てる。

③同年齢の集団における活動を通して、自分の感情や意思を表現したり、もてる力を発揮したりする中で、お互いの関係を深めさせる。

（３）中学部

①学校行事・課外活動などを通して、生活経験を豊かにし、相手を思いやる心や協力する態度を育てる。

②共に活動することを通して相互の理解を深め、自らの障害を受容し主体的に行動しようとする意欲を高める。

③様々な人たちとの関わりを通して、視覚障害について多くの人への啓発を促す。

（４）高等部

①学校行事・生徒会活動・治療奉仕活動を中心に、社会経験を広め、積極的に社会に参加しようとする態度を育てる。

②共に活動することを通して相互の理解を深め、自らの障害を受容し、生きる力を付けようとする意欲を高める。

③様々な人たちとの関わりを通して、視覚障害について多くの人への啓発を促す。

２　提携校

学部	交流及び共同学習提携校
幼稚部	甲府西幼稚園
小学部	甲府市立池田小学校
中学部	甲府市立西中学校
高等部	山梨県立甲府城西高等学校　山梨県立甲府西高等学校

３　実施状況

学部	月日	提携校	実施学年	教科等区分	実施内容
幼	通年	甲府西幼稚園	５歳児	体験あそび	自由遊び、お集まり活動
	１１月１０日				盲学校交流体験会
小	２学期	甲府市立 池田小学校	１、２ ３、４ ６年	教科 特活	教科学習 （体育：運動会練習） 池田小ＰＴＡ文化祭 作品展示
	１０月　２日				池田小運動会
	通年				自己紹介カード交換 お礼状作成
中	１・２学期	甲府市立 西中学校	１・２年	特活	通信（壁新聞）制作 本校学園祭　作品展示
	１１月　９日				西中学校合唱祭参加

高	１・２学期	山梨県立甲府城西高等学校	１・２年	自立活動 総合 特活	通信（壁新聞）制作 本校学園祭　作品展示 メッセージカード拝受 メッセージ入り 音楽集会ＤＶＤ拝受
	２学期	山梨県立甲府西高等学校	１・２年	特活	本校学園祭　作品展示
全	１０月１６日	上記幼稚園学校	全学年	特活	本校学園祭　作品展示

４　学校間交流の様子

（１）幼稚部

今年度の幼稚部には３歳児３名、４歳児１名、５歳児２名の合計６名が在籍している。今年度は幼児の実態から５歳児１名が毎週水曜日に甲府西幼稚園の園庭での「自由あそび」や室内での「おあつまり」に参加した。自由あそびでは、砂遊びで友達を真似して型に砂を入れて遊んだり、できたものを友達と見せ合ったりする様子が見られた。あおつまりでは、いす取りゲームなどを通して友達と一緒に活動する楽しさを体験することができた。

１１月の交流見学会は、今年度も感染防止対策として盲学校と甲府西幼稚園に会場を分けて実施した。年少組がアイマスク体験、年中組が白杖歩行、年長組が点字作成体験を行った。甲府西幼稚園の先生方にも協力してもらいながら、園児に視覚障害について知ってもらう良い機会となった。

「自由あそび」

「おあつまり」

（２）小学部

今年度の小学部には１学年２名、２学年１名、３学年２名、４学年１名、６学年２名の計８名が在籍している。全員が池田小学校（以後提携校と記載）と交流及び共同学習を行った。新型コロナウイルス感染症のため、昨年度と同様、提携校の運動会への参加、自己紹介カードや作品等の交換を実施した。

①　運動会への参加

感染症防止対策として、今年度も提携校の運動会はブロック別で半日開催となった。個々の実態に合わせて参加種目や方法、合理的配慮等を検討し練習及び運動会に参加した。練習期間は、ほぼ毎日提携校に通い練習を積み重ねた。当日はリレーやダンスなどの表現活動等で練習の成果を力一杯表現することができた。練習や運動会の際には、笑顔であいさつしたり声をかけ合ったりするなど児童同士の交流が見られた。

②　自己紹介カード等の交換

教室内での交流が難しいため、写真やメッセージを書いた自己紹介カード等を交換した。互いの様子を知ったり交流への期待感を高めたりすることができた。

③　作品交流

毎年、六星祭(本校学園祭)に提携校の１年生から６年生が授業で制作した。

絵画など、趣向を凝らした楽しい作品を展示している。また、提携校では本校の児童が作った作品を展示する機会を設け、多くの児童や保護者の方に作品を見てもらっている。視覚障害のある児童が授業の中でどのような材料や手法で、何を作っているのかを知ってもらう良い機会となっている。

「運動会参加」

「交流展示」

（３）中学部

今年度は１学年１名と２学年１名、計２名が甲府西中学校（以下「提携校」と記載）と作品展示、盲学校通信制作、合唱祭への参観という形で交流及び共同学習を実施した。

①合唱祭参観

当日は提携校のボランティア委員会に座席へ案内していただいた。これから発表という緊張感の中、温かく声をかけてもらったことは、とてもありがたいことであった。人数の少ない本校において、生徒多数による合唱を聴く機会は貴重で、短い時間ではあったが、有意義な交流となった。

「合唱祭参観」

②盲学校通信の制作

前年度、一つの交流イベントとして盲学校通信を作成し受け取っていただいた。その時に提携校への意識が高まったり、自分たちのことを伝えようとする気持ちを強く持ったりすることができたため、本年度も同様に作成した。精一杯の気持ちを送ることができたと感ずる。

③作品展示

提携校の作品を本校学園祭で展示した。切り絵を提供していただき、触れてもよい作品として展示させていただけたことで、いっそう作品の鑑賞を充実させることができた。継続していただいていることで過去の作品を思い出しながら、鑑賞し、本年度の作品も来年度につながる印象深い作品となった。

（４）高等部

①甲府城西高等学校との交流（以下「甲府城西高」と記載する）との交流

・盲学校からお礼の手紙の制作

例年、本校にて学校紹介を含む交流が行われるが、残念ながら本年度も中止となった。そのような中、本年度も２学期末に心温まるメッセージカードを贈っていただいた。生徒は思いを巡らせ、好きなカードを大事に手元に残した。お礼として返事の手紙を書く中で、甲府城西高との関わりを意識することができたとともに自分たちを知ってもらえるという期待をもつことができた。例年の贈り物を生徒一同感謝している。

②作品展示

本校学園祭「六星祭」に、以下の作品を展示させていただいた。

甲府城西高：写真１２点、書道５点、絵画６点

甲府西高　：書道６点、絵画６点

教室で展示、鑑賞した。スペースに限りがあるため、提携校で作品数を絞っていただいた。本来であれば、迫力のある、また、味わい深い素晴らしい作品ともっと多く出会うことができるはずである。来場者にはじっくりと作品を味わっていただき好評を得られた。

５　成果と課題

（１）幼稚部

本校の幼児は盲学校に入学したばかりで、幼稚園での活動の経験もなかったが、見えにくい視覚状況の中で、遊びを通して友達と喜びを共感したり、悔しかった時に自分の気持ちに折り合いをつけたりするなどの貴重な体験をすることができた。

また、友達の前で発表できたことが自信につながったり、集団の中で話を聞いて友達の様子を見ながら行動することで、友達と一緒に活動を楽しむことができるようになったりするなど、就学前に大切なことを学ぶことができた。

来年度、幼児は地域の小学校に入学して新しい学校生活を送ることとなる。今後は、甲府西幼稚園との交流及び共同学習で学んだことを生かしながら、地域の小学校の児童とともに充実した小学校生活を送れることを期待する。

（２）小学部

今年度も新型コロナウイルスの感染症対策のため、教室内での交流や学校見学及び体験会等は難しかったが、学校や学級の様子を紹介する掲示物を交換するなど、工夫してお互いの様子を知ることができた。

交流運動会では、感染症対策を取りながら、練習から参加し、本番では練習の成果を発揮できた。交流活動を通して、同年齢の友達と一緒に行事を成し遂げたり、友達と触れ合う楽しさを味わったりすることは、児童にとって大きな成長につながっている。

教室内での交流及び共同学習の必要性を感じ、実施したいという意見が出ているので、感染症の状況を鑑みながら、検討していきたい。

また、本校児童と提携校児童との実態差が、学年が進行するにつれ大きくなる場合があることなども課題としてあげられている。今後もよりよい交流ができるように、双方の実態等を考慮し、交流内容等や関わり方などを検討し実施していきたい。

（３）中学部

一昨年、今年と、間接的な交流を実施するという中で、本学部における交流の意義を考えさせられた。生徒は、頭の中で思い描く友人に、自分の気持ちを伝えたいという意識を持つことができた。その確かな作業に対して返ってくるかかわりを確認した。ここには生徒にとって確かな時間が流れていた。もちろん、人と人が実際に向き合って時間を共有することは生徒にとってこの上ない経験である。一方で、この２年間行った交流は、目の前に感じることのできない友達とのかかわりである。時間をかけて相手のことを受け入れていく生徒にとっては、このような、少しずつ理解を深めていく交流の形もよいものであると感じる。声を肌で感じられない寂しさはあるが、時間をかけた取り組みは確かに生徒に残っている。

（４）高等部

①甲府城西高との交流

今年度の本校高等部生は、２年２名、１年２名であり、この４名が中心となって、学校案内（体験・奉仕の活動）や授業交流を行う予定であった。本年度もやむを得ず、生徒同士がお互いの学校を行き来して行う活動は中止せざるを得なかった。しかしながら、六星祭への作品展示や、メッセージカード、応援入り音楽集会のＤＶＤを頂戴するなど、各方面で活躍する生徒の様子をうかがい知ることができ、本校生徒の励みにつながった。また、甲府城西高校へあてたメッセージを入れた掲示物を作成する中で、交流について校内で意見交換した。来年度はこれまでと違う形での交流活動についても探りたい。

②甲府西高書道・美術作品展示

吹奏楽部による本校体育館での生演奏も今年度も中止となった。本校の生徒にとって楽器の音を生で聴くというのは、豊かな心を育成するにあたって、たいへん有意義な活動の一つであり、毎年、六星祭での演奏を楽しみにしているだけに残念であった。その一方で書道及び美術の貴重な作品をお借りし、展示し全校並びに関係者で鑑賞した。素晴らしい作品に好評を得られた。来年も充実した交流となるよう、内容や方法を探りながら実施したい。

Ⅳ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

（１）幼児児童生徒の生活経験を広げ、社会性・協調性を育てる。
（２）相互の理解を深め、社会で共に生きていくという意識を高める。
（３）視覚障害教育に対する理解と啓発を促す。

２　交流先

学　　部	地域交流先
幼稚部	池田地区文化協会、山梨青い鳥奉仕団
小学部・中学部 高等部	情報文化センター・青い鳥成人寮、池田地区ボランティア推進協会 池田地区シニアクラブ友愛会、池田地区文化協会、池田地区住民
寄宿舎	池田地区シニアクラブ友愛会、山梨英和高等学校

３　実施状況

学部	月日	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
小	９月２３日	全提携先及び地域住民	全学年	自立	コロナウイルス感染症予防のため実施できなかった
中 高	６月　９日 通年	情報文化 センター	１年	自立	点字図書館の見学及び図書の利用、生活用具の活用について係が代表で伺い、対象生徒に資料を配付する形で実施 再度１月に実施を試みたが、コロナウイルス感染症予防のため実施できなかった
中 高普 通科	６月１０日 ９月２３日	全提携先及び地域住民	全学年	自立	コロナウイルス感染症予防のため実施できなかった

高 理療 関係 学科	６月１０日	全提携先及び地域住民	全学年	自立	コロナウイルス感染症予防のため実施できなかった
	通年	地域住民	全学年	臨床実習	理療治療は実施できなかった
	６月　４日	地域住民	１・２年	臨床実習	「検校祭」は中止
	３月　６日	地域住民	全学年	臨床実習	例年の形の「健康祭り」は中止
幼 小 中 高 普	１月上旬～ ２月上旬	地域住民	全学年	体験あそび 図工・美術・家庭	山梨中央銀行　下飯田支店 作品展示
	３月　６日	池田地区文化協会及び地域住民	全学年	体験あそび 図工・美術・家庭	池田地区「健康祭り」は大幅に形をかえての実施のため、作品展示は無し。
寄	７月 １２月	池田地区シニアクラブ友愛会	舎生	余暇活動	地域の方のみによる花植え 実施できなかった 花をいただき舎生による花植え

４　地域交流の様子

（１）　高等部理療関係学科

例年なら通年を通して行っている臨床実習は、実施できなかったが、生徒たちにとっては、日頃学習をしている内容を、地域の方々に実践できる貴重な体験であり、実践内容からカンファレンス、まとめ、研究成果の発表へと繋げることができるものである。

通常の理療治療は、盲学校を身近に感じてもらえるよい機会であり、地域とのつながりを広げ、深めていくことができる大切な取り組みになっているので、実施ができる時のためにも日々準備をし、継続した学習に取り組んでいきたい。

（２）寄宿舎

今年度は感染症予防のため、池田地区シニアクラブの方々と舎生との直接的な交流を行わず、花を通じたやりとりや活動で間接的に交流を図った。７月は松葉ボタンの花、１１月はビオラの花を届けてくださり、舎生と指導員で花植えを行った。花植えの様子と舎生の感謝の気持ちを「寄宿舎だより」に載せ、自治会の各所へ配布した。

「７月花植え」

「水やり」

「11 月花植え

５　成果と課題

（１）高等部理療関係学科

理療関係学科では例年、検校祭、池田地区健康祭り、地域安全点検、日頃の臨床実習等を通して池田地区の方々との交流を図っており、コミュニケーション能力の向上や、地域と盲学校とのつながり等について再確認している。自分自身のことを表現することで障害の受容につながり、職業自立を目指す上で人間関係の構築の重要性について気付くことができる機会となっているのであるが、今年度は直接的な交流については、実施することが

できなかった。しかし、日々の様々な学習の中から、常に地域に目を向け、心を寄せる姿勢や地域で暮らしていく姿勢を学ぶことはできたのではないかと思われる。
　今後の課題として、生徒数の減少傾向により、治療奉仕に対するニーズに応えきれないことがあるが、これについては職員の参加等で補っていきたい。他の人との関わりをもつことが苦手な生徒に対しては、職員自身が生徒と地域の方との間に入り、少しでも関心をもてるようにはたらきかける役割を担っていくことが大事ではないかと考える。
　コロナウイルス感染症予防とお互いの健康を第一に考えながらも技術を磨きながら地域の方との大切な交流の場として、今後も治療奉仕の継続につとめたい。

（２）寄宿舎
　感染症予防対策のため一緒に活動することができなかったが、たよりを通し感謝の気持ちを伝えることで、間接的ではあるが舎生と地域の方々との交流を図ることができた。
　来年度も直接的な交流は難しいと思われるが、地域の方々との繋がりを感じられるような取り組みを考えていきたい。また、舎生にとって地域社会の一員であることの自覚を深め、地域の方々とかかわる上でのコミュニケーション力を高める機会としていきたい。

（３）地域の回覧板を活用したお便り配布
　地域の回覧板は、地域の方々にとって情報収集の重要な手段であると考えておりますので、会長様に各自治会組回覧板に依頼し、学校からの回覧文書を配布いただき、地域の方々の全戸に配布をしていただくことができ、情報として伝えることができたことはよかった。
　来年度以降も、しばらくはコロナウイルス感染症予防のため、活動が限られることも予想されるので、年間で計画的にお便りを発行し、配布できるように工夫したい。また、回覧板はインターネット環境が整っていない方への情報提供手段でもあると思われるが、本校のホームページやブログでの情報も、合わせて提供できるようにしていきたい。

Ⅴ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目　的

（１）居住する地域の児童生徒と共に学び、好ましい人間関係を築く。
（２）交流及び共同学習をとおして、地域の児童生徒やその保護者、教職員の本校児童生徒への理解が深まるようにする。
（３）生涯を通じて、地域と結びついていく基盤を作る。

２　実施状況

学部	月日	提携校	実施学年	教科等区分	実施内容
小学部	１２月	甲府市立 伊勢小学校	１年	音楽	楽器演奏、手遊び等

３　居住地校交流の様子

　保護者より実施への希望が出されてから、居住地校交流の校内規定に沿って検討し、実施へとつなげている。小学一年生という学校生活が初めてである学年であったが、提携校からは快くお受けいただき、電話連絡により具体的な学習内容や学習方法等を確認させていただきながら計画し、実施することができた。
　学習時は、コロナウイルス感染症予防をしっかり行い、安全に学習を進めていくことができた。
　本校での学習は、同学年が本人含め２名しかいないので、集団活動の中での自分の動き方や大勢の友達からの意見などを聞く機会、音楽の学習では、大勢の皆との音の重なりを感じること等を設定することが難しいという現状がある。本校児童は、はじめは緊張していた様子も見られたが、授業の後半では、一緒に手遊びをしたり、響き合う声を聴いたりしながら笑顔で楽しい時間を過ごすことができた。
　コロナウイルス感染症予防のため、計画していた回数よりも実施が少なくなってしまったことは残念であったが、お互いの児童にとって、とても貴重な学習経験となったと思われる。

令和３年度交流及び共同学習実施報告書　　山梨県立ろう学校

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立ろう学校
所 在 地	〒４０５－００１６　山梨市大野１００９
電話番号	０５５３－２２－１３７８
校 長 名	岩崎　雄治
交流及び共同学習主任名	髙波　由香

２　学校教育目標

◎子どものたくましく生きる力と豊かな言語力を育む

一人一人の特性に応じた適切な指導及び必要な支援の充実を図る

自身の力を発揮し、自分が自分らしく生きる力を育成する

物事に対し、周囲の人とともに取り組む力を育成する

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

１　交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所　　属・職　　名	備　　考
1	山梨市大野地区・区長	雨宮　俊彦
2	山梨市社会福祉協議会・会長	詫間　仁
3	峡東教育事務所・主幹	標　輝人
4	山梨市教育委員会学校教育課・課長	竹川　一郎
5	社会福祉法人加納岩福祉会加納岩保育園・園長	木崎　しおり
6	山梨市立山梨小学校・校長	中村　勝
7	笛吹市立春日居中学校・校長	新海　英記
8	山梨県立山梨高等学校・校長	小尾　きよこ
9	学校法人身延山学園身延山高等学校・校長	小林　学
10	山梨県立ろう学校・校長	岩崎　雄治

２　経過

開催時期	内　　容
5 月 7 日（金）	第１回交流及び共同学習推進会議（書面での開催）
1 月 28 日（金）	第２回交流及び共同学習推進会議（書面での開催）

Ⅲ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

（１）幼稚部

同年齢の集団との様々な活動を通して、幼児の生活に広がりをもたせ、豊かな心を育てる。

（２）小学部

大きな集団の中での活動を重ねることで、生活経験の拡充を図り、社会性・協調性を養う。また、豊かな言語環境の中でコミュニケーション能力を高める。

（３）中学部

同世代の大きな集団との活動を通して、学習経験・生活経験を豊かにし、社会性・協調性を伸ばす。また、自己について考え、社会的自立を図ろうとする態度を育てる。

（４）高等部

同年代の生徒との活動を共にすることを通して、生活経験を豊かにし、好ましい人間関係を培う力を育てる。また、自己や障害を認識し、社会参加に必要となる思考力や判断力、表現力を養う。

２　提携校

学　　部	交流及び共同学習提携校
幼稚部	社会福祉法人加納岩福祉会加納岩保育園
小学部	山梨市立山梨小学校
中学部	笛吹市立春日居中学校
高等部	山梨県立山梨高等学校、学校法人身延山学園身延山高等学校

３　実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
幼	5/25	加納岩保育園	全クラス	人間関係 環境	自由遊び、設定遊び他
	6/15　中止				自由遊び、設定遊び他
	9/7　中止				自由遊び、設定遊び他
	10/20				みんなで遊ぼう（運動遊び）
	11/16				自由遊び、設定遊び他
	12/14				自由遊び、設定遊び他
	1/19　中止				自由遊び、設定遊び他
	2/8　中止				自由遊び、設定遊び他
小	１学期	山梨小学校	全学年	特別活動	メッセージカードの交換
	5/17		３年	社会	農業体験
	5/18		２年	自立活動	「聴こえの学習会」

小	5/18	山梨小学校	２年	生活	さつまいもの苗植え
	6/11		１年	生活科	春を探そう
	6/29		６年	社会	租税教室
	10/8		３年	社会	農業体験
	10/11		４年	社会	校外学習（社会科見学）
	11 月		各学年	体育	交流持久走大会試走
	11/5		全学年	体育	交流持久走大会
	11/10		２年	生活	さつまいも堀り
	12/3		２年	生活	「やきいもまつり」
	１月　中止		１年	図画工作	造形遊び
中	５月	春日居中学校	全学年	自立活動	自己紹介カードの交換
	6/17		全学年	特別活動	Zoom による交流
	9/10 中止		全学年	特別活動	春日居中学校学園祭体育の部への参加 美術作品交換・鑑賞
	10/2　中止		全学年	特別活動	ろう学校運動会に招待
	10/26　中止		全学年	保健体育	交流強歩大会
	10/5 11/11		３年	５教科	教育課程到達度検査（１回目） 教育課程到達度検査（２回目）
	12 月		全学年	自立活動	ビデオレターによる交流
	１月		全学年	国語	席書き大会の作品交換・鑑賞
高	6/1	山梨高校	全学年	放課後	顔合わせ会
	6/15		全学年	自立活動	山梨高校学園祭に参加
	10/29　中止		全学年	体育	山梨高校梨窓 Walk（強歩大会）
	5/12	身延山高校	全学年	自立活動	交流会
	7/3　不参加		全学年	自立活動	身延山高校学園祭（延山祭）見学
	11/11　中止		全学年	自立活動	芸術文化祭グランドステージ

４　学校間交流の様子

（１）幼稚部

・今年度も新型コロナウイルス感染拡大の恐れから、６月、９月は実施できなかったが、しっかりと感染対策を行いながら５月、１０月、１１月、１２月は実施できた。１０月の交流では、ろう学校のグラウンドで実施した。年長組３６名とリズム体操をしたり、運動遊びを行ったりした。運動遊びは、感染対策を考え、バトンやタッチを行わないリレー、玉を入れる時間を分けての玉入れ、新聞紙を使ったボールはこびリレーを行った。強風の中での交流となったが、加納岩保育園の年長児が活動の見本となり、交流を楽しむことができた。

・１１月、１２月は、加納岩保育園の園庭にて、保育園の縦割りグループで、自由遊びや設定遊び（縄跳び、けいどろ）を行った。リズム体操では、音楽に合わせて楽しく身体

を動かすことができた。今年度は５月の交流時のみ手話歌を実施し、その他の交流時は、感染対策を考慮し、実施を見合わせた。

・各クラスの様子

もも組

初めての交流だったので、緊張した様子が見られたが、自由遊びでは遊具で一緒に遊ぶことができた。設定遊び「長縄」では、はじめは苦手意識から見ている様子もあったが、同じ年の友達が縄を跳ぶ姿を見て、自分から跳ぶことができた。「私は４歳だよ」と言う友達に「私も４歳だよ」と答え、他の友達と歳を教え合う場面も見られた。交流後も保育園の写真を見て「行きたい」「楽しかった」と話していた。

たんぽぽ組

昨年度交流を経験しているので、大勢の友達と交流をすることをとても楽しみにしている様子が見られた。友達の前で大きな声や手話で自己紹介や挨拶をしたり、リズム体操は年中組の中に入り、思い切り身体を動かしたり、友達と手をつないで一緒にゲームをしたりする等、積極的に参加する様子が見られた。設定遊び「ボール運び」では、友達と新聞紙に乗せたボールを落とさないように協力し合う様子も見られた。初めて参加する幼児は、交流後、保育園の写真を見ては、滑り台を滑ったことなどを話し、楽しかったことを伝える様子が見られた。

すみれ組

これまでの交流の積み重ねにより、活動に見通しを持ち、落ち着いて参加することができた。緊張したりいつもと違う雰囲気を感じたりしながらも、みんなの前で自己紹介をしたり、色々な遊びに参加したりすることができた。リズム体操も保育園の友達と一緒に楽しく踊ることができた。自分から保育園の友達にかかわりをもとうとする様子は少ないが、友達からのかかわりを受け入れて手をつないだり、一緒に遊んだり、呼びかけに答えたりする様子が見られ、成長が感じられた。

加納岩保育園で「鬼ごっこ」

ろう学校で「ボールはこびリレー」

（２）小学部

・１学期に両校で打ち合わせを行い、感染症対策をしながら、交流できる活動を考えて、計画を立てた。学年ごとのメッセージカードの交換は、今年度も継続して実施した。

・１年生は初めての交流であったが、万力公園で春探しを行い、ビンゴカードを使って植物や虫を探す活動をしたり、はんかち落としをして遊んだりして交流した。積極的に話しかけてくれる児童が多く、ろう学校の児童も進んで輪の中に入っていく様子が見られた。
・２年生は１学期にさつまいもの苗植えや収穫、やきいも祭りを行った。ろう学校の児童も同じおもちゃを作り持参して、そのグループに入れてもらいながら、やきいも祭りに参加した。焼きいもを食べるときには手話で「おいしいね」と話しかけてくれる場面もありかかわりが広がっていった。
・３年生は、食育活動で農業体験をした。農家の人の具体的な話を聞いたり、友達と一緒に実際に畑の果実に触れたりし、農業体験をすることができた。
・４年生は、遠足を合同で実施した。山梨小の班にろう学校の児童を入れていただき、一緒に活動することができた。ろう学校児童が持っていたしおりのクイズに答えるために山梨小の児童が協力してくれるなど、かかわっていく様子が見られた。
・５年生は、５年生児童の企画・運営で交流会を行った。チームごとに分かれ、「お絵描きリレー」と「漢字しりとり」をした。帰りにメッセージカードを受け取った。
・６年生は、租税教室を行い、講師を招いて税について話をお聞きした。クイズや映像（字幕付き）もあり、楽しく学習できた。子どもたちは、久しぶりに同級生に会い、一緒に授業を受けたことを喜んでいた。メッセージの交換も行った。
・交流持久走大会では、試走の段階から全体で練習し、目標をもち意欲的に取り組むことができた。当日は同学年の仲間を意識しながら走り、自分の力を十分に発揮して完走することができた。走り終わった後は、友達を応援したり、楽しそうに話をしたりする様子が見られた。

１学年交流　生活「春をさがそう」

６学年交流　社会「租税教室」

（３）中学部
・両校担当で打合せを行い、年間計画を立てる中で、新型コロナウイルスの蔓延状況をみながら、行事への参加を中止したり、オンラインやビデオレターでの交流を増やしたりすることを確認した。
・春日居中福祉交流委員会約３０名と Zoom を使って交流した。春日居中の各クラスとろう学校の各生徒が、１つずつ決められたテーマ(好きなアニメ・漫画、最近ハマっていること、嫌いなこと、趣味等)を担当し、順番に発表した。
・各クラスから、手話によるビデオレターをいただいた。クラスごとに異なるテーマの内容であった。ろう学校の生徒はビデオレターを見て、それに対する感想やコメントを

ビデオや手紙で返信し、併せて、手話やトリビアについてのクイズを作成し、ビデオやポスターを送った。

・学園祭の美術作品による交流は中止したが、教育祭席書き大会の作品の交流は実施し、よい刺激を受け合う機会となっている。

オンライン交流

ビデオレターによる交流

（４）高等部

①山梨高校

・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、山梨高校生徒と本校生徒との年度初めの顔合せ会は、参加人数を限って短時間で行った。梨窓祭（山梨高校の学園祭）で紹介する本校紹介ビデオを撮影したり、自己紹介をしたり、山梨高校ダンス部のビデオを見たりした。

・新型コロナウイルス感染予防の観点から、梨窓祭にリモートで参加した。開会式でクラス旗の披露があったため、ろう学校で作成した旗を事前に渡し、山梨高校の生徒に入場行進をしてもらった。その様子を YouTube で参観したり、Zoom を利用して開会式にリアルタイムで参加し双方向の交流を持ったりした。開会式のほか、書道部のパフォーマンスや吹奏楽部の演奏も YouTube で参観した。

②身延山高校

・新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、５月の交流会はリモートで実施した。お互いの学校紹介をしたり、聴覚障害について説明したり、簡単なゲームを楽しんだりした。Zoom を利用して双方のやりとりができたため、両校の生徒がゲームを楽しみ親睦を深めることができた。新型コロナウイルスの感染防止の観点から、学園祭は外部者の参観中止であった。

・高等学校芸術文化際のグランドフィナーレは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。

身延山高校とのオンライン交流

山梨高校との顔合わせ会

５　成果と課題

（１）幼稚部

①成果

・同年齢と接する機会が持てたこと、大きな集団活動を体験できたことは、よい刺激となった。

・大きな集団が苦手な幼児が、回を重ねるごとに親しみを感じ活動を楽しむことができた。保育園児に誘われて遊ぶことができたことは本校幼児にとって大きな成長であった。

・ろう学校幼児が、保育園の先生方を誘って遊ぶ様子が見られた。また、ろう学校の幼児と園児をつなげるような声かけをしていただいた。楽しく活動ができてよかった。

②課題

・保育園の先生方が、保育園の園児とろう学校の幼児とのつなぎ役をしていただいたおかげで活動ができた。今後もお願いしたい。

・新型コロナウイルス感染の予防等で、実施方法や内容等の変更があった。今後どのような方法、内容がよいのか検討し、よりよい交流ができるようにしていきたい。

（２）小学部

①成果

・感染症の影響で活動に制限があり、話をしたり、かかわったりする計画が立てにくかったが、同級生と集団で学習できたことはよかった。元気に発言する様子、意欲的な態度など、よい刺激をもらった。

・毎年交流を積み重ねることができているので、少しずつ児童が慣れてきて、両校の児童同士で話す様子が見られるようになってきた。山梨小の児童も、一人ずつ話してくれるなど、ろう学校の児童のことを考えながら接してくれている様子が見られ、双方に学びが深まっている。

・集団で学ぶことを通して、学習規律や協調性を体験的に味わうことができ、児童にとって大きな刺激となった。

②課題

・感染症対策をしながらどのような交流ができるのか検討し、交流活動を継続していく。

・１人の交流で緊張する様子もあるが、交流を積み重ねていく中で、友達と積極的にかかわれるようにしていけると良い。

・来年度も山梨小の先生方のご理解のもと、社会科見学等の交流の機会を大事にしたい。

（３）中学部

①成果

・直接的な交流の機会はなかったが、オンラインやビデオレターでの交流が、同世代の仲間と互いに刺激し合ったり自己を見つめたりする時間となった。お互いに、相手が理解しやすい方法を考えながら交流することができた。

・ビデオレターでの交流は、リアルタイムでのやりとりはできないが、それぞれの実態に合わせてじっくりと見ることができよかった。

②課題

・交流の成果を高めるためにねらいを絞り、お互いに共有したうえで、計画的に進めることが重要である。本年度は、「コミュニケーション方法」について考えながら交流することを本校生徒のねらいとしたが、そのための事前学習や準備の時間を十分にとることができなかった。新型コロナウイルス蔓延防止のため、直接会っての交流は今後も減ることを踏まえ、オンラインやビデオレター、手紙での交流の日程を計画的に設定し、十分な事前学習や準備を行いながら進めていきたい。

・来年度も、本校では「コミュニケーション方法」についてをねらいとし、生徒が自身の聴覚障害について考え、コミュニケーションの困難さを体験しながら改善策を考える機会としたい。

（４）高等部

①成果

・新型コロナウイルス感染症の予防対策を行うことで､直接会っての交流会が実施できた。短時間ではあったが、実際に顔を合わせて交流することで親睦が深まり、山梨高校の学園祭参加への期待感が高まった。実際に顔を合わせての直接的な交流の有効性は大きいと感じた。

・リモートでの交流会は、はじめての試みであったが、事前に担当教員が打ち合わせをしてスムーズに会を進めることができた。

・Zoom を使用して双方向の交流ができたことは有効であった。１時間程度の交流会が実施できたので、和気あいあいとした雰囲気が生まれ親睦が深まった。コミュニケーション方法の工夫を考える機会になった。

・聴覚障害についての説明では、聴者に知ってもらいたいことや配慮してもらいたいことを考える機会になった。また、相手に伝わりやすい説明方法についても考える機会になり、生徒たちにとってはきこえや合理的配慮について考えて発表するよい機会であった。

・山梨高校の学園祭への参加では、山梨高校のご配慮のおかげで、YouTube の配信と Zoom の使用を併用した。YouTube では学園祭全体の雰囲気やステージの様子をリアルタイムで見ることができ臨場感をもてた。また、Zoom を利用することで双方向の交流ができ、本校生徒も参加していることを実感することもできた。同世代の生徒たちの活動の様子や発表を知ったり参加したりすることは、本校生徒たちにとっては社会を知ることの一部であり、重要であることを再確認した。現地に行っての参加はできなかったが、同世代の高校生たちと一緒に活動できる貴重な機会になった。

②課題

・リモートでの交流の可能性を実感した半面、直接交流の効果の大きさには及ばないことは確実である。感染予防を実施しながら、直接交流をできるだけ検討していきたい。

・両校の担当教員の事前の打ち合わせを丁寧に行うことで、スムーズな運営ができた。来年度も同様にお願いしたい。

Ⅳ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

（１）幼稚部

地域の人たちとの活動を通して、豊かな心を育てる。

（２）小学部

地域の人たちと交流活動を重ねることで、生活経験の拡充を図り、社会性・協調性を養う。また、地域や社会に目を向ける意識や態度を育てる。

（３）中学部

地域の人たちとの交流活動を通して、学習経験・生活経験を豊かにし、社会性・協調性を伸ばす。また、自己について考え、社会的自立を図ろうとする態度を育てる。

（４）高等部

地域のさまざまな人たちとの活動を通して地域に目を向け、社会経験を豊かにし、社会で共生していこうとする意欲を養う。

（５）寄宿舎

交流先と長年積み重ねてきたものを大切にしながら、間接的な交流をする中で、地域とのつながりを感じられるようにする。

２　交流先

学　　部	地域交流先
幼稚部	山梨陶磁会
小学部	山梨市立養護老人ホーム「晴風園」
中学部	JA フルーツ山梨加納岩支所
高等部	山梨クリナース、山梨授産園、山梨陶磁会
寄宿舎	大野区、手話サークル「ふえふき」

３　実施状況

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
幼	5/26	山梨陶磁会	全クラス	人間関係・環境	親子陶芸教室（成形）
	7/6				親子陶芸教室（釉薬がけ）
小	6 月	晴風園	全学年	自立活動	メッセージを送ろう
	9 月		全学年	自立活動	敬老の日の壁画を送ろう
中	5/19 中止	JA フルーツ山梨加納岩支所	２年	総合的な学習の時間	地域学習（桃の摘果の見学・袋かけ作業体験）
	6/25		２年	総合的な学習の時間	地域学習（共選所での出荷の見学・箱詰め体験）

高	中止	山梨授産園･山梨陶磁会	全学年	総合的な探求の時間	交流陶芸教室
	7/6 11/26	山梨クリナース	１，２年	総合的な探求の時間	勤労体験
寄宿	5/26	大野区	宿泊舎生		ビデオメッセージや手紙など、間接的な交流
	11/30	手話ｻｰｸﾙ「ふえふき」	全舎生		自己紹介とさいころトーク
	1/27	手話ｻｰｸﾙ「ふえふき」	宿泊舎生		手紙の交換

４　地域交流の様子

（１）　幼稚部

・陶芸教室が初めての保護者に、作品作りを積極的に行えるように、過去の陶芸教室の様子や作品写真を見せて当日に臨めるようにした。

・事前に、親子で作るものやイメージ、釉薬の色などを話し合ってくるように保護者に伝えた。当日は、講師にイメージを伝え、アドバイスを受けながら作る様子が見られた。

・講師が、粘土を切って積み上げていく様子を実際にやって見せてもらった。また、途中で子どもたちの作った作品をどのようにつけていくかなどアドバイスを受けながら活動した。

・子どもたちは粘土の感触を十分楽しみ、保護者も子どもたちの作った形を生かしながら成形に取り組んでいた。親子で熱中して取り組んでいる様子が見られた。

・釉薬塗りでは、焼くとどのような色になるのか作品を見てから、塗りたい色を選び塗った。重ねて塗ってもよい、塗っていないところもあってもよいことを講師から聞き、親子で楽しんで塗る様子が見られた。

「とても感動した」と講評を頂きました

アドバイスを頂きながら

（２）小学部

・年度初めに、「今年もよろしくお願いします」の気持ちを込めて、メッセージカードを書き児童代表が園を訪問した。今年度も感染症予防の観点から、直接触れ合っての交流はできなかったが、メッセージカードを書き、手渡したことでつながりを感じることができた。晴風園のみなさんも楽しみにしていてくれていた。

・敬老の日の訪問は、今年度も全児童が訪問して活動することはせず、季節にあった壁画を全員で作り、代表の児童が届けた。壁画には、自分の絵も付け、なかなか会えない分、いつでも見て思い出してもらえるように気持ちを込めて、作成することができた。

年度初めの訪問

（３）中学部

・例年ＪＡから紹介していただき、近隣の桃農園での袋かけ体験や、共選所の作業体験をさせていただいている。

・今年度は悪天候により、桃の摘果の見学・袋かけ作業体験は実施できなかった。共選所では、桃の選別や出荷の様子を見学し、桃の箱詰め作業を体験させていただいた。

（４）高等部

・山梨授産園とは例年陶芸作品作りを通して交流している。今年度は新型コロナウィルス感染症の感染予防の観点から中止した。

・クリナースでとの交流では、感染症予防対策のため交流学年を限定し２回に分けてクリナースに出向いて勤労体験を行った。1 年 2 組の 1 名は、第一期現場実習期間内に、リサイクルの体験を半日行った。利用者さんや支援員さんに仕事のやり方を教えてもらいながら、一緒に作業することで交流ができた。1 年 1 組の 1 名と 2 年の 1 名は、11 月末にクリーニング作業を体験した。それぞれが、１階と２階に分かれて、利用者さんや支援員さんに仕事のやり方を教えてもらいながら交流した。

クリナースでのクリーニング作業

（５）寄宿舎

・感染症対策のため、大野区ゲートボール愛好会との交流は間接的な形で５月末に実施した。農繁期前の忙しい時期であったが、１０名の方々の自己紹介メッセージや試合の様子を撮影した。撮影した内容を舎生が視聴し、舎生からは自己紹介カード

と寄宿舎の一日の生活が分かるような日課表を作成し、ゲートボール愛好会の方々に配付した。

・２年前の大野区との交流会に参加した舎生は少数であったが、愛好会の方々の顔を見て懐かしむ舎生がいたり、ゲートボール歴の長さに驚く舎生がいたりと、間接的ではあったが、お互いを知る機会となった。

・手話サークル「ふえふき」との交流は年２回行った。感染症対策のため、手話サークルの方の参加は１～３名とし、時間も３０分程度とした。第１回は交流会の内容を寄宿舎が企画し、自己紹介とさいころトークを行った。お互いのことを知ったり、興味のあるものを共有したりすることができた。第２回は手話サークルの方が企画、運営をした。

・初めての交流会で恥かしがる様子を見せた舎生もいたが、手話サークルの方々が作成してくださった紹介ＤＶＤを視聴したり、さいころトークをしたりするうちに雰囲気も和やかとなり、最後は舎生が玄関までサークルの方を見送る様子もあった。

ゲートボール愛好会の方の自己紹介を見ている様子

手話サークル「ふえふき」との交流の様子

５　成果と課題

（１）　幼稚部

①成果

・山梨陶磁会の指導による「親子陶芸教室」は２３年目となる。親子でかかわりながら、幼稚部段階の子どもの豊かな発想を大切にして自由な作品作りが楽しめる場となっている。活動が難しい陶芸であるが本校にはその施設設備があるのでこれを活用し、さらに専門家から教えていただく貴重な機会でもあるので今後も継続していきたい。

・初めて作品作りを行う保護者に、事前に陶芸教室の様子や作品写真を見せたことで、イメージ作りに役立ったと思われる。また、毎年行うことで、子どもたちも保護者も見通しが持て、自分の作りたい物を考えてから参加するようになっている。

・時間の関係で作品発表ができなかったので、終わりの会で、１人ずつ自分の作品を発表する機会を設けたい。人前で表現するよい機会となっているので今後も行っていきたい。

・陶芸釜の使用マニュアルを見ながら、本校職員でスムーズに素焼き、焼成ができた。トラブル（割れ、脱落等）についても講師にアドバイスをいただき対応できた。

・イメージ、想像力が豊かな作品が多く、この年齢でしか表現できない作品に、とても感動したと評価をいただいた。
・講師の先生より「陶芸作品は時間を形として残せるものである」という話があった。その時の子どもたちの模様を入れておくと、後でその作品を見た時、その年に戻ることができるものだから、幼少期に作品を作り残したい、ということを言い伝えていきたい。

②課題

・釉薬の塗り方を工夫するために講師から特徴を聞き、紙面に残すように記録を引き継いでいく。
・陶芸による交流が継続しスムーズに行われるようにするために、施設、設備等の維持管理、材料・道具等の補充をしていく。
・粘土を焼いた時に割れてしまうことがあるので、作品をつくる際に割れないようにするための留意点を教えていただく。

（２） 小学部

①成果

・今年度も児童からメッセージを送ることのみの交流であったが、晴風園の方々は、メッセージをもらえることを楽しみにしていてくれていた。児童も、今後も交流をしていきたいという思いをもっていた。交流の方法に制限がある中で、メッセージを渡すことで交流を積み重ねることができた。

②課題

・感染症の影響で全員での直接的な交流ができなかったが、交流先との連携を密にし、感染症対策をしながらどのような交流ができるのか、内容や方法を検討していく。

（３） 中学部

①成果

・共選所での出荷の見学・箱詰め体験では、桃の選別の仕方について知り、仕事を丁寧に行うことの大切さについて考えることができた。
・地域交流を通して体験したことや疑問に思ったことをテーマとして調べ学習を行い、体験を通して学びを深めることができた。

②課題

・交流先との連携を密にし、感染症対策をしながらどのような交流ができるのか、内容や方法を検討していく。

（４） 高等部

①成果

・利用者さんや支援員さんと勤労体験を通して交流することで、いろいろな障害を知ったり、いろいろな方とのコミュニケーション方法を考える機会になったりした。また、勤労体験を兼ねることで、福祉事業所の仕事を体験することもでき、自分の適性等を考える機会にもなった。

②課題

・来年度、本校は２学期制になる。その中で、有意義な交流ができるように計画していく必要がある。

（５） 寄宿舎

・コロナ禍のため、大野区との交流については昨年度は中止、今年度は間接的な交流となったが、今後も新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら大野区の方と連絡を取りあい、舎生の人数や実態に応じた内容を検討していきたい。

・長年、交流を積み重ねてきた手話サークル「ふえふき」との交流は、昨年度はコロナ禍のため中止となってしまったが、今年度は参加人数を制限しての実施とした。

・サークルの広報誌に交流会の様子や感想が掲載された。今後も密に連絡を取り合い、感染症対策をしながらも、ねらいに沿った計画を立て、充実した交流内容になるよう提案をしていきたい。

Ⅴ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目　的

居住地校との交流及び共同学習を通して、児童生徒の経験を深め、社会性を養い、居住地での好ましい人間関係を形成し、その能力と可能性を最大限に伸ばして社会生活への円滑な移行を図るための基礎を養う。

２　実施予定幼児児童生徒

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部・３年	南アルプス市立豊小学校	3	算数、音楽、外国語活動。校外学習など、様々な活動を午前や午後に実施した。
小学部・４年	甲府市立里垣小学校	2	算数・体育・図工・休み時間を中心に、１、２校時に実施した。
小学部・４年	忍野村立忍野小学校	7	１日を通して様々な授業に参加
小学部・６年	富士川町立増穂小学校	2	英語、理科、国語、算数を午前中に実施した。

３　成果と課題

（１）成果

・全員昨年度からの継続だった。時間や方法を検討しながら実施することができた。

・様々な教科の一斉授業を通して、同学年の友達の多様な考えなどを知ることができた。その中で発言をし、自信につながる経験をすることができた。

・場所や活動に慣れてきたことにより、落ち着いて交流に参加する様子が見られた。集団の中で活動することで充実感を味わうと同時に、様々な友達との交流を通して刺激を受けることができた。また、学校生活の中で生かそうとする姿も見られた。

・コロナ禍のためマスクをしていることによって、コミュニケーションが取りづらそうな様

子もあるが、聞き取ろうと意識をしたり、友達の様子から活動を推察したりして参加することができた。また、自ら筆談用のノートを準備しようとするといった課題解決の方法について考えることにつながった。

・希望していた教科での交流及び共同学習は難しかったが、できる限り一緒に学習できるよう検討をするなかで工夫することができた。

（２）課題

・感染症の影響で居住地校交流を見合わせた家庭もあった。

・今後もマスク等の感染症対策したうえで、どのようにコミュニケーションをとっていけたらいいか、考えながら実施していく。

・子ども同士のかかわり合いを通して、徐々に友達といろいろな話ができると良い。

令和３年度交流及び共同学習実施報告　　山梨県立甲府支援学校

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立甲府支援学校
所 在 地	〒400-0064　山梨県甲府市下飯田２－１０－３
電話番号	０５５－２２６－３３２２
校 長 名	佐田　弘和
交流及び共同学習主任名	髙橋　希

２　学校教育目標

○健康で心豊かな人
○自ら感じ、考え、表現する人
○認め合い、伝え合い、助け合う人
○自立に向けてあゆむ人

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

１　交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所　属・職　名	備　考
1	甲府市池田地区自治会連合会・会長	副会長
2	甲府市新田地区自治会連合会・会長	会長
3	池田地区シニアクラブ連合会・会長	副会長
4	池田おやなぎ連・会長	
5	甲府市立池田小学校・校長	
6	甲府市立新田小学校・校長	
7	甲斐市立敷島中学校・校長	
8	山梨県立甲府城西高等学校・校長	
9	山梨県立甲府支援学校・PTA 会長	
10	山梨県立甲府支援学校・校長	

２　経過

開催時期	内　容
５月	今年度の計画について　（紙面郵送による）
２月	今年度の活動報告について（紙面郵送による）

Ⅲ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習を実施することにより、
（１）児童生徒の経験を広め、積極的に活動する態度を養う。
（２）児童生徒の社会性を養い、豊かな心をはぐくむ。
（３）互いを理解し合い、共に学び高め合う機会を持つ。

【各学部の目的】

（１）小学部
①大きな集団やたくさんの友達と活動し、新しいことを体験したり学んだりする。
②自分からかかわろうとしたり、自分の気持ちを表したりする。

（２）中学部
①経験を広めると共に、新しいことを学んだり挑戦したりする。
②同世代の生徒たちの考えに触れ視野を広げると共に、自分の考えを表現する。

（３）高等部
①いろいろな活動をすることで経験を拡大し、社会性を育て主体的に行動する力を身につける。
②同世代の生徒たちの考えや行動に触れ自分の考えを表現したり、自分を見つめ直したりする。

２　基本方針

（１）共に学び合い、共に育ち合う場となるような交流及び共同学習を目指して、その方法や内容などを両校職員の共通理解のもとに探っていく。
（２）お互いが共に学習することで、相互理解を深め共生社会の実現の一助となるよう努める。
（３）校内だけでは体験できない活動を設定できる場として、交流及び共同学習の内容について両校職員で創意工夫していく。
（４）両校児童生徒の変容、成長等を把握し、児童生徒のねらいに対する評価を交換し合う。

３　提携校

学　　部	交流及び共同学習提携校
小学部	甲府市立池田小学校、甲府市立新田小学校
中学部	甲斐市立敷島中学校
高等部	山梨県立甲府城西高等学校

４　実施内容

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	5 月～1 月	甲府市立 池田小学校	全学年	自立活動 国語、音楽 図画工作、生活、総合的な学習の時間	・自己紹介カード、ビデオメッセージ等交流 ・学年毎活動交流（共同作品作り、学校紹介や教科学習紹介ビデオの交換等）
	11 月～ ２月		全学年	自立活動 図画工作、生活	甲養祭展示発表での作品交流
	5 月	甲府市立 新田小学校	全学年	自立活動 国語、音楽 図画工作、生活	自己紹介カード、ビデオメッセージによる交流 共同作品の交換
	5/24				第１回新田小児童と本校教員との話し合い活動
	7/1～7/9		全学年	自立活動 生活、音楽、体育、国語、図画工作	第１回ビデオ交流会 新田小の各班と本校の学級ごとのビデオ視聴と活動
	10/11				第２回新田小児童と本校教員との話し合い活動

	11/29 ～12/3		全学年	自立活動 生活、音楽、体育、国語、図画工作	第２回ビデオ交流会 新田小の各班と本校の学級ごとのビデオ視聴と活動
	11/20		全学年	自立活動 図画工作、生活	甲養祭展示発表での作品交流
中	7/14	甲斐市立 敷島中学校	全学年	自立活動 特別活動	第１回ビデオ交流会 学校紹介と教科学習紹介ビデオ視聴と活動
	11/20		全学年	自立活動 美術	甲養祭展示発表での作品交流
	12/15		全学年	自立活動 音楽、美術	第２回交流会でのリモート交流
高	4/30	山梨県立 甲府城西 高等学校	全学年	自立活動 美術	甲府城西高へ贈呈する応援旗製作、贈呈
	11/12		全学年	自立活動 美術	甲養祭展示発表を学部で観覧し、感想を書く
	12/1～7		全学年	自立活動、音楽	交流音楽集会ビデオ鑑賞

５　学校間交流の様子

（１）小学部

①池田小学校との交流及び共同学習

昨年度は学年ごとの紹介カードやポスターのやりとりのみだったので、今年度は両校の活動の様子が分かるビデオの交換を目標に、互いに取り組んだ。６月に両校の学年代表の教員打ち合わせを行い、池田小学校で取り組んでいる活動を参考にさせていただき、本校でも関連のある活動を取り入れた。

例えば４年生の連合音楽会の取り組みを参考に、本校の４年生全員で『かえるのうた』に取り組み、それぞれ児童が演奏できる楽器で合奏を発表し、またダンスが好きな児童はその歌に合わせて踊っている様子をビデオに撮った。また、恒例になっている６年生の貼り絵はそれぞれの学校内で作り上げるのではなく、折り紙をちぎるのは本校、貼って完成するのは池田小と、それぞれの児童ができることや、役割分担をこなして、大きな共同作品作りとなった。

初めて池田小からも学年活動の様子のビデオを作っていただいた。運動会の模様を中心に、ゲームや自己紹介の盛り込まれたビデオをそれぞれの学年の児童が鑑賞した。

②新田小学校との交流及び共同学習

昨年度はコロナの影響でビデオなどの間接的な交流を１回に縮小して行ったが、今年度は安全に配慮しながら２回実施できた。また、本校職員が新田小学校に出向き、５年生児童とどのような交流を行うかの打ち合わせ会も行った。新田小とのこのスタイルは長く取り入れている方法で、直接本校児童の様子を話す良い機会となっている。

まず初めに、本校教員と話し合った内容のビデオとグッズが新田小から送られてくる→ビデオにある活動紹介やグッズを使って本校児童が取り組む→取り組んでいる模様をビデオに録りメッセージを入れて本校から新田小に送る→お礼の手紙が新田小から届く、といった一連の流れで双方向でのやりとりが行われた。このビデオ交流も２年目となり、両校と

もに相手を意識したビデオの作成と視聴に慣れてきた。

グループメンバーがお互いに少人数同士であることから発想や工夫が個性的で、それぞれのグループで独自の取り組みが行われた。ダンスや紙芝居など視覚的に楽しめるものや、手作り楽器や釣りゲームなど、実際に触れたりゲームをしたりできるものなど、本校児童の特性に合わせた遊びを提供してくれた。

ビデオ画面の中ではあるが、新田小の友達が生き生きと紹介してくれたり名前を呼んでくれたりする様子をよく見て聞いて、本校児童も楽しんだ。またその様子をビデオに録って、新田小に渡すことができた。新田小からメッセージをいただくことも今後の楽しみである。

（２）中学部

第１回目には両校互いに学校紹介ビデオを作成しての間接交流を行った。敷島中からのビデオには、県内唯一のアーチェリー部をはじめサッカー部や剣道部、パソコン部や英語部などの紹介や、交流学級１年２組全員によるハンドクラップの発表が収録されていた。普段本校の生徒があまり目にすることがない放課後の活動について知ることができた。本校からは、総合的な学習の時間を使って『本校学校のちょっといいところ紹介』として、感覚訓練室やスヌーズレンルームでの活動の様子や交流メッセージをビデオ収録し届けた。

第２回目は、Google Meet でのオンライン交流を実行できた。初めての取り組みだったので、数回のリハーサルや会議コードについてなど準備をすることで、スムーズに交流会を実施することができた。直接的に声を掛け合い、生徒同士の生のやり取りが行えたことは意義深かった。今年度中にオンライン交流の感想を交換する予定である。

（３）高等部

例年５月に行われる高校総体が７月になり、甲府城西高の壮行会に使用していただく応援旗を作製した。美術・造形の授業で２枚応援旗を作り、教員が届けた。

１１月の甲養祭では、全ての交流提携校に作品を依頼し、展示させていただいた。高等部では、作品を提供していただいた甲府城西高の美術部と書道部に向け、感想文を書く取り組みを行った。感想文をまとめて渡すこともできた。

例年本校と盲学校と甲府城西高の３校合同音楽集会を行っていたが、体育館に密集してしまうことを避けるため、昨年と同様にビデオでの鑑賞とした。ビデオには吹奏楽部、合唱部、応援委員会からの演奏やメッセージが収録されており、音楽の授業でグループごとに鑑賞した。鑑賞後は、本校で行われている音楽の授業の様子や、ビデオを鑑賞している様子、生徒の感想などを撮影し、ビデオにまとめて届けた。

クリスマスシーズンには互いにカードを贈り合った。事前に甲府城西高のインターアクト部と本校の生徒の好きな物や得意なことを情報交換しておき、それをもとにカードを作り交換し合った。アイドルや音楽など共通の話題があると分かった生徒は「直接話したい」といった感想を挙げていた。また、本校から送ったカードは相手校の校内に掲示し、多くの生徒の目につくよう工夫していただいた。

６　成果と課題

（１）小学部

①池田小学校との交流及び共同学習

長年続いてきた池田小との交流を再び双方向でできたことは大変有意義であった。ビデオの交換や作品交流などを通して本校児童の様子を相手に伝えられ、相手校児童の表情も見ることができた。昨年のコロナ感染症流行の時期に入学した現在の２年生は、池田小児童とのふれあいを経験していない。その点で、両校間で低学年の直接交流の実施を望む声があがった。

課題もいくつか残った。発達の初期段階の児童にとって間接的な交流はねらいがたてにくい、ビデオや貼り絵のやりとりだけでは相手の子どもたちの顔が見えにくい、といった反省を受けて、来年度以降はビデオを渡し合う間接交流にとどまらず、相手児童の声に返事として応えるメッセージビデオを作り合うことも考えたい。反省や来年度への課題は独自で使用している『交流シート』に残し、来年度の参考にしたい。

池田小との交流は、本校児童にとって学年活動という意味合いも兼ねている。本校小学部では児童の実態別の学級編成となっているため、交流時間だけ学級を超えて集合して行うことの日程調整や内容の難しさはあった。しかし学年が進むにしたがい、学年を意識した活動（体験学習、修学旅行、卒業に向けての取り組み等）が増えていくので、１年に１度の交流でも学年が集まって、意識的に交流に取り組むことは大切だと考える。池田小と本校の児童が指導要領の内容や同様の活動を取り入れていることで、同学年という意識が生まれ、互いの児童の記憶に残るよう工夫していきたい。

②新田小学校との交流及び共同学習

ビデオを介しての交流は２年目となり、昨年度よりも双方ともに録画の仕方や、画面への注目などが上手になり、より交流相手を意識して取り組めたことが大きな成果である。また、ビデオからのメッセージだけでなく、本校児童を楽しませようと工夫して作成してくれたおもちゃやゲームの方法、折り紙などのプレゼントを実際に手にすることで、そのものに興味が湧き、交流を実感できる児童も多くいた。

今回、実際に小学校に赴き打ち合わせをしていると、児童の障害や発達に関する基本的な質問が多く聞かれた。この形式では、毎年交流相手校の小学生と担任の先生が替わってしまうが、本校教員が、児童及び先生の小さな質問から教材の工夫点に至るまで、数々の疑問点に応えていくことがとても重要だと感じた。本校教員が橋渡しの役目をすることで、初めて出会う障害のある児童の理解を深め、意義のある取り組み作りにつながると思う。

今年度については、相手校児童へ本校児童の様子や活動の意向を上手く伝えられないグループもあり、希望の取り組みができない場面もあった。来年度以降も新しい児童との連携を丁寧に行い、具体物を使用した分かりやすい交流の時間になるように工夫していきたい。

（２）中学部

第１回目の間接交流では、普段本校生徒が見ることのない「部活動」の紹介をしていただいたので、興味津々に見ている生徒もおり、敷島中学校への感想にも反映していた。

第２回はオンライン交流を実施することができた。事前に教員間で数回リハーサルを行ったので、安心して回線をつなぐことができ、タイムラグなくスムーズに行うことができた。交流の活動に、「質問コーナー」を設けたことで、生徒同士の質問や応答などのやりとりがしやすい状況が設定でき、直接生徒の声を掛け合える交流ができた。

新型コロナ感染症の影響でこの２年間は、ビデオ交流、オンライン交流での間接交流となった。これまで直接交流では全く課題にならなかった個人情報の扱いについては、慎重を期すとともに今後も校内でその取扱いについて再確認する必要があると考える。

（３）高等部

様々な取り組みを行うことで、高校生同士の刺激的な交流となった。展示作品への感想文作りや、ビデオの鑑賞会を学部全体でなく音楽グループごと行うことは、今年新たな取り組みである。前年度よりもさらに活動が広がったが、相手を意識できるような活動内容については、もう少し検討して取り組んでいきたいと感じた。

また、甲府城西高からの発信を受けてではなく、本校から気持ちを伝えようとカードを贈る流れも生徒にとって良かったと感じる。結果的に相手からもカードをいただき交換となった。インターアクト部の生徒の顔、活動の様子などを、文字だけでなく写真などで紹介する事前の取り組みを取り入れると、本校生徒にもイメージしやすかったと考える。来年度には互いに紹介カードを渡し合う取り組みを入れるとより良いと思う。

状況によって直接交流が難しい場合が想定されるが、いずれの活動においても、お互いの顔が見えるような交流を計画・実施していきたい。

Ⅳ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

（１）交流を通して、児童生徒の経験を広げ、自己表現できる豊かな人間性を育てる。

（２）地域社会の方々に、学校や児童生徒の様子を理解してもらい、共に生きていくことの大切さを学び合う場とする。

２　基本方針

（１）交流及び共同学習を計画的、継続的に実施するために、学校や地域の関係団体（関係機関）等の関係者によって構成する連絡組織を設ける。

（２）お互いが共に活動することで、相互理解を深め共生社会の実現の一助となるよう努める。

（３）児童生徒の実態を踏まえ、一人一人が充分に力を発揮でき、成長できる活動が行えるよう創意工夫する。

（４）児童生徒の変容、成長等を把握し、地域の方々にわかりやすく伝えながら、その意義を認め合いかかわりが深まるようにする。

３　交流先

学　　部	地域交流先
高等部	池田地区シニアクラブ連合会女性部
寄宿舎	池田地区シニアクラブ連合会
全学部	池田おやなぎ連　　池田地区文化協会　　新田地区文化協会

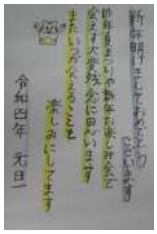
４　実施内容

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
寄宿舎	7/9	池田地区シニアクラブ連合会	月曜在舎生	舎生会活動	うちわ作りと送付
	12 月	池田地区シニアクラブ連合会	月曜在舎生	舎生会活動	年賀状作成と送付
全学部	11/20	池田地区文化協会 新田地区文化協会	全学年	自立活動 図画工作 美術	甲養祭での作品展示

５　地域交流の様子

（１）　寄宿舎

舎生全員でシニアクラブへ向けてうちわを作製し、送付した。うちわを作る時には、iPad で操作できる機器『ロボットボールのスフィロ』を使用し、絵の具の付いたボールを操作しながらで模様を付けた。舎生に昨年度の活動の画像を見せて、うちわをプレゼントしようという動機付けを行い、余暇の時間を使って１週間継続して心を込めて取り組んだ。また１２月には舎生の代表者が、シニアクラブの皆さんに宛て年賀状を書き送付した。



（２）　その他

昨年度同様に、予定していた直接的な地域交流（シニアクラブとの交流会、おやなぎ連）は実施できなかった。

甲養祭での作品交流では、学校間交流を行っている全ての相手校と地域の文化協会の方々から作品を借用し、展示発表を行った。今年度も昨年同様コロナ感染症対策として、規模を縮小して行ったが、地域の方々からは、コロナのために作品発表の場が減ったということで、展示する機会があってうれしいと喜んでおられた。協会員の方々が見学したいという声があったが、展示会場を開放することができないため、展示の様子を写真とメッセージにして送付した。

６　成果と課題

舎生にとっては、地域のシニアクラブの年配の方々と直接会ってふれあい声をかけてもらうことで、離れた年齢の大人と関わっている実感が持ちやすい。うちわには舎生からの手紙を同封し気持ちを伝えたが、なかなか受け取っていただいた後の反応が窺えず、一方的な交流となってしまった。間接的な交流での難しさを感じている。

２年間直接交流を行えていないため、交流行事に参加したことがない、地域の方と会ったことのない舎生が増えてきたことも課題である。

コロナの影響で、シニアクラブ自体の活動も行えていない状況のようで、シニアクラブの方々の活動範囲が狭まり、かつ本校寄宿舎生との関係も希薄になってきていることは残念である。

来年度以降、どういった活動ならば直接会って安心して活動できるのかを探り、シニアクラブの方々との関係を継続していきたい。間接交流を行う場合でも、より実感の持てる取り組みを計画し、実施に向けて模索していく。

Ⅴ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目　的

（１）居住地の児童生徒と相互に理解を深めることを目的とする。

（２）その後の地域における直接的、間接的交流に発展することを目指す。

２　実施児童生徒

学部・学年	交流及び共同学習先校名	備　　考
小学部・１年	甲府市立国母小学校	新規
小学部・２年	甲州市立塩山南小学校	新規
小学部・３年	山梨市立加納岩小学校	継続
小学部・４年	甲府市立甲運小学校	継続
小学部・４年	甲府市立羽黒小学校	継続
中学部・１年	甲斐市立竜王中学校	新規

３　成果と課題

今年度も昨年度同様にコロナ感染症対策として、居住地交流も直接的な交流は避けた。全居住地校へ、対象児童生徒が作成した甲養祭のポスターを送付し、校内に展示してもらえるよう依頼した。その際、本校児童生徒のことを思い出してもらえるように、手紙を添付した。自立活動や図画工作、国語などで自己紹介を書いたり、普段の様子が分かるカードなどを作成したりして渡した。

学校によっては、ポスターを見て、担当教師に甲府支援学校の児童生徒のことを問い合わせてきたり、学級で手紙を返してくれたりした。本校児童がいつかまた学校に来てくれることを願う手紙を書いてくれた居住地校もあった。

今年度新規に居住地校交流を希望してきた保護者とは丁寧に連携をとり、実施を進める予定であった。今年度内に初めて学校に足を踏み入れ、居住地校の児童生徒に知ってもらうことを目標にしてきたが、残念ながら双方の行き来を控える事態となり進めることはできなかった。しかし、担当者間の打ち合わせ実績は残ったので、来年度以降スムーズにいくように引継ぎをお願いする予定である。

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立あけぼの支援学校
所 在 地	〒４０７－００４６　韮崎市旭町上條南割３２５１－１
電話番号	０５５１－２２－６１３１
校 長 名	小田切　一博
交流及び共同学習主任名	谷川　良寿　佐々木陽平

２　学校教育目標

「いきいきと」を校訓とし、教育と医療・福祉が密接に結びついた特色ある教育を実現し、質の高い自立と社会参加に向けて可能性を最大限に引き出す教育を行う。

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

１　交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所属　・　職名　・氏名		備　　考
1	山梨県立あけぼの支援学校　教育振興会会長	山田　七穂	顧問
2	山梨県立あけぼの支援学校　校長	小田切一博	会長
3	韮崎市旭町上條南割地区　代表区長	山本　治男	副会長
4	韮崎市立甘利小学校　校長	千野　　毅	副会長
5	韮崎市旭町上條南割地区　次年度代表区長（湯舟区長）	山本　　信	委員
6	韮崎市旭町上條南割地区　老人会会長	山本　雄次	委員
7	韮崎市福祉課　課長	横森　弘樹	委員
8	富士川町立増穂南小学校　校長	深澤　順美	委員
9	韮崎市立韮崎西中学校　校長	秋澤　英俊	委員
10	北杜市立武川中学校　校長	武持　貴英	委員
11	甲府市立甲府商業高等学校　校長	武藤　秀樹	委員
12	学校法人日本航空高等学校　校長	篠原　雅成	委員
13	山梨県立韮崎工業高等学校　校長	飯島　清二	委員
14	山梨県立あけぼの支援学校　ＰＴＡ会長	佐野さやか	委員
15	あけぼの支援学校　教頭　教務主任　交流及び共同学習係		事務局

２　経過

開催時期	内　　容
６月	一堂には会さず、前年度の地域交流・学校間交流紹介、今年度の地域交流・学校間交流・居住地校交流・交流及び共同学習推進会議開催についてなどの資料を送付し、アンケートにて質問・意見をうかがう。
２月　３日（木）	今年度の地域交流・学校間交流・居住地校交流の活動報告、来年度の交流及び共同学習推進会議についてなど資料を送付。

Ⅲ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

（１）本校の目標

①小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習を通して児童生徒の経験を広め、社会性を育み、豊かな人間性を養う。

②児童生徒のふれあいを通してお互いの存在を理解し、大切にしていこうという気持ちを育てる。

（２）小学部

①同年代の児童との活動を通して、雰囲気を感じて自分の意思や感情を表現することができる。

②日頃の活動を生かした交流及び共同学習を行いながら、お互いの理解やかかわり合いを深める。

（３）中学部

①同年代の生徒との活動を通して経験を広め、また他校の生徒達の考え方等に触れて視野を広げる。

②日常の学習活動や生活とは異なる集団活動の中で、かかわりや刺激を受け止め、生徒自身の意思や感情を表現できるようにする。

（４）高等部

①他校の生徒と活動する機会を通して経験を広め、社会性を育てる。

②同世代の生徒達との活動を通してお互いを理解し合い、他校の生徒達の考え方等に触れることで、自分の生活を振り返る。

③交流及び共同学習会の雰囲気を感じ、他校の生徒からのかかわりに、自分なりの表現で応じることができるようにする。

２　提携校

学　　部	交流及び共同学習提携校
小学部	韮崎市立甘利小学校（５年生）、富士川町立増穂南小学校
中学部	韮崎市立韮崎西中学校（福祉ボランティア委員）、 北杜市立武川中学校（１年生）
高等部	甲府市立甲府商業高等学校（インターアクトクラブ）、 学校法人日本航空高等学校（国際クラブ）
学校全体	山梨県立韮崎工業高等学校（木材加工班）

３　実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	7/2	富士川町立 増穂南小学校	小全員	自立活動 道徳科 特別活動	作品の交換 オンラインによる交流（自己紹介、作品の説明等）
	11/4	韮崎市立甘利小学校 （５年生）	小全員	自立活動 道徳科 特別活動	作品の交換 オンラインによる交流（自己紹介、作品の説明等）
中	7/1	韮崎市立韮崎西中学校 （福祉ボランティア委員）	中全員	自立活動 道徳科 総合的な学習の時間	オンラインによる交流（自己紹介、歌、ゲーム等）
	10/27	北杜市立武川中学校 （１年生）	中全員		オンラインによる交流（自己紹介、歌、ゲーム等）

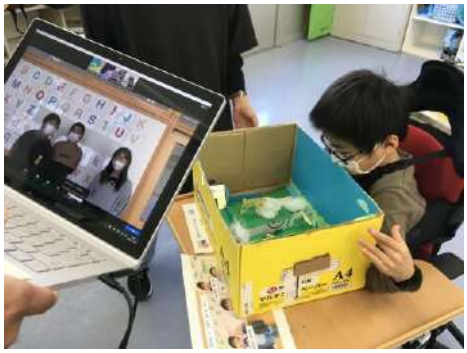
高	６月	甲府市立 甲府商業高等学校 （インターアクトクラブ） 学校法人 日本航空高等学校 （国際クラブ）	高全員	自立活動 道徳科 総合的な 探究の時間	プロフィール票の交換、ビデオレターの交換による間接交流
	12/14	甲府市立 甲府商業高等学校 （インターアクトクラブ） 学校法人 日本航空高等学校 （国際クラブ）	高全員	自立活動 道徳科 総合的な 探究の時間	オンラインによる交流（歌、ゲーム等）
全校	6/23	山梨県立 韮崎工業高等学校 （木材加工班）	対象学部 学年	自立活動 道徳科 特別活動 総合的な 学習の時間	オンラインによるグループ交流（自己紹介、質問タイム等）
	1/17	山梨県立 韮崎工業高等学校 （木材加工班）	対象学部 学年		教材受け入れ式 オンライン交流

４　学校間交流の様子

（１）小学部

本年度の交流も感染症蔓延防止のため直接交流を中止し、間接交流での実施となった。

７月２日（金）に増穂南小全校児童と Zoom によるオンライン交流を行った。きれいな合唱や本校児童へのメッセージ、本の読み聞かせ、劇など、コロナ禍で会えない友達を思う優しさが感じられた。本校児童は、名前を呼ばれると映像をよく見て笑顔になったり、歌に合わせて教師と一緒に体を動かしたり、自分からたくさん質問をしたりして活動をする様子が見られた。１年生の時から交流をしている友達の顔や声に気付いて、とても楽しそうに活動をしている様子も見られた。



１１月４日（木）に甘利小学校５年生と Zoom によるオンライン交流を行った。事前に本校教員が行った福祉講話をもとに、甘利小学校の児童が自分達でおもちゃを考えて作成してくれた。太鼓やマラカスなどの楽器、本校児童の好きなゲームのおもちゃやアクセサリーなど、思いのこもったプレゼントを頂いた。当日のビデオ通話では、甘利小学校児童からのおもちゃの紹介、本校児童からは自己紹介とお礼、おもちゃを使っている様子、友だちへの質問を行った。交流が終わった後も、「〇〇君たちがつくってくれたんだ」「いつか、〇〇君たちと一緒に、このおもちゃで遊びたいな」と言いながら、笑顔いっぱいの表情でおもちゃを使って遊んでいる様子が見られ、おもちゃを通じて交流相手の友だちを意識することができた。甘利小学校の教員からは、「実際に会うことはできなかったが、計画、作成とあけぼのの友達のことをゆっくり考えることができてよかった。」「実際に会いたくなったという児童がたくさんいる。」という言葉を頂いた。直接交流はできなかったが、お互いのことを思いやり、両校児童にとって充実した交流ができた。

（２）中学部

韮崎西中学校１年生から３年生の福祉ボランティア委員会の生徒２６名との交流会は、感染症蔓延防止のため直接交流を中止し、間接交流での実施となった。５月下旬から６月中旬までに主に自己紹介カードの交換をした。本校の生徒は、自分のグループの友達はどんな人か意識して見たり、質問したいことを考えたりする等の様子が見られた。それから７月１日（木）に

オンラインによるビデオ通話を行った。５グループに分かれ、 自己紹介や質問をした後、各グループで考えた「学校紹介〇×クイズ」や「ジェスチャーゲーム」等の共にできる活動を行った。本校の生徒は、特に相手校の友だちからの「好きな授業は何ですか？」等の質問に真剣に答えたり、たくさん質問をしたりしていた。また、各グループで考えた活動でも、双方向でのやり取りを楽しむ様子が多く見られた。

武川中学校の１年生１５名との交流会は、韮崎西中学校と同様に直接交流を中止し、間接交流で実施した。９月から１０月初旬までに主に自己紹介カードの交換をした。それから１０月２７日（水）にオンラインによるビデオ通話を行った。

５グループに分かれ、自己紹介や質問をした。両校生徒共に、和気あいあいとした雰囲気で「好きな歌は、何ですか？」等の質問をきっかけに対話的なやり取りも見られた。その後、 各グループで考えた「学校紹介〇×クイズ」「学園祭の発表動画鑑賞」「しりとり」等の活動をし、両校生徒共にリアルタイムで声を掛け合いながら笑顔溢れる様子が見られた。

（３）高等部

６月の甲府商業高等学校、日本航空高等学校との３校間で行う第１回目の交流会は、感染症蔓延防止のため直接交流を中止し、間接交流に変更した。第１回の間接交流では、毎年交換しているプロフィール表を交換し、本校高等部棟の廊下に掲示をした。また、９月にはメッセージビデオでは相手校の学校紹介ビデオを見たり、本校のあけぼの祭の様子を送ったりした。第２回の交流会も間接交流となり、Zoom を使い３校でオンラインの交流を行った。本校の③④⑤グループは、学習の様子を記録し、動画で発表した。①②グループはあけぼのクイズやイントロクイズなどを交えながら行った。甲府商業高等学校からは、ダンス部の発表があった。軽快な音楽とダンスが流れると画面のほうに視線を向ける様子が見られた。航空高校からは、国際クラブの発表やユネスコのスピーチコンテストの「もし私が世界の問題を一つだけ解決できるとしたら」というテーマで入賞した動画を見ることができた。本校生徒には、その動画を興味深そうに見ている様子が見られた。なかなか聞くことができない国際クラブの普段の活動の様子や日本航空高等学校の留学生の生徒たちの様子を見ることができ、生徒たちにとってとても良い刺激になった様子だった。

（４）韮崎工業高校との交流

韮崎工業高等学校とは、毎年本校の児童生徒が使う教材の製作を通した交流を行ってきた。今年度は、小学部が足台、キャスター付きキーボード台、木枠付きパズル、書見台（中・小）、中学部が移動式棚、高等部が運搬台、コリント台、キャスター付き書見台を依頼した。６月２３日（水）に予定していた授業交流は感染症蔓延防止のため直接交流を中止し、オンラインで両校つないで実施した。両校を３つのグループに分け、自己紹介や質問タイムで盛り上がった。韮崎工業高校の生徒から教材作成の様子を説明してもらったり太鼓の演奏をしてもらったりすると映し出されている画面の方に視線を向ける様子が見られた。本校からはこれまでに頂いた教材の紹介や実際に学習活動に活用している様子を見てもらい感謝の気持ちを伝えた。

１月１７日（月）に教材教具受け入れ式を行う予定だったが、感染症蔓延防止のために急遽中止となった。今回は韮崎工業高校のみなさんにあけぼの支援学校に来校して頂き、校内からオンラインで各グループとの交流を行う予定で計画していたが直前に中止となり生徒達も残念な様子だった。今後教材を受け取ったところでビデオレターなどを考えている。

５　成果と課題

（１）小学部

増穂南小学校とのオンライン交流では、事前学習として初めて本校教員による福祉講話を行った。増穂南小学校に赴き、本校児童の様子や授業内容について話をする中で「どんな勉強をしているか初めて知った」「私たちと同じ国語や算数を勉強しているんだね」という意見があり、もっと本校の児童のことを知りたいとたくさんの質問があった。課題として、学年の差があるため、福祉講話をする際には 1 年生にも伝わりやすい内容にする必要がある。相手校との事前の打ち合わせの中で、「共生」についての内容を多く取り上げてほしいという話が合った。今年度の反省を来年度の福祉講話に生かしていきたい。通信環境面では、多少の音ズレなどはあったが大きな問題はなく実施することができた。

甘利小学校５年生とのオンライン交流では、ブレイクアウトルームを活用したことで、各グループの活動時間を十分に確保することができた。事前の福祉講話をもとに甘利小学校の児童が教材を作成することで、交流相手のことを考える時間が十分に取れたという話を甘利小学校の教員から伺った。また、自分のために作ってくれたおもちゃであったため、どの児童もとても喜んでいた。直接ふれあうことはできないが、互いに声を掛け合ったりおもちゃを通して相手のことを感じたりすることができた。課題としては、本校児童がおもちゃを受け取って終わりという交流にならないように、事前事後学習に力を入れていきたい。具体的には、事前学習で Zoom を使用し、期待感を持てるようにしていきたいと考える。

今年度の交流から、事前学習や相手のことを考える活動、教員の交流に対するねらいの共通理解の重要性を実感した。児童自身が交流に意義を感じ、意欲的に取り組めるように、単なる歌や紙芝居でなく、「〇〇さんと何をしたいか。」「自分たちにどのようなことができるか。」互いに考えたうえで交流する内容を決定していきたい。また、交流のねらいを本校のみでなく相手校の教員とも共通理解をすることで、有意義な交流が実施できると考える。そのねらいの達成のために、活動方法や時間などを双方の教員で考えることで、互いの学校理解にもつながるだろう。今年度実施したビデオ通話による交流は、時間の調整さえできれば、いつでもすぐに交流する相手とつながることができる。この利点を活用することで、お互いの理解を深めたり、豊かな心の育成につなげたりしていきたい。

（２）中学部

韮崎西中学校、武川中学校ともに、実施した間接交流では、自己紹介カードの交換と初めて行ったオンラインによるビデオ通話での自己紹介や質問、ゲーム等でのやり取りを通して、リアルタイムでの他校の同年代の生徒の生き生きとした様子や考えに触れることができた。また、自身の意思や感情を豊かな表情や言葉、身体の動きで表現することもできた。相手校の教員からは、本校生徒があけぼの支援学校の生徒とのオンラインによるビデオ通話での質問のやり取りをとても楽しんでいた等の話を頂いた。相手校の生徒も本校生徒のことを理解してもらう機会となったのではないかと考えている。

今後、間接交流をさらに深める視点で考えると、今年度の間接交流で実施した自己紹介カードの交換を引き続き実施し、相手を理解した上で、オンラインによるビデオ通話を利用したメッセージのやり取りをしたり、両校で考えた共に活動できる内容を行ったりする。その中で、リアルタイムな生徒の反応や感動を共に実感でき、相手への理解を深めることができるようにしていきたい。

武川中学校との学校間交流は、武川中学校が交流教育推進研究校の指定されたことをきっかけに平成２３年に開始された。この１０年間、交流及び共同学習において実践を積み重ね、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことを中心に取り組んできた。これまでの積み重ねにより、武川中学校の生徒には、障害の有無にかかわらず共にこれからの社会をつくる一員として、お互いの存在を認め尊重する態度が育まれた。学校間交流１０年目の節目を迎え、武川中学校との学校間交流は、今年度で発展的に終了することになった。今後は、学校は、共生共学の風土を大切にし、生徒たちは、学校生活及び地域社会での生活において、同じ社会に生きる人間として、お互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことを願う。

（３）高等部

今年度も全２回の交流を間接交流として行った。間接交流は直接交流に比べて、特に重度重複障害の生徒にとっては、見通しを持つことが難しい面もあり、どんな状況になるか心配していたが、いざオンラインで始まると集中して画面の方に視線を向けたり体の動きをとめたりして聞いている様子が見られた。直接的な関わりがない中でも同年代の生徒からのメッセージは何か感じるものがあったのではないかと思う。

特に２回目のオンラインの間接交流では、よりリアルな時間を共有できたことを感じるのか画面上に手を振ったり、コメントをしたりしながら楽しみながら進めることができた。また、本校からの発表はクイズ形式で行い、相手校との交流も和やかな雰囲気を感じることができたのではないか。今回３校でのオンライン交流会を行うことでいつもとは違う生徒の実態を見たり見てもらったりすることができた。本来ならば直接交流が望ましいがことであるが、新たに今年度オンラインでの交流を行い、「互いを知る」という点では、達成できたと思われる。今後も互いに安全に、安心して交流が実施できる内容や方法を相手校とも協力しながら検討していきたい。

（４）全校（韮崎工業との交流）

６月の交流が今年はオンラインでの間接交流となったため、本校の生徒の様子を知ってもらったり相手校の様子を知ったりすることができた。ビデオレターとは違いその場で質問したり、答えたりすることができ、和やかな雰囲気を画面上からでも伝えることができた。昨年度に比べて、オンラインであったが交流できたことはお互いに相手に対しての感謝の気持ちや交流の楽しさを味わうことができた。受入れ式を行うことができなかったが、今後の取り組みとして考えていきたい。

今後、感染症対策をする上での交流がどのような形で行われるのがベストなのか、相手校とも話し合いながら計画していかなければならないと思う。今回行ったオンラインでの交流もいろいろな環境等を整えることで行うことができる一つの方法だと思う。以前のような直接会えることが生徒たちの交流へ意欲につながったことを両校ともに実感していることからも、今後も互いに安心して実施できる方法を検討しながら、交流を継続していきたい。

Ⅳ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

（１）本校の目標

①地域の方々と共に活動する中で、生活経験や対人関係を豊かにし、社会に積極的にかかわろうとする力を育てる。

②地域の方々からのかかわりを受け入れたり、自分からも何らかの表現を返したりして、一緒に活動を楽しむことができるような気持ちを育てる。

③地域の方々の趣味や特技をいかすことで交流及び共同学習や授業をより充実させると共に相互理解を促進する。

２　交流先

学　　部	地域交流先
小学部	旭町上條南割地区の方々及び老人会の方々
中学部	旭町上條南割地区の方々及び老人会の方々
高等部	旭町上條南割地区の方々及び老人会の方々

３　実施状況

新型コロナウイルス感染症感染症蔓延防止のため、今年度は地域交流を実施できなかった。

４　課題

例年、旭町上條南割地区の方々や同老人会の方々のご協力のもと、お楽しみ会やほう

とう作り等の交流活動を実施してきた。異年齢の方々と活動を共にすることで、生活経験や対人関係を広げる機会となり、児童生徒にとって貴重な経験が得られる場であった地域交流が今年度実施できなかったことは、非常に残念であった。

直接ふれあう交流会ではなく、手紙のやり取りなどを通した間接交流の実施も検討したが、例年交流会に来ていただく方々の人選を旭町上條南割地区代表区長様や同老人会会長様にお願いしているため、今年度はどなたと間接交流を行うことができるのかの見当をつけることができなかったことで、間接交流を実施することができなかった。来年度も感染症蔓延防止のために直接ふれあう交流会は実施することが難しい状況があった場合には、どのような方法であれば交流会を実施できるのか、交流会の実施が難しい場合はどのように間接交流を行っていくのかを模索していく必要がある。

Ⅴ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目　的

（１）同年代の小中学校の児童生徒と共に活動することにより、相互理解を深める。
（２）居住地域における交流及び共同学習を通して、日常的な地域での社会参加へ発展させていく。
（３）将来的な視点に立ち、より充実した人間関係の基盤を整える。

２　実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	活動内容
小学部・１年	北杜市立長坂小学校	1	朝の会、国語（ともだちのことをつたえよう）、音楽（合奏）
小学部・３年	北杜市立白州小学校	2	メッセージカードやビデオレターによる間接交流
小学部・５年	北杜市立長坂小学校	2	朝の会、図工、体育
小学部・５年	南アルプス市立白根百田小学校	3	ビデオレターやメッセージカードによる間接交流

３　成果と課題

小学部１年の１名は、朝の会から国語と音楽の授業に参加できた。国語の「ともだちのことつたえよう」の単元では、相手の「いちばんたのしいこと」を聞き出し、文にしてみんなに紹介する活動であった。お互い初対面だったが、楽しく会話ができ、本児も新しい友達ができたと喜んでいた。インタビュー結果をお互い文章にして、後日交換し合うこともできた。音楽では、少人数の日常の学習の中で得られない、大勢での合奏を経験出来て、本児も楽しそうな表情が見られ、その後の音楽の授業にもより意欲的になった。クラスの他の児童も休み時間に積極的にかかわってくれたことで、本児が打ち解けやすく有意義な交流ができた。ただし、本児の活動が相手校の児童にとっても有意義なものとなるためには、日程や学習内容など（特に初回であったので）担任同士の事前の打ち合わせが必須であった。

小学部３年生の児童１名は、「最近のわたし」をテーマに、学校や自宅で取り組んでいることなどの近況を写真とコメントを載せた“掲示できる大きな手紙”にして交流先の学校へ送った。交流校では、児童の目に毎日入るように廊下に掲示してしていくれている。交流校からは、学習発表会の DVD が送られてきて鑑賞した。間接的な交流となったが、交流先の友達のことを考えながら作成・鑑賞する充実した時間となった。

小学部５年生の児童１名は、図工と体育の授業を通して交流及び共同学習を実施した。図工では、「光と影のハーモニー」を行い、班の友だちと一緒に様々なものに懐中電灯で光を当てて、色や影の形の変化を楽しんでいた。体育では、「ボッチャ」を行った。体育で取り組んでいた内容であったため、本人も自信を持って取り組むことができていた。

上手に投げられた時には互いに褒め合ったり、負けた時には励まし合ったりしていた。2年ぶりであったため最初は緊張していた様子であったが、徐々に打ち解けることができた。同年代の地域の小学生との活動を通して、お互いのことをよく知る有意義な交流ができた。

小学部５年生の児童１名は、感染症対策のため間接交流での実施だったが、同年代の友達の学校での様子を知り刺激を得る貴重な機会となった。1回目では昨年度いただいた学校紹介 VTR を見たり、学習したことのレポートやお手紙を読んだりして、お返事の手紙を書く活動を行った。2回目は学校祭や運動会など互いの学校での活動の様子を動画で紹介し合い、3回目はリモートで相手校の授業を参観させてもらう予定である。

今年度は、新規に居住地校交流を実施する児童が１名いた。昨年度に居住地校交流を実施した３名は、引き続き継続して実施することができた。来年度も、感染症蔓延防止に努めながら、さらに居住地校交流実施希望者を増やしていけるように、保護者に向けて情報提供を行っていきたい。また、互いに有意義な交流ができるように児童生徒や保護者の願いを大切にしながら居住地校と丁寧な打ち合わせを行っていき、同年代の小中学校の児童生徒と共に活動することにより、さらに相互理解を深められるようにしたい。

令和３年度交流及び共同学習実施報告書　　山梨県立わかば支援学校

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立わかば支援学校
所 在 地	〒４００－０２２６　南アルプス市有野３３４６－３
電話番号	０５５－２８５－１７５０
校 長 名	荒川　昌浩
交流及び共同学習主任名	横森　奈緒美

２　学校教育目標

たくましい力　ゆたかな心

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

１　交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所　　属・職　　名	備　考
1	南アルプス市教育委員会・教育長	
2	南アルプス市社会福祉協議会地域福祉課・課長	
3	南アルプス市有野南自治会・会長	会長
4	南アルプス市源地区自治会連会・会長	
5	南アルプス市立白根源小学校・PTA 会長	
6	南アルプス市立白根源小学校・校長	副会長
7	南アルプス市立櫛形中学校・校長	
8	南アルプス市立白根御勅使中学校・校長	
9	早川町立早川中学校・校長	
10	山梨県立農林高等学校・校長	
11	山梨英和中学校・高等学校・校長	
12	山梨県立白根高等学校・校長	
13	山梨県立わかば支援学校・校長	

２　経　過

開催月日	内　　容
5 月 26 日（水）	今年度の交流計画について
2 月 2 日（水）	今年度の実施報告及びまとめや次年度の方向性について、感染症拡大防止のため書面開催により協議した。

Ⅲ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

（１）全体

小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習を通して、

①様々な活動を通じて、より豊かな人間性を養い、協調性や社会性を育てる。

②交流提携校の児童生徒に障害のある児童生徒への理解や認識を深めるようにする。

③互いに仲間としての意識をもち、共に学ぶ楽しさを味わうとともに、好ましい人間関係を育てる。

（２）小学部

①お互いの存在を知り合うことができる。

②同学年児童とともに活動する中で、楽しく過ごすことができる。

③友だちを意識し、自分からかかわろうとしたり、かかわりを受け入れようとしたりする気持ちを育む。

（３）中学部

①同世代の生徒との交流及び共同学習を行う中でより豊かな人間性を養う。

②同世代の生徒とのかかわりを広げ、共に学ぶ楽しさを味わう。

③交流提携校の生徒や教師に本校の生徒への理解や認識が深まるようにする。

（４）高等部

①互いの存在を知り合い、同世代の生徒の考え方等にふれることで、同じ高校生としての意識を高める。

②同世代の生徒との活動や作品交流を通して、互いの理解を深める。

③活動を通して、互いの個性を尊重しながら、人とかかわろうとする気持ちを育てる。

２　提携校

学　　部	交流及び共同学習提携校
小学部	南アルプス市立白根源小学校
中学部	南アルプス市立櫛形中学校、南アルプス市立白根御勅使中学校、 早川町立早川中学校
高等部	山梨県立農林高等学校、山梨英和中学校・高等学校、山梨県立白根高等学校

３　実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内　容
小	１０月	南アルプス市立白根源小学校	1	特別活動	作品交流
	１０月		2	特別活動	作品交流

	11 月 26 日（金）		3	生活単元学習	オンラインでの交流
	11 月 26 日（金）		4	生活単元学習	オンラインでの交流
	11 月 8 日（月）		5	生活単元学習	オンラインでの交流
	11 月 8 日（月）		6	生活単元学習	オンラインでの交流
中	7 月 14 日（水）	南アルプス市立 櫛形中学校	1	美術	作品交流
	2 月 7 日（月）			生活単元学習	作品交流、DVD 鑑賞
	7 月 6 日（火）	南アルプス市立 白根御勅使中学校	2	生活単元学習	オンラインでの交流
	12 月 14 日（火）			生活単元学習	オンラインでの交流
	10 月 19 日（火）	早川町立 早川中学校	3	生活単元学習	オンラインでの交流
	6 月 4 日（金）	山梨県立 農林高等学校	1	生活単元学習	オンラインでの交流
高	12 月 9 日（木）	山梨県立 農林高等学校 山梨英和 高等学校	1	生活単元学習	オンラインでの交流
	6 月 25 日（金）		1～3	美術・作業学習	学園祭作品出展
	10 月 21 日（木）	山梨英和 高等学校 山梨県立 白根高等学校	2	生活単元学習	オンラインでの交流
	12 月 20 日（月）		2 1～3	音楽	オンラインでの交流
	12 月 15 日（水）			美術・作業学習	学園祭作品出展
	12 月 15 日（水） ～16 日（木）	山梨県立 白根高等学校	1～3	美術	白根高校作品展示

4　学校間交流の様子

（1）小学部

①１年生

・図工で制作した「コロコロアート」の学年全員の作品を合体させて共同作品『ほしぞら』を完成し、白根源小学校の１年生の教室へ掲示していただいた。

・白根源小学校からは、『くじらぐも』の立体掲示作品が届き、１年生の教室前に掲示をした。廊下を通る度に、教師と一緒に立ち止まって綿で表現したくじらぐもに優しく触れたり、くじらぐもに乗る子ども達の絵を、背伸びをして見たりする様子がみられた。

②２年生

・七夕の学習後、図工の「コロコロアート」で星空をイメージした作品を作り、全員分つなぎ合わせて共同作品にした。白根源小学校２年生に渡し、校内に掲示していただいた。

・白根源小学校からは、『窓をひらいて』の作品が届き、２年生の廊下に掲示した。たくさんの窓があり、開くと様々な絵が描かれていていました。窓を開いて中を見る姿が見られた。

③３年生

・事前学習で、１年生の時の交流の写真を見ながら振り返った。児童の中には、その時のことを覚えている児童もいて、「たくさん友達がいるね」「遊んだね」などという発言があった。
・交流会での「はじめのことば」や「司会」、「感想発表」などの役割を一人一役決めて取り組んだ。リハーサルを行ったことで見通しをもち、当日は緊張した様子も見られたが、それぞれの方法で役割を果たすことができた。

・オンラインでの交流会となったが、白根源小学校の発表をとても興味深く見たり聞いたりしていた。また、わかばの発表として、ダンスに取り組んだ。白根源小学校の友達に見てもらったり、感想を聞いたりすることができて、嬉しそうな様子が見られた。

④４年生

・事前学習で交流の日時や内容について学習し、白根源小学校の友達の写真を掲示した。リモートでの交流であることを理解することは難しく、わかばに来てくれることを期待している児童もいた。

・白根源小学校の発表『ソーラン節』とリコーダーの生演奏『パフ』をよく見ており、画面の近くに行って覗き込むように見る児童もいた。
・わかばがダンスの発表をした後、白根源小学校の友達も一緒に踊り、いつもとは異なる雰囲気を感じながらどの児童も楽しく体を動かしていた。

⑤５年生

・事前学習として白根源小学校の場所やこれまでの交流の様子、オンライン交流の日程などを知る活動を行った。児童はわかばから白根源小学校までの距離に注目したり、日程を確認して期待感をもったりしている様子だった。
・オンライン交流当日は、白根源小学校の児童の自己紹介と録画の楽器演奏を見せていただいた。オンラインで聞き取り辛い部分や、見にくい部分もあったが、児童は画面に注目することができていた。

・わかばからは音楽で学習した身体表現の「ぶらぶら星人」を手に装飾をつけて披露した。何度も踊っていたので自信をもって取り組むことができていた。２回目には、白根源小学校の友達にも声をかけ、画面越しに一緒にぶらぶら星人を踊ったので楽しそうな様子が見受けられた。

⑥６年生

・事前学習で、これまでの学校間交流の様子や白根源小の６年生の集合写真を見たりしたことで、児童から「交流」という言葉が出た。積み重ねてきたものの成果がみられた。

・交流当日は、スクリーンに映る白根源小の友達や録画されたダンスの発表に注目したり、カメラに向かって手を振ったりと、リモートでも相手を意識することができた児童もいた。

・本校児童の中には、白根源小の６年生の笑い声が聞こえてきたり反応があったりすることが嬉しいようで、何度も自分の顔を映してやりとりをしようとしていた。

（２）中学部

①１年生：櫛形中学校との交流

７月に事前学習として、櫛形中学校とわかば支援学校の違いや同じ所について映像を見ながら学習した。自己紹介カードを作って相手に渡すことで交流に対しての期待を高めることができた。７月に間接交流として、櫛形中学校から手作りのパズルを１人１つずついただいて、授業で楽しんでからお礼や感想のメッセージカードを作って渡した。パズルは流行りのアニメやキャラクターが描かれており、組み立てる際には、生徒たちのうれしそうな表情が見られた。また、わかばで行われた学習発表会の様子と櫛形中学校の学園祭の様子をDVDにして交換し、２月に鑑賞して感想を交換する予定になっている。

②２年生：白根御勅使中学校との交流

７月６日と１２月１４日と２回交流を行った。白根御勅使中学校の体育館と本校音楽室や視聴覚室とをつないで、大きな画面を通してオンライン交流を行った。２回ともお互いの学習発表とゲームを行った。１回目はわかばからは６月の林間学校で各クラス発表したスタンツを、中学校からはダンスを披露していただきお互いに大きな拍手を送り合った。２回目はわかばからは学習発表会の内容を発表し、中学校からは合唱を発表していただき、その迫力に生徒たちが圧倒されている様子が見られた。他にも〇×クイズを行った。相手校の生徒が画用紙にクイズを書いたものを画面に見せながら出題すると、本校生徒全員が〇か×かを表現し、正解が出されると、「やったー！」「はずれた！」と大きな歓声を挙げていた。本校からの質問コーナーでは、好きなアニメは何かといった質問に、丁寧に中学生が答えてくれて、とても満足そうな表情を浮かべていた。

③３年生：早川中学校

１０月１９日、早川中学校１・２年生１２名と本校中学部３年生２５名とで、オンラインでの交流を行った。質問タイムでは、各校の生徒たちがお互いの学校や生徒たちに聞きたいことを質問し、答え合った。自分たちが考えた質問に実際に答えてもらえると、生徒たちは喜び、興味深く早川中の生徒たちの話を聞いたり、口々に感想を言ったりしていた。クイズタイムでは、お互い１問ずつクイズを出し、答え合って大いに盛り上がった。感想発表では、「クイズが楽しかった」「コロナが収束したら会いたい」「楽しい時間をありがとう」といった気持ちを伝えることができた。短い時間ながらも、お互いに充実した時間を過ごすことができた。

（３）高等部

①１年生：農林高等学校との交流

６月５日と１２月９日にオンラインで学校間を中継し、間接交流を２回行った。１回目では、農業クラブからは、学科や学校の施設の紹介、本校からは学年目標、作業班紹介、第２校歌を振り付きで紹介した。生徒たちは、映像を興味深く見ていた。また施設や学習の内容に刺激を受けた生徒もいた。同年代の生徒の様子を知ることができ、充実した時間だった。２回目の交流では、学年委員が内容を考え、事前に農業クラブとリモートでの打ち合わせを行い、互いの提案について話し合うことができた。農業クラブからは、実物しりとり、○×クイズ、ジェスチャーゲーム、本校からは、ボッチャ、ペットボトルフリップ、フライングディスクを提案し、１２月９日にオンラインで「わか林ピック」と題して交流会を行った。互いの学校で事前に準備をし、本校ではクラスで協力しながら実物しりとりの準備をしたり、役割を決めたりして準備の段階から楽しく取り組むことができた。当日は、相手の生徒や本校の友だちの応援をしたり、本校のマスコットキャラクターの「わかばちゃん」も登場したりして大いに盛り上がった。前回に比べ生徒たちが打ち解けていた印象だった。また、本校からは、メッセージを農業クラブの生徒に届けた。

②２年生：山梨英和中学校・高等学校との交流

6 月に行われた作品交流では、本校の美術や作業学習で制作した作品を山梨英和中学校・高等学校の学園祭に展示した。大勢の生徒の皆さんや来場した方々に観ていただき、感想も送っていただいた。

10 月の代表交流会では、本校高等部 2 年の学年委員と山梨英和中学校・高等学校の生徒会の皆さんと、オンラインによる交流が行われ、それぞれの学校の様子を伝え合った。質問コーナーでは、両校のやり取りの中で、はじめ緊張していた生徒たちに笑顔が見られるようになった。30 分間という短い時間ではあったが、他校の生徒とかかわりをもつ貴重な時間となった。

12 月の交流会では、本校の高等部 2 年生全員と、山梨英和高等学校の聖歌隊の皆さんとオンラインによる交流を行った。体育館のスクリーンに映し出されるハンドベル演奏の様子に釘付けになり、音が重なり合って奏でる音色に魅了されている生徒が多く見られた。「クリスマス　フェスティバル」「Let it go」など、なじみのある曲が多く、体を揺らして楽しんでいる生徒もいた。本校からは、音楽の授業で取り組んだ「WA になって踊ろう」のダンスやカップス演奏をグループごとに発表した。また、学習発表会で取り組んだ「足音ダンス」を山梨英和高等学校の聖歌隊の皆さんと一緒に踊った。スクリーンを通してではあったが、合同で取り組む楽しさを感じ取ることができたようだ。

各クラスで聖歌隊の皆さんにお礼のメッセージを書いた。折り紙でサンタクロースや花などを作って飾ったり、好きなシールを貼ったりして色画用紙にまとめ、英和高等学校に送った。

③白根高等学校との交流（作品交流）

ア　白根高等学校学園祭への作品展示→中止

白根高校学園祭では行えなかったが、12月16日（木）～12月17日（金）に白根高校で作品展示を行った。本校高等部の美術作品や作業班で作った製品を展示させてもらい、活動の様子を知っていただく良い機会となった。

イ　白根高等学校の作品展

12月15日（水）、16日（木）本校美術室において、白根高校の美術部、写真部、書道部の作品展示を行った。「一人一人の絵がとても上手で、すごいなと思いました」「絵が立体的で、さらに迫力があって芸術的でした」など多くの生徒から感想が集まった。展示会場が密にならないよう見学時間を割り振り、短時間であったが、同世代生徒の作品を鑑賞して良い影響を受けている様子が見られた。

５　成果と課題

（１）小学部：白根源小学校との交流

①　１年生

・直接交流やリモートでの交流が感染症や児童の実態からできなかったため、顔を合わせることはできなかったが、作品を送り掲示することで作品に興味や関心をもって見ることができて良かった。

・本年度の学校間交流としては、感染症の状況や児童の実態から考えると、作品交流は適切だった。

・来年度、感染症が落ち着き通常の生活に戻った場合は直接交流が行えると良い。感染症が継続する場合は、作品交流に加え、紹介カードを交換することもできると良い。

②　２年生

・作品交流でお互いの作品を各校に飾ることができ、興味をもって見ることができる児童がいて良かった。

・コロナ禍での学校間交流としては、作品交流は良かった。

・学校間交流をするなら、直接交流することが望ましい。コロナの状況が落ち着いたら行えると良い。

③　３年生

・オンライン交流として、自己紹介や、それぞれの発表を、画面を通して行った。源小学校の友達の反応や、発表を興味深く、集中して見ている児童が多かった。

・オンラインだったため、音声や動画の不具合が出てしまうことがあった。途中で途れてしまい復旧に時間を要する場面もあった。

・オンラインでもお互いの学校の様子を知ったり、発表を楽しんだりすることができた。交流会後には「今度は来るの？」などという声が聞かれ、会えることに期待する児童もいた。来年度は、感染症対策を取りながら、可能な範囲で直接交流ができると良い。

④　４年生

・画面越しではあるがお互いの顔が見え、学校で取り組んでいることなどの様子が分かって良かった。

・教室に暗幕がなく明るかったこともあり、画面が見づらかった。教室で行うのであれば窓に段ボールを貼るなどしてある程度暗くする工夫をした方が良かった。

・画面を通しての活動は分かりづらい児童や、反応が相手に伝わりづらい児童もいるので、可能であれば直接交流できると良い。難しければ、お互いを意識できるような内容を工夫してオンライン交流ができたら良い。

⑤　５年生

・事前学習の際に、今年度５年生が育てたひまわりの種をプレゼントするために袋詰めを行い、オンライン交流前に源小学校に届けた。事前にプレゼントを届けたことで当日画面越しに届いたことを見せてもらうことができ、生活単元学習で学習した「しごと」（郵便屋さ

ん）と関連付けることもできた。オンラインだからこそ、見ることができた。
・直接会えなかったが、各クラスをつないで落ち着いて交流を行うことができたので良かった。
・オンラインでは一人一人の顔までは見ることが難しかった。また、どうしても聞き取り辛い部分や見にくい部分もあったので、直接交流が行えると良い。

⑥　６年生
・６年生はどちらも人数がそれほど多くなかったので、全員の顔を映したり発言をしたりすることができた。小学部最後の交流だったので、そういった機会があって良かった。
・やりとりをするということに関しては、オンラインでは相手の反応や表情が見づらいこともあり難しかったが、普段の環境下で交流ができたことで落ち着いて自分たちの発表をすることができた。
・本学年は白根源小に伺うことができなかったので、児童によっては白根源小も山梨県にあることに驚いていた。学年の実態にもよるが、年２回の交流をどちらの学校で実施するか決められるようにできるとよいのではないか。

⑦　小学部全体として
低学年は作品交流、中学年以降はオンライン交流を行った。低学年は児童の実態や感染状況をふまえると作品交流が適切であった。中学年以降は昨年度の間接交流とは異なり、画面越しではあるが実際に白根源小学校の友達の顔を見ながら交流することができて良かった。普段の環境の中で落ち着いて活動することができ、学校で取り組んでいることなどをお互い知ることができた。しかし、オンラインではお互いの表情や反応が伝わりづらい面があるので、来年度は感染症対策をとりながら直接交流ができる実施方法を模索していきたい。

（２）中学部
①１年生：櫛形中学校との交流
・今年度は直接会うことができなかったが、映像や自己紹介カードを用いて、お互いのことを知ることができて良かった。
・手作りのパズルを１人１つ作っていただいたことで、個人で何回でも楽しむことができ、また感染症対策もとることができ、とても良かった。
・事前学習を通し、ねらいを理解し見通しをもって活動に参加することができた。

②２年生：白根御勅使中学校との交流
・初めてのオンライン交流だったが、お互いの様子がよくわかり、楽しんでいる様子だった。
・事前学習を通し、ねらいを理解し見通しをもって活動に参加することができた。
・白根源小学校から進学した友だちの様子を知ることを楽しみにしていた生徒がおり、とても積極的に参加していた。
・直接交流できるのが一番良いが、状況を踏まえ、このような交流でも有意義であると思われる。

③３年生：早川中学校

・直接会って交流することは難しかったが、学校紹介ではオンラインではあったものの、早川中学校の様子がとてもよく分かった。生徒たちもとても興味深い様子だった。

・質問タイムやクイズタイムで、お互いに言葉でのやりとりができ、大いに盛り上がって良かった。

（３）高等部

①１年生：農林高等学校との交流

・新型コロナウイルス感染症の影響で直接交流ではなく、オンラインでの間接交流だったが、互いに学校紹介をし、多くの生徒は集中して映像をよく見ており、提携校の様子などを知ることができた。

・２回目では、生徒同士が事前に内容を検討し合って交流会を計画したため、生徒主体で活動を進めることができた。前回に比べ生徒たちが打ち解けていた印象があった。

・生徒一人一人に役割があり、体を動かすゲームだったので親しみやすい活動となった。

・Zoom によるオンライン交流を行ったが、画像の乱れもなくスムーズに行うことができた。

・以前のような直接交流ができると良いが、今回のようなゲーム等の内容でも、両校の生徒が計画から参加することで充分目的が達成できると感じた。

・田植え等ができなくなった中で農林高校でも物作りを行っているので共通要素を入れて行うと良いと感じた。

②２年生：山梨英和中学校・高等学校との交流

・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、直接交流は行わず、オンラインによる交流を行った。代表交流会では、事前に交流担当の教師と内容や質問について打ち合わせをしておいたため、スムーズに話し合いができた。早めに進行できたため、追加でその場で考えた質問や応答をする時間があり、オンラインならではの良さがみられた。

・山梨英和高等学校聖歌隊と高等部 2 年生全員による交流会もオンラインで行った。Zoom によるリモートで、ハンドベルの響きが届くか心配があり、事前に試行を 2 度行った。設定を変えることで、響きが出るようになり、当日もマイクを通しても体育館で音が重なり合って響く演奏を聴くことができて良かった。

・ハンドベル演奏を初めて聞く生徒が多く、オンライン交流ではあったが、鑑賞の機会をもつことができ、有意義であった。また、同世代の他校の生徒との交流ができ、英和高等学校の生徒の話し方などに感化され、頑張ろうとする生徒も見られて良かった。

・前年度に交流の方法や日程を決めてあったため、担当が変わってもスムーズに話を進めることができてよかった。来年度のことについても互いに連絡を取り合い、今年度中に日程や方法を決めておくと良い。

・オンライン交流は無料の Zoom で行った。パソコン３台の使用で 40 分という制限時間があったため、途中で切れてしまう心配があり、休憩中に一度リモートを切り、ID を入れ直す作業が必要となった。来年度もオンライン交流で行うようであれば、県立校以外の提携先とのオンライン交流の環境を整えていく必要がある。

③白根高等学校との交流（作品交流）

ア　白根高等学校への作品展示

・今年度も白根高校の学園祭には展示せず、１２月１６日（木）～１２月１７日（金）に行った。学園祭で展示となると、生徒たちも忙しく落ち着いて鑑賞できないが、時期をずらしたことにより、ゆっくりと作品と向き合う様子が見られたので、来年度も今年度と同様の時期で展示すのがよい。

イ　白根高等学校の作品展

・本校での白根高等学校生徒の作品展示は、美術室を会場とし、密を避けるため、見学時間を割り振って行った。間接的な交流ではあるが、他校の生徒の作品を見学し、活動を知る貴重な機会となった。

・同世代が作った作品ということを意識しやすいように、来年度は作品とともにお互いの紹介動画を送り合い、掲示していくことを検討したい。

（４）今年度のまとめ

昨年度は感染症拡大予防のため、学校間交流は間接交流のみとなった。今年度は、一歩進めて『オンライン交流』に初めて取り組んだ。同じ時に画面を通してその場で顔を見ながらやり取りができることで、『つながっている』『同じ活動に取り組んでいる』ことが実感できた。どの団体も短い時間ではあっても、充実した時間を過ごすことができたと反省に挙げられた。お互いに学習していることをその場で発表したり、動画を共有して同じものを見たりして、どのような学習をしているのか理解し、レクレーション的な活動でお互いの距離を縮め、一緒に楽しむことができたのは発見であった。来年度以降、このような形を継続しつつ、感染症の状況を見ながら、交流の方法を模索しつつ、直接交流が少人数で少しでもできたらと考える。

Ⅳ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

（１）全体

本校児童生徒と地域の人々とのふれあいを通し、互いを理解し、共に学ぶ。

（２）小学部

①地域の人々とのかかわりを通して生活経験を広げる。

②地域の人々と一緒に楽しく活動することができる。

③自分からかかわろうとしたり、受け入れようとしたりする気持ちを育む。

（３）中学部

①地域の人々とのふれあいを通して互いを理解し、伝統や文化などにふれる。

（４）高等部

①活動を通して、地域への関心を高める。

②地域の年長者の考え方にふれ、相手を敬う気持ちを育てる。

（５）寄宿舎

①地域社会の人々と共に活動することにより、相互理解を深める。

②地域社会の人々を尊重する気持ちを育て、社会参加への意識を高める。

２　交流先

学　部	地域交流先
小学部	南アルプス市立白根源小学校 PTA
中学部	南アルプス市福祉協議会所属のボランティア団体
高等部	南アルプス市福祉協議会所属のボランティア団体
寄宿舎	山梨県立白根高等学校奉仕部 菊乃扇の会 南アルプス市有野区

３　実施状況

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内　容
小	12 月 8～10 日	白根源小学校 PTA	全学年	特別活動	作品展示
中	7 月 14 日～ 7 月 31 日	南アルプス市福祉協議会所属のボランティア団体	２、３年	特別活動	作品展示
高	7 月 15 日(木)	ジット会たいよう	3	生活単元学習	オンラインによる交流
全校	2 月下旬	有野区	全学年	特別活動	文化祭への作品展示
寄宿	7 月 7 日（水）	白根高校奉仕部	全学年	余暇活動	オンラインでの交流
	12 月 8 日（水）			余暇活動	少人数の直接交流またはオンライン
	2 月	菊乃扇の会、有野区		余暇活動	お便りを出す

４　地域交流の様子

（1）　小学部：白根源小学校 PTA との交流

１２月８，９，１０日の三日間、白根源小学校の個別懇談期間中、例年交流をしていただいている白根源小学校の保護者に本校の作品を観ていただいた。３年生以上の保護者の方は本校の児童と直接交流をされている方も多く、交流した時のことを思い出したり、作品から成長を感じたりしていただいた様子だった。作品を見ていただいた保護者の方々から「わかばのみなさんが、一生懸命作った姿が目に浮かびます。」「この作品を作ったすてきな子どもたちに、また会いたいです。」など、たくさんの感想をいただいた。今回の作品展示は保護者の方が対象だったが、白根源小学校の児童の皆さんも休み時間を利用して見に来てくれたのはとてもありがたかった。

（２）中学部：社会福祉協議会ボランティアグループ

７月１４日（水）から３０日（金）の間、旧若草健康センターにて、中学部２，３年生の作品を展示させていただいた。

個別懇談期間だったこともあり、保護者から、「生徒と観に行ってきました！」とうれしい報告があった。また、社協だよりや社会福祉協議会のフェイスブック等で広く呼び掛けて下さったこともあり、以前本校に勤務していた教員も観覧したとの報告もあった。感想カードには「空間に絵があるって良いな。やさしい気持ちになるな。絵の前を通るたびに思います」といった温かいメッセージもあり、地域の方々に本校生徒の作品を広くみていただくことができた。

（３）高等部：ジット会たいようとの地域交流

７月１５日（木）に、ジット会たいようとオンラインでの地域交流を実施した。ジット会たいようの職員の方とジット会たいようで働く本校の卒業生３名と、お互いの紹介をし合った後、生徒が仕事や卒業後の生活について質問し、答えていただいた。それぞれの質問に対して、先輩の実体験や学生の頃を振り返りながら答えていただき、生徒は熱心に聞き入っていた。質問の後はジット会の社歌である「We are the Jit」のダンスを踊り、全員が楽しい時間を過ごせた。交流会の最後に SDG s の学習の一環でペットボトルのキャップで作成したジットのロゴと「わかばちゃん」が描かれた看板を披露した。事後学習としてお礼状とともに看板をジット会たいようにに届けた。また、ジット会たいようからはマスクをいただいた。

（４）寄宿舎

①白根高校奉仕部

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、直接交流は行わずオンラインで学校間を中継し、学校紹介やレクリエーションを行う間接交流を７月と１２月の２回行った。

第１回の交流では、事前学習として白根高生の自己紹介の動画を観て、交流に向けての意識を高めた。当日は、お互いの学校の学校紹介の動画を観て、白根高生が考えてくれたクイズに答えた。画面に向かって手を振ったり、リモートでも相手を意識することができた舎生もいた。

第２回の交流では、お互いにクイズを出し合った。わかばからは、事前にグループごとに考えた問題を出題した。大きな声で話をしたり、身振りで伝えるなど、積極的にかかわろうとする姿がみられた。わかばからの質問タイムでは、白根高生が丁寧に答えてくれて、とても嬉しそうな様子がみられた。舎生からは、「リモートだけど交流ができて良かった」「来年は直接会いたい」という感想も聞かれた。

②有野区・菊乃扇の会

新型コロナウイルス感染症拡大のため、交流は中止となった。

５　成果と課題

（１）　小学部：白根源小学校にて作品展示

今年度は白根源小学校の懇談期間にわかばの児童の作品を展示させていただいた。保護者に観ていただけたのに加えて、源小学校の児童にも観る時間をとってくださり、観てもらえた。また、温かい感想を保護者からいただき、わかばの児童に伝えることもできた。間接交流ではあるが、１つの交流の形だと思われる。来年度以降、今年度のやり方を継続しつつ、感染症の状況を見ながら、源小の保護者に本校に来校していただく機会が設けられると良い。

（２）中学部：社会福祉協議会にて作品展示

昨年度は感染症対策のため、実施することができなかったが、今年度は南アルプス市社会福祉協議会に協力していただき，本校の作品を展示させていただいた。このような状況の中でもできることを広く地域の方々に本校の作品をみていただくことができて良かった。来年度も引き続き作品交流を行うとともに、感染症の状況にもよるが、以前のように少人数の方に来校していただき、直接交流する機会がもてると良い。

（３）高等部：ジット会たいようとのオンライン交流

今年度初めてジット会たいようとの交流を行った。本校の卒業生の進路先にもなっており、3 年生という時期に現場の先輩の話を聞けたことは貴重な機会となった。また、共通に取り組んでいる SDGｓに関しても活動に取り込めたことはよかった。軽快な曲調の社歌でのダンスを活動に取り入れたが、音楽は多くの生徒に親しみやすく、提携先とも楽しい時間を共有できた。

（４）寄宿舎

①白根高校奉仕部

・オンライン交流は初めての取り組みだったが、画面を通して声を掛け合ったり手を振ったりするなど自然なやり取りがあり、同年代の仲間と楽しい時間を過ごすことができた。
・事前にオンライン交流のリハーサルを担当者間で行うことで、当日はスムーズに進行することができた。
・オンラインでは、お互いの表情や反応が伝わりにくいため、来年度以降は感染症対策をとりながら、直接交流ができると良い。

②有野区・菊乃扇の会

・次年度の交流内容について、感染症対策を踏まえながらどのような内容で行っていくのか関係団体と相談しながら計画をたてていきたい。

（５）今年度のまとめ

昨年度はすべての地域交流を中止したが、今年度は間接交流という形で取り組むことができ、大きな前進となった。小学部、中学部は直接的な交流はできなくても、作品を見ていただくことで、本校の児童生徒のことを知っていただく機会となったことはとても大きな意義を感じている。高等部は、ジット会たいようとオンライン交流を行い、画面を通して職場で働く方々の話を聞くことができ、貴重な経験となった。

卒業後は地域の方々に支えていただく本校の児童生徒である。地域の方々との交流活動には、長い時間の積み重ねがあり、その中で児童生徒の成長を見守っていただいており、共に活動することを通して、マナーや人とのかかわり方を学ぶ機会となっている。こうした活動は社会に出て生活していくための力につながっている。今後も児童生徒の交流活動の目的やねらいを明確に伝えながら、地域の方のお力をお借りして、進めていきたいと考えている。

Ⅴ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目　的

（１）居住する地域の同年代の児童生徒と共に学び、好ましい人間関係を築く。

（２）交流及び共同学習を通して、地域の児童生徒やその保護者、教職員の本校児童生徒への理解が深まるようにする。

（３）将来居住する地域の一員として豊かに生活していくための基礎をつくる。

２　実施児童・生徒

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施内容
小学部・１年	昭和町立押原小学校	0	２学期に実施の予定だったが、中止
小学部・１年	南アルプス市立 南湖小学校	2	２、３学期に実施 相手校の児童が出迎えてくれて教室まで連れて行ってくれた。保育所が同じだった児童が代わる代わる話しかけてくれた。 音楽の授業に参加した。音楽に合わせて笑顔で体を揺らしたり声を出したりと楽しんでいる様子だった。
小学部１年	南アルプス市立 小笠原小学校	1	２学期に実施 誕生日会とグラウンドの遊具遊びを行った。初めてだったため緊張していたが、周りの友達の様子を見たり声をかけてもらったりして自分なりに参加することができた。プレゼントを受け取ると嬉しそうな表情が見られた。休み時間は友達と平均台

			鉄棒で遊んだ。交流終盤は緊張が解け、笑顔や言葉が増えてきた。
中学部１年	北杜市立明野中学校	1	２学期に実施予定
中学部１年	甲斐市立敷島中学校	1	手紙や作品のやりとり等
中学部１年	北杜市長坂中学校	0	２学期に実施の予定だったが、中止
中学部１年	北杜市立須玉中学校	0	２学期に実施の予定だったが、中止
小学部２年	甲斐市立双葉西小学校	1	１１月に実施 １回目は、校歌やダンスでの歓迎を受け、和やかな雰囲気の中で緊張しすぎることなく、自然に授業に参加することができた。休み時間には、進んでトイレや遊びに誘ってくれる子たちがおり、校庭で一緒に遊具を楽しむことができた。図工の粘土では料理を作り集中して取り組んでいた。音楽のリズム遊びでは、打楽器演奏で４人グループになり、鈴を選んで演奏した。もう一回したいとアンコール発表をリクエストして繰り返し発表していた。体育では、かけっこ、ボール送りをした。周囲の児童らが温かく見守り、同じチームの児童らが本校児童の気持ちを汲み取って、やさしく接している様子が見られた。
小学部３年	甲斐市立双葉東小学校	1	相手校で交流会を企画してくださった。レク活動でビンゴなど、お互いの交流を図った。終始リラックスして楽しんでいる様子だった。
小学部５年	昭和町立西条小学校	1	教室前に同級生が待機し大歓迎してくれたことで、始めから落ち着いて笑顔が見られ、早く教室に入りたい様子だった。図工は教師の支援を受けながら一緒に作品を作成することができた。子どもたちからたくさん声をかけてもらい、嬉しそうに活動していることが多かった。
小学部６年	中央市立三村小学校	1	手紙や作品のやりとりを行った。
中学部２年	韮崎市立韮崎東中学校	1	中学校の合唱祭に参加した。はじめは緊張からか戸惑っている様子が見られたが、友達に話しかけられると、とてもうれしそうな表情に変わり、そのうちに友達の名前を思い出して口にする場面も見られた。普段は独り言や歌を歌ってしまうことが多い

			が、事前に話しておいたことや、その場の雰囲気を感じて、合唱を静かに聞くことができた。
中学部２年	北杜市立泉中学校	1	体育館でレクに参加した。ドッジボールでは、『王様ドッジボール』と称し、わかばの生徒の周りを相手校の生徒が守りながらドッジボールを行った。ハンカチ落としでは、ハンカチを落とされなかったことになかなか気づかないわかばの生徒の手の中にそっとハンカチを入れて教えてくれる場面もあった。感想発表ではなかなか話せないところを優しくフォローしてもらったり文字を書いたりして感想を発表することができた。
中学部３年	北杜市立泉中学校	1	手紙の交換
中学部３年	昭和町立押原中学校	1	手紙の交換
中学部３年	北杜市立小淵沢中学校	0	学園祭に参加の予定だったが中止
中学部３年	南アルプス市立 櫛形中学校	1	手紙の交換
中学部３年	南アルプス市立 櫛形中学校	1	手紙の交換

３　成果と課題

今年度は昨年度より保護者や児童生徒からの希望が大幅に増えた。感染症拡大のため中止になったり、手紙や作品を通しての間接交流となったりしたものもあったが、いくつかの学校では直接交流を実施でき、とてもありがたかった。

継続の児童生徒は今までの積み重ねもあり、１年ぶりではあってもすぐにお互いに打ち解け、相手校の授業や行事に参加しながら自然な交流を行うことができた。今年度新規の交流も多かったが、相手校の児童生徒からたくさん声をかけてもらうことで、本校の児童生徒も緊張が解け、とても温かい交流をすることができた。コロナ禍の昨今ではあるが、感染症対策を徹底し、直接交流できることは相手校の児童生徒にとっても本校の児童生徒、保護者にとっても、今後地域とつながっていくために、とても有意義であった。

令和３年度交流及び共同学習実施報告書　山梨県立わかば支援学校ふじかわ分校

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	わかば支援学校ふじかわ分校
所 在 地	〒４００－０６０１　南巨摩郡富士川町鰍沢５６７３－１２
電話番号	０５５６－２７－００６７
校 長 名	荒川　昌浩
交流及び共同学習主任名	中込　由紀

２　学校教育目標

たくましい力　ゆたかな心

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

１　交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所　属・職　名	備　考
1	富士川町教育委員会　教育長	
2	富士川町社会福祉協議会　事務局長	
3	富士川町中部区　区長	
4	鰍沢奉仕活動の会　会長	
5	下部地区民生委員児童福祉部　会長	会　長
6	社会福祉法人くにみ会　ゆあーずあんどゆうず　施設長	副会長
7	中部区活性化プロジェクト　代表	
8	富士川町立鰍沢小学校　校長	
9	富士川町立鰍沢中学校　校長	
10	わかば支援学校　校長	
11	わかば支援学校ふじかわ分校　副校長	

２　経過

開催月日	推　進　会　議　の　内　容
５月２７日(木)	運営要綱、役員選出、事業計画、意見交換
２月	紙面にて本年度の交流及び共同学習について報告、来年度に向けて

Ⅲ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

小学校、中学校との交流をとおして

（１）　様々な活動をとおして、より豊かな人間性を養い、協調性や社会性を育てる。

（２）　互いに仲間としての意識を持ち、ともに学ぶ楽しさを味わうとともに対等な人間としてお互いを尊重しあう態度を養う。

２　提携校

学　部	交流及び共同学習提携校
小学部	富士川町立鰍沢小学校
中学部	富士川町立鰍沢中学校

３　実施状況

学部	月　日	提携校	実施学年	教科等区分	実施内容
小	１学期	富士川町立鰍沢小学校	全学年	特別活動	間接交流：自己紹介カード・諸活動の DVD を交換
	１１月３０日(火)			あそびの指導	お店屋さんごっこ(輪投げ、射的、ボウリング)
	１１月　６日(土)			特別活動	分校まつりでの間接交流中止
中	１学期	富士川町立鰍沢中学校	全学年	生活単元学習	間接交流：自己紹介カード・作品の交換
	２学期				間接交流:学習活動の DVD を交換
	１１月　６日(土)			特別活動	分校まつりでの間接交流中止

４　学校間交流の様子

（１）小学部

１学期に予定していた１回目の交流は残念ながら直接的な交流は中止となったが、自己紹介カードや DVD を交換して間接交流を実施した。自己紹介カードは廊下に貼り、いつでも見られるようにすることで顔を少しずつ覚えることができた。２回目は１１月３０日にこちらから相手校の鰍沢小学校に行き、２年ぶりに直接交流として１４名の５年生児童と交流を行うことができた。久しぶりに校外へ出ての活動となった分校の児童はとても嬉しそうで積極的に交流することができた。少し早く着いて体育館へ入ると、分校にはないステージが気になり、ほとんどの児童が大きなステージに上がり、それぞれ何かしら表現する様子が見られた。そういう時間があったおかげか、緊張することなく交流を始めることができた。鰍沢小学校５年生１４人は、輪投げ、ボウリング、射的の３つのお店を手作りで用意してくれ、

分校の児童９名と（１１名中２名休み）合同の３班に分かれ一緒に活動した。射的ではゴム鉄砲のゴムの付け方、ボウリングではボールの転がし方を教えてくれたり、輪投げでは新聞紙の輪を一つ一つ手渡ししてくれたりと微笑ましい交流が自然とできていた。少人数だったからか、和やかに相手の児童もとても積極的にかかわることができていて、大満足の学校間交流ができた。

（２）中学部

鰍沢中学校の１年生との交流は、新型コロナウイルスのため今年度も直接的な交流は中止となった。１学期はお互いの自己紹介カードと、鰍沢中学校からは国語の授業でつくった詩と絵を、分校からは美術の授業で取り組んだ作品を交換しての交流となった。鰍沢中学校からの自己紹介カードを「ぼくと同じ趣味の人がいるよ」「好きな食べ物が一緒」など、一人一人興味をもって見ている様子が見られた。また昆虫や花など、自分を自然にたとえた詩と絵を見ながら「おもしろい表現だな」「かわいい絵だね」などの感想を口にしていた。直接会えないことがとても残念な様子であった。分校からの夏をイメージした紫陽花やかたつむりの作品にも「あじさいがスポンジで出来ていておもしろいね」などの感想をいただいた。

２学期は鰍沢中学校からは合唱祭の発表ビデオとビデオレター、分校からは分校まつりの発表ビデオとビデオレターの交換をした。鰍沢中学校からは、『かわらないもの』と『大きな古時計』の合唱２曲と、分校へのメッセージをいただいた。なかなか合唱を聞く機会がない分校の生徒たちはすてきな歌声を真剣に聴いていた。聴いた後には「高い音と低い音がきれいに合わさっていた」「一緒に歌いたいな」などの感想を書き、鰍沢中学校に贈った。

今年度も直接的な交流は叶わなかったが、お互いの頑張りをそれぞれ鑑賞でき次へつながる交流ができた。

５　成果と課題

（１）小学部

鰍沢小学校との交流は今年で８年目になる。今年度は直接的な交流は１度しかできなかったが、その１回を満喫することができた。２学期、直接交流はできないかもしれないと思っていたが、相手校の先生から「来てください」と言われた時には本当に嬉しかった。打ち合わせは電話やメールでのやりとりだったが、交流当日の時間設定が違っていて慌ててしまったということもあったので、しっかり顔を合わせての打ち合わせを直前にした方が良かった。

また、今年度は感染症対策として時間を少し短く４５分間に設定したが、充分に交流するためにはこれまで通りに６０分は必要だという反省があった。一人一人としっかり交流を行うために、班の中でもペアを作ってしまった方がよいのではないかという意見も出た。相手校と話し合いを十分行い引継ぎ事項を来年度に申し送りたい。

（２）中学部

鰍沢中学校の１年生とは昨年度同様、作品交流やビデオレターなどの間接交流のみの実施となった。同じ地域に住む中学生の作品や伸び伸びとした歌声の鑑賞は、本校の生徒にとって良い刺激となった。来年度は直接的な交流が叶うように方法を検討していきたい。

Ⅳ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

（１）地域の方々に障害のある児童生徒の様子や本校の教育活動に理解を深めてもらう。

（２）地域の方々との交流活動を通じ、児童生徒が積極的に社会と関わろうとする力を育む。

（３）児童生徒の生活経験を広め地域の方々との豊かな関係を築く。

２　交流先

学　部	地　域　交　流　先
小学部	中部区活性化プロジェクト、鰍沢奉仕活動の会、下部地区民生委員児童福祉部
中学部	鰍沢奉仕活動の会、下部地区民生委員児童福祉部

３　実施状況

学部	月　日	地域交流先	実施学年	教科等区分	実施内容
小	１０月１３日（火）	中部区活性化プロジェクト	全学年	生活単元学習	花の種まき
小	３学期	下部地区民生委員児童福祉部	全学年	あそびの指導	直接交流は中止昔の玩具を借り学部ごとに体験
中	２学期		全学年	生活単元学習	
中	１１月１６日（火）	鰍沢奉仕活動の会	全学年	生活単元学習	花の種まき

４　地域交流の様子

（１）中部区活性化プロジェクトとの交流

１学期に予定していた１回目の交流は中止し、２学期に予定していたさつまいもの収穫（１学期の苗植えがなかったため）を花の種まきに変更した。事前になでしこ・パンジー・ネモフィラ・スイートピーの中から一人一人好きな花を選んでおき、一人一つのプランターを用意し、当日は肥料のある土を入れて混ぜ、小さな種を蒔き、土をかぶせて水をやり、自分の

名前の札を立てるという作業工程で行った。畑仕事を活動の中心としている団体なので、土の作り方をよく知っていて、一人一人に適切なアドバイスをいただきながら花の種まきができた。土づくりのところでじっくり交流でき、児童１０人（１１人中１人休み）に対し３名の方々だったので、地域の方は少し忙しそうだったが、とても丁寧に一人一人と向き合って取り組んでいただき、１年生の児童は交流が初めてということもありとても感激していた。

（２）下部地区民生委員児童福祉部との交流

本年度も間接交流の実施となった。地域の方々には、紙でっぽうやぶんぶんゴマ、竹とんぼ、ガリガリとんぼ、お手玉などを作っていただき、けん玉も貸していただいた。

小学部では、1 月に学部集会の後のあそびの指導で、５グループに分かれ借用したおもちゃであそんだ。できなかったことができるようになることがとてもうれしい様子で紙でっぽうやぶんぶんゴマ、竹とんぼに熱中する児童が多かった。お手玉やけん玉は少し難しい様子だった。できるようになるとあちこちで「見て、見て！」と声が飛び交っていた。設定時間が少し短かったが、それぞれを体験できとても良かった。簡単な紙でっぽうは家でもできると思うので作り方を伝えていきたい。

中学部では、授業や休み時間などで遊んだ。最初は遊び方がよくわからない生徒も、教師に遊び方を教わり試していくうちに徐々にコツがわかり上手に扱えるようになっていった。上手になってくるとまわりの友だちに遊び方を教えてあげる生徒や、ぶんぶんゴマを上手に回して音を鳴り響かせ、得意そうに周りに見せる生徒もいた。竹とんぼはなかなか遠くに飛ばすことは難しかったが、生徒も教師も一緒に夢中になってチャレンジすることができた。

（３）鰍沢奉仕活動の会

今年度は屋外の活動で直接交流を行った。チューリップの球根植えと、ネモフィラなど花の種まきを２か所に分かれて行った。地域の方にチューリップの植え方や花の種のまき方をやさしく教えていただきながら、一緒に楽しく植えることができた。終わりの会では、「この花が咲く頃また遊びに来てください」という学部長のお礼の言葉と一緒に、作業学習で作った折染めのうちわやポップコーンの種、陶芸で作った焼き物にチューリップの球根を植えたものをプレゼントし、とても喜んでいただいた。また、手縫いの雑巾もたくさんいただき、早速大掃除で活用させていただいた。短い時間での交流ではあったが楽しい時間を過ごすことができた。

５　成果と課題

（１）中部区活性化プロジェクトとの交流

２年ぶりにできた地域交流での反省では、もっと時間が欲しかったという声が多かった。例年は 60 分の交流をしていたが、感染症のこともあり 45 分と短くしたためあっという間に終わってしまった。また、３名の方が来てくれたが、小学部の児童数が多くなってきて１１名（当日は１０名）だったので、一人に対してのかかわりが短くなってしまった。地域の方が例年より少ない人数だったので、来年度は大勢の人に来てもらえるようにしたい。活動内容も例年はさつまいもでの交流だが今年度は感染症の関係で花の種まきとした。次からどうするのかを来年度に向けて話し合っていきたい。天気にも恵まれ無事種まきができ、今はたくさんの葉が出てきて春にはそれぞれの花が楽しめそうである。

（２）下部地区民生委員児童福祉部との交流

今年度も直接的な交流の実施ができなかったが、ブンブンゴマなどの昔のおもちゃを下部地区民生委員児童福祉部の方に作っていただき間接交流を実施することができた。手作りの昔のおもちゃは普段見かけないため興味をもち楽しく遊ぶことができた。どのおもちゃもコツをつかむとできるようになるが、なかなか上手くできずに苦戦していた。苦戦した分できるようになると嬉しく楽しい様子だった。指導する教員も地域の方ほど上手ではないので、教員も苦戦していた。できるようになるまで集中して遊びに取り組んでいたため、あっという間に時間が過ぎてしまい、地域の方からゆっくりコツを教えてもらったり、上手に遊ぶ様子を見たりする機会の大切さを感じた。

（３）鰍沢奉仕活動の会との交流

２年ぶりの地域交流では、会員の高齢化もあり２名の方の参加となった。しかし初めて参加してくださった方もいて、分校の生徒のことを知っていただく良い機会となった。雑巾も毎年いただいき直接の交流ができない方達からも、分校のことを気にしていただいてとてもありがたかった。人数的に厳しくなってきているが、今後も無理のない形で交流を継続できるよう方法を検討していきたい。

（４）全体を通して

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で１団体と直接的な交流を行うことが出来なかったが、来年度は全団体と直接的な交流ができるように活動や実施の方法を検討していきたい。特に地域交流は高齢の方も多いので学校が感染源とならないよう活動の場を分け、ホールや屋外など換気の良い場所を活動場所にするなど感染症対策をしっかりとした上で直接交流ができるよう検討し状況に応じて実施していきたい。

Ⅴ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目　的

（１）居住している地域の小学校・中学校の児童生徒とともに学び、理解を深める。

（２）居住している地域の方々への理解や交流及び共同学習を促すきっかけとしていく。

（３）学校卒業後の地域での生活を円滑にすすめられるように地域の人間関係を継続し、深める。

２　実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部２年	南部町立睦合小学校	２回	７月　１日（木）　図工 １２月　２日（水）　体育 ２月　８日（火）　（中止）
小学部３年	身延町立身延小学校	２回	６月２９日（火）　音楽 ３月　（未定）
小学部４年	身延町立身延清稜小学校	１回	コロナ禍のため保護者の要望により直接的な交流は実施せず、手紙や写真での近況報告をした。
小学部４年	富士川町立鰍沢小学校	２回	１０月１３日（木）　図工 ２月　３日（木）　（中止）

３　成果と課題

（１）小学部

①２年生

昨年度に引き続き睦合小学校の同級生のクラスに入って交流を行った。昨年度は、不安そうな表情が多くみられたが、今年度は笑顔が多い交流となった。１回目の交流では、睦合小学校の友だちと手をつなぎ教室まで行く様子が見られた。みんなと一緒に新聞紙を破いたり、段ボールに入れたり、破いたものを上からパラパラ落としたりして、一緒に活動することができた。２回目は、体育の授業に参加した。段ボールを積み上げたり、ボールを投げて段ボールを倒したりする活動を行った。初めての体育館での活動であったが、笑顔もみられ落ち着いて活動に参加することができた。睦合小学校の友だちが「投げるよ」「行くよ」「せーの」などと声をかけてくれ、大人が介入しなくても児童だけで自然にかかわりながら活動する様子が多くみられた。回数を重ねるごとにお互いがかかわりを深め合っている様子が見られ、年間３回の交流は本児にとってとても貴重な体験となっている。

②３年生

今年度も身延小学校で交流を行った。本児も身延小学校に行くことを心待ちにしており、事前学習も意欲的に取り組むことができた。身延小の児童も本児が来ることを心待ちにしており、ハイタッチをしたりおしゃべりをしたりと沢山コミュニケーションを取ることができた。授業は居住地校交流では初めての音楽であった。歌唱や楽器の演奏を行ったが、初めて

の曲でもリズムに合わせて体を動かしたり、楽器(マラカス)を鳴らしたりして積極的に活動に参加する様子が見られた。交流が終わった数日間、家庭でも「また行きたい」と児童が話す様子があったということだった。

１学期に１回、２学期に１回交流する予定だったが、本児の体調等の関係で２学期の交流を急遽３学期に変更していただいた。本児も交流校の児童にもよい経験ができる機会であるため年２回は実施していきたい。

③４年生

中休みの時間帯から、体育館でバスケットボールをゴールに入れる遊びを一緒に行い、とても楽しく活動していた。図工の授業では、教師の指示をしっかり聞いて、板状の粘土や紐状の粘土を作ることができた。形を生かして立ち上がる形を作ったり、その上にちぎった粘土を重ねたりして作品を作った。時々、友だちの作品に興味を示し「見ていい？」と自分から声をかけていた。友だちに「触ってもいいよ。」と言われると、作品を静かに持ち上げ、とても丁寧に扱って鑑賞していた。鰍沢小では、何日か前から本児と一緒に図工の勉強をすることを担任が伝えると、当日を楽しみにしている様子がうかがえた。粘土活動のため、今回は授業中の交流はあまりなかったが、本児は友だちと一緒に活動することを喜んでいたとのことであった。帰るときも「また来る？」と次回の交流を楽しみにしている発言が聞かれた。同じ時間を同じ空間で一緒に過ごせることがとてもありがたいと感じている。

4 年生のもう一人の交流は昨年度から感染症対策のため中断している。相手校の担任と間接的にでも交流をしていこうということで、運動会や授業の様子の写真と一人一人からの手紙をいただいた。こちらからも同じように分校まつりや宿泊学習、授業の様子の写真とみんなに宛てた手紙を出し間接的だが交流できた。丸 2 年直接に会っての交流を行っていないことになるので、本人や保護者と相談し、感染症の推移を見ながら交流方法も検討していきたい。

令和３年度交流及び共同学習実施報告書　　山梨県立やまびこ支援学校

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立やまびこ支援学校
所 在 地	〒409-0618　山梨県大月市猿橋町桂台三丁目３１番地１
電話番号	0554-23-1943
校 長 名	小林　勝
交流及び共同学習主任名	上武　愛

２　学校教育目標

地域・家庭と連携し、自立と社会参加を目指すため、個々の実態に即した指導を通し、主体性をもって生きる心豊かな人間を育てる。

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

１　交流及び共同学習推進協議会構成員

No.	所　　属・職　　名	備　　考
1	大月市立猿橋小学校・校長	
2	大月市立猿橋中学校・校長	
3	山梨県立上野原高等学校・校長	
4	山梨県立都留高等学校・校長	
5	上野原市立図書館ボランティアたんぽぽ・代表	
6	大月市デイケアサービスセンター「やまゆり」・施設長	
7	大月商店街協同組合・理事長	

２　経過

開催時期	内　　容
５月 18 日（火）	推進委員の任命・委嘱、委員長の選出、令和３年度の実施計画について ※書面決済
２月８日（火）	令和３年度　交流及び共同学習の実施報告、次年度の見通しについて ※書面開催

Ⅲ　学校間交流における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

交流校と本校の児童生徒が共に活動することを通して、互いにふれあいを深め、共に学び合い、人間関係の形成や社会参加等の力を身に付ける。

（１）小学部

①直接あるいは間接的な交流を通して、相手のことに気づいたり意識して関わったりする経験をする。

（２）中学部

①直接あるいは間接的な学びあう活動を通して、自己表現したり、相手を受け入れたりして、人間関係の幅を広げる。

（３）高等部

①直接あるいは間接的な学びあう活動の中で、相手との関わり方を考えたり、相手を認めたりして、望ましい社会性を身に付ける。

２　基本方針

（１）各学部で年度当初に学校間交流についての意義や目的等について共通確認を行い、教育課程上の位置づけ等について検討を行う。
（２）児童生徒の実態や発達段階に合わせて、活動形態、活動内容等を工夫する。
（３）相手先と連絡を密に取り合い、双方のねらい等について、共有することができるようにする。
（４）単発な活動となるのではなく、継続的な取り組みとなるように、事前学習や事後学習も含めて一体的な活動となるよう計画をする。
（５）共同学習という側面を考え、各教科等の指導計画に基づいて実施を検討し、特別活動のみの計画とならないようにする。
（６）交流終了後は、児童生徒の様子について、個別のねらいに即した適切な評価を行う。

３　提携校

学　　部	交流及び共同学習提携校
小学部	大月市立猿橋小学校
中学部	大月市立猿橋中学校
高等部	山梨県立上野原高等学校

４　実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	10/8	猿橋小学校	全学年	国語 音楽 生活	プロフィール交換 学年ごとに、劇あそびや音楽の合奏の発表動画の作成
	11/25	猿橋小学校	全学年	体育	ボッチャ、学習の取組の様子を発表
	12 月	猿橋小学校	全学年	国語	手紙交換
中	6 月	猿橋中学校	全学年	国語	プロフィール交換
	1 月	猿橋中学校	全学年	道徳	学校の様子の伝わる DVD の作成、交換
高	6 月	上野原高等学校	1,2 年生	総合的な探究の時間	プロフィール交換
	9 月	上野原高等学校	1,2 年生	総合的な探究の時間	学校紹介（DVD 作成、オンラインにて学校についての質疑応答）
	11 月	上野原高等学校	1，2 年生	総合的な探究の時間	手紙の交換

５　学校間交流の様子

（１）小学部【猿橋小学校（３年生）との交流及び共同学習】

今年度は国語･算数において、プロフィールを作成し、お互いに交換することからスタートした。交流先から届いたプロフィールに興味をもち、プロフィールに書かれている内容を読んでほしいと頼む児童や、名前を読んでいる児童など期待感を高めている様子が伺えた。交流会当日はオンラインを活用して、お互いに学校紹介や学習の様子を発表した後、それぞれの場所でボッチャに取り組んだ。

本校と交流先と合わせて全6チームを作り、1チームずつボッチャに取り組む様子をリモート中継した。ボッチャに取り組むチームに対して、「がんばれ！」「すごい！」などの声援や、上手くできた児童に拍手するなど自然と応援する様子が見られた。

終わりの会では、「今度は直接会いたい。」「もっとかかわりたい。」などの感想が多く聞かれた。

（２）中学部【猿橋中学校との交流及び共同学習】

今年度は、オンラインで交流及び共同学習を行う予定であったが、感染症拡大の影響

により変更してビデオ交流を行なった。そこで、１学期にプロフィール交換と質問を送り合ったので、その質問に答えたりそれぞれの学校の様子を伝えたりするビデオを作成した。

本校は総合的な学習の時間に、チームごとダンスを作り上げる様子をドキュメンタリーチックにまとめた動画を作った。その際、この取り組みを猿橋中学の生徒に見てもらうことを予め伝え、この動画を送ることで、生徒同士で工夫しながら目標に向かう本校生徒の頑張りが、猿橋中学校の生徒達に伝わることを期待した。３学期にはビデオの感想や美術の作品などを交換し、間接的な交流を深める予定である。

（３）高等部【上野原高校との交流及び共同学習】

総合的な探究の時間において、お互いの学校の良さを伝えあうことを目的に自己紹介カードや学校紹介の DVD を作成した。交流会当日は、オンラインを活用してお互いに質疑応答を行う形で実施した。

学校紹介の動画作成では、生徒が主体となり学校内の施設や授業風景を撮影した。上野原高校からも授業や部活動の様子が紹介された DVD が届き、生徒達は興味津々で視聴していた。交流会当日は、お互いに疑問に感じたことを質問し合いコミュニケーションをとることができた。普段の学校生活で自分から話しかけることを恥ずかしがる生徒が多い中、画面越しに様々な質問が飛び交い、同年代の生徒達と話ができ充実した時間を過ごすことができた。

生徒からは「楽しかった。」「始めて知ったことがたくさんあった。」などの感想が上がり、お互いの学校生活を知る良いきっかけになった。

６　成果と課題

（１）小学部

今年度はオンラインによる交流会となったが、一緒に学習することの意義やつながりをもつ大切さを改めて実感した。

活動場所は異なっても同じ活動を共有することを通して相手のことを意識することを目的に、ボッチャに取り組んだ。ボッチャはパラリンピックの競技であることや、本校の児童は全校集会等で取り組んだことがある経験からお互いの児童にとって馴染みのある活動であった。児童一人一人が意欲的に参加することができた。オンラインの特性上、実際の活動の様子や児童の応援の様子を画面越しで確認することが難しい場面があったが一体感をもって取り組めたことは大きな成果である。オンラインによる交流及び共同学習の新たな可能性を見出すことができた。その際に、交流先と連携を取りながら、実施学年の実態や小学部の児童の実態を踏まえて活動内容を検討していきたい。

（２）中学部

互いに相手を意識しながら DVD を作成し１月に交換する取り組みができた。プロフィールを交換してから次の交流が行われるまで時間が空いてしまったが、国語の時間を使ってプロフィールをじっくり読んだり、学年によっては相手の質問に答えるために学部の意向を調べるなどの学習活動も行ったりし、相手への気持ちをゆっくり考えることができた。課題点は、2 学期に取り組みを予定した場合、今年のように感染予防のために変更が起きると、実施が遅くなってしまうことである。来年度は、早い時期にオンラインなどの交流の予定が組めるとよい。

（３）高等部

オンラインによる交流及び共同学習では、お互いに相手校の生徒を意識して活動できた。同年代の生徒達の学校生活の様子を知る良いきっかけになった。直接会うことに不安感を感じて、自分から交流相手に話しかけることに抵抗を感じたりする生徒にとって今回のような交流は、オンラインだからこそ話がしてみたい、活動に参加したいという気持ちをおこし交流の意欲を引き出した。実際に、積極的に話しかけたり、共通の話題で会話が弾んだりと普段の学校生活とは異なる一面が見られた。

生徒によっては、画面があることでどこを見たらよいか、明確になる良さも感じた。し

かし、画面越しであると相手の表情や会話のニュアンスの伝わりにくさも感じ、相手校からの情報をどのように受け止めたか、教師側の把握の難しさも感じた。参加形態をどのようにしていくかなど活動内容について検討していく必要があると感じた。

Ⅳ地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

地域の方々と関わることを通して、経験を広げ、地域社会の中で主体的に生きていく力を身に付ける。

（１）小学部
地域の方々と場を共有し、活動を楽しみながら様々な人とふれあう経験をする。

（２）中学部
地域の方々と共に活動し、関りを深めていくことを通して、対人関係の幅を広げる。

（３）高等部
地域の方々と共に活動し、地域社会への理解を深めることを通して、地域社会の一員という気持ちをもつ。

（４）寄宿舎
地域の方々と共に活動し、生活経験を広げ、人と関わる力を身に付ける。

２　基本方針

（１）各学部で年度当初に地域交流についての意義や目的等について共通確認を行い、教育課程上の位置づけ等について検討を行う。
（２）地域の方と連携を大切にし、連絡を密に取り合いながら協力を得ていくようにする。
（３）交流相手先については、学校、地域、児童生徒の実態に応じて総務部、各学部で相談の上決定する。
（４）学校周辺の地域社会とのつながりを意識し、積極的に情報発信を行う。
（５）単発の活動となるのではなく、継続的な取り組みとなるように各教科等の指導計画に基づいて実施を検討する。
（６）交流して先に応じて、活動内容、集団の大きさやねらい等を検討する。

３　交流先

学　　部	地域交流先
小学部	今年度は実施なし
中学部	上野原図書館ボランティア
高等部	大月商店街（今年度は中止）、大月市デイサービスセンター「やまゆり」、オオツキッチン
寄宿舎	山梨県立都留高等学校

４　実施状況

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
中	未実施	上野原市立図書館ボランティア	全学年	国語	今年度は実施せず
高	11 月	大月市デイサービスセンター「やまゆり」	全学年（サービス班の生徒）	職業	作品交流、オンライにて出し物
	12 月	オオツキッチン	全学年（家庭科 B グループ）	家庭科	作品制作
寄宿舎	6 月 11 月	山梨県立都留高等学校	寄宿舎生	余暇活動	プロフィール交換・掲示物の交換、オンラインにて自己紹介、ゲームなど

５　地域交流の様子

（１）中学部

新型コロナウィルス感染症の影響で実施できなかった。

（２）高等部

①デイサービスセンターやまゆり

サービス班に所属する生徒達が、宮谷地区にあるデイサービスセンター「やまゆり」の方達にハンドクリームを作り届けた。使う人のことを考えながら香りを選ぶ、ラッピングを工夫するなど丁寧に作業に取り組んだ。新型コロナウィルス感染症予防のため、代表の生徒が責任をもって直接届けに行き、他の生徒達はその様子をオンラインで視聴した。代表生徒があいさつをした後は、自分たちで考えたダンスなどをして画面越しに交流を深めた。

「やまゆり」の方達が喜ぶ様子が見られ、丁寧に心を込めて作業することにやりがいを感じることができた。

②おおつキッチン

家庭科の学習において、大月市に在住している保健福祉委員会の方と一緒に健康について考えた。味噌汁一杯に塩分が、ペットボトルのジュースに砂糖がどのくらい含まれているのかの話を聞き、普段何気なく食している物に予想以上に多くの塩分や糖分が使われていることに驚き、食生活を見直すきっかけになった。

また、クリアファイルを使って、マスクケースを作成した。クリアファイルを切り貼りし、シールやマスキングテープを貼りつけて一人一人が工夫を凝らして作ることができた。

（３）寄宿舎

新型コロナウィルス感染症の拡大により直接交流ではなくオンラインを活用して実施した。本校と相手校とでお互いの学校や友達のことを知ることができるよう、プロフィールを交換した。さらにお互いの事を知って親しくなれるよう相手校に聞いてみたいこと、交流を通してやってみたいこと等、掲示物を作成し交換して伝えあうことができた。都留高校から掲示物が届くと、どの舎生も興味津々に見入り、部活動がたくさんあることに驚いたり、好きなことが共通していることに喜こんだりする姿が見られた。

１１月にはリモート交流を実施し、画面越しに最近あった行事のことをおりまぜながら自己紹介をしたり、好きなことを伝えたりする姿が見られた。その他にもイントロクイズ等をして楽しいひと時を過ごすことができた。最初は緊張気味な舎生達であったが、徐々に気持ちがほぐれ笑顔を見せていた。

６　成果と課題

（１）中学部

今年度は、新型コロナウィルス感染症の影響を受けて地域交流を実施することができなかったが、地域の方たちと触れ合うことの意義や目的を教員間で共通確認しながら、地域の方たちと可能な形で実施できるよう検討していきたい。

（２）高等部

地域の方たちとの触れ合いを通して、本校の生徒の学校生活の様子や取り組みなどを知っていただく良い機会となった。本校の生徒にとっては、交流先の相手がどんな人たちであるかがイメージしやすく、相手の気持ちを考えて製品作りに取り組むことができた。高等部卒業後に社会人として働く力につながっていくのではないかと感じた。

今後もより有意義な地域交流を実施していくために、担当者間での打ち合わせにおいて、

地域交流の目的や活動内容を共通確認して取り組んでいくことを大切にしていきたい。

（３）寄宿舎

掲示物を交換し合ったことで、相手校の生徒のことを意識して取り組むことができ理解を深めることにもつながった。初めてのリモート交流では緊張気味だった舎生も、画面を通して徐々に楽しむことができた。交流を終え「みんなの前で話すのは恥ずかしかった」「笑われたらどうしようと不安だったけど言えて良かった」「今度は会って交流したい」「都留高校に行ってみたい」等の感想が聞かれ、短い活動時間の設定ではあったが有意義な会となった。

来年度以降は、新型コロナウィルス感染症が終息して制限が取り払われるようになったら、交通機関を利用し、こちらから相手校へ出向く等、社会経験を積めるような活動も計画していきたい。また、桂台地区に移転して間もないので時間をかけて地域交流先を考えていきたい。

Ⅴ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目　的

（１）居住する地域の同年代の児童・生徒共に学び、相互理解を深める。

（２）居住する地域の一員として、将来豊かに生活していくための望ましい人間関係の基礎を築く。

２　実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部･5年	大月市立鳥沢小学校	間接的交流にて実施	間接的な交流としてプロフィール交換、手紙交換などを実施予定
小学部･6年	上野原市立上野原小学校	１回	特別活動に参加

３　成果と課題

今年度は、小学部の児童２名から居住地校交流の希望があり、うち１名が直接的な交流を実施することができた。

交流先の児童達は、相手のことを考えたレクレーションの内容を考えたり、ルールを工夫したりして誰もが参加できる活動を企画することができた。低学年時から継続的に取り組んできたことで、リラックスして、自分らしさを発揮しながら参加できた。

直接的な実施が厳しい状況ではあるが、本校の児童生徒にとって居住する地域の児童生徒と関わる機会は貴重な時間ととらえることができる。保護者に居住地校交流に関する情報提供を行うことや相手校と連携を深めてより良い居住地校交流を実施することが大切である。地域の一員として生活していくことの大切さを共に考えていきながら、居住地校交流の一層の充実を図っていきたい。

令和３年度交流及び共同学習実施報告書　　山梨県立富士見支援学校

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立富士見支援学校
所 在 地	〒４００－００２７　甲府市富士見一丁目１－１
電話番号	０５５－２５２－３１３３
校 長 名	小倉　正一
交流及び共同学習主任名	亀岡　茜

２　学校教育目標

児童生徒の病状等に配慮し、健康の回復を図りながら、義務教育課程における学習空白を補完する。そのため、基礎的・基本的な学習内容等の着実な定着を図るとともに、安全で安心な楽しい学校生活の中で豊かな心や自立心を育み、社会の中で人と関わりながらよりよく生きていくための「生きる力」を育む。

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

本校の児童生徒の実態から、現在のところ学校間交流は実施していない。

Ⅲ　地域における交流活動（地域交流）

本校の児童生徒の実態から、現在のところ地域交流は実施していない。

Ⅳ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

本校の児童生徒の実態から、現在のところ居住地校交流は実施していない。

本校では、居住地校交流に近い取り組みとして、前籍校へ復帰する段階にある児童生徒について計画的に行う「試験登校」がある。試験登校は、前籍校の児童生徒と学ぶ場を共有する中で、相互理解を深め、復帰後の学校生活を円滑に送ることができるようにするための取組になっている。

令和３年度交流及び共同学習実施報告書　　山梨県立富士見支援学校旭分校

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立富士見支援学校旭分校
所 在 地	〒４０７－００４６　韮崎市旭町上條南割３３１４－１３
電話番号	０５５１－２２－７１４４
校 長 名	小倉　正一
交流及び共同学習主任名	石原　浩子

２　学校教育目標

児童生徒の病状等に配慮し、健康の回復を図りながら、義務教育課程における学習空白を補完する。そのため、基礎的・基本的な学習内容等の着実な定着を図るとともに、安全で安心な楽しい学校生活の中で豊かな心や自立心を育み、社会の中で人と関わりながらよりよく生きていくための「生きる力」を育む。

Ⅱ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

※当校の児童生徒の実態から、現在のところ学校間交流は実施していない。

Ⅲ　地域における交流活動（地域交流）

※当校の児童生徒の実態から、現在のところ地域交流は実施していない。

Ⅳ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

当校の児童生徒の実態から、現在のところ居住地校交流は実施していない。

当校では、居住地校交流に近い取り組みとして、前籍校へ復帰する段階にある児童生徒について計画的に行う「試験登校」がある。試験登校は、前籍校の児童生徒と学ぶ場を共有する中で、相互理解を深め、復籍後の学校生活を円滑に送ることができるようにするための取り組みになっている。

令和３年度交流及び共同学習実施報告書　　山梨県立ふじざくら支援学校

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立ふじざくら支援学校
所 在 地	〒４０１－０３０１　南都留郡富士河口湖町船津６６６３－１
電話番号	０５５５－７２－５１６１
校 長 名	望月　公
交流及び共同学習主任名	川北　理恵

２　学校教育目標

◎自立を目指し、社会の中で豊かにたくましく生きていく力を育てる。
◎児童生徒一人一人の能力や個性を最大限引き出し生かす。
◎確かな学力、豊かな情操、健やかな体を育む。

Ⅱ　交流及び共同学習推進協議会の経過

１　交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所　　属・職　　名	備　　考
1	鳴沢村立鳴沢小学校・校長	
2	富士河口湖町立河口湖北中学校・校長	
3	山梨県立富士北稜高等学校・校長	
4	鳴沢村立鳴沢小学校・交流及び共同学習担当	
5	富士河口湖町立河口湖北中学校・交流及び共同学習担当	
6	山梨県立富士北稜高等学校・交流及び共同学習担当	
7	山梨県立富士北稜高等学校・交流及び共同学習担当	
8	山梨県立富士ふれあいセンター・所長	会長
9	障害者支援施設はまなし寮・施設長	
10	富士吉田図書館おはなし会このはなさくや・代表	
11	喜楽広場・代表	
12	コーロ河口湖・代表	
13	山梨県立ふじざくら支援学校・校長	副会長
14	山梨県立ふじざくら支援学校・ＰＴＡ会長	副会長

２　経過

開催月日	内　　容
５月	委員の委嘱及び交流計画について
１月	今年度の実施報告について（資料配付）

Ⅲ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

（１）全体

・児童生徒の経験を広め、豊かな人間性を育む。
・地域や同年代の人と関わるための社会性や意欲を養い、自立や社会参加を促進する。
・共生社会の実現に向けて、様々な人々と共に助け合い支え合って生きていくことを学ぶ機会とする。

（１）小学部

・作品やカードを通して同学年の児童を知る。
・同学年の児童と作品を交換し、相手校の学習の様子や友達の良さを知る。

（２）中学部

・同年代の生徒と進んで関わりながら、共に学ぶ楽しさを味わい、より豊かな人間性を養う。
・交流及び共同学習を通して、互いに理解し合おうとする。

（３）高等部

・地域の同世代の生徒と協力して活動する中で、関わる力をつけることができる。
・共に学び合う中で、お互いのことを理解する。
・共に助け合い、支え合って生きていく仲間として意識することができる。

２　提携校

学　　部	交流及び共同学習提携校
小学部	鳴沢村立鳴沢小学校
中学部	富士河口湖町立河口湖北中学校
高等部	山梨県立富士北稜高等学校

３　実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	１学期	鳴沢小学校	全学年	特別活動	間接交流（自己紹介カード・メッセージビデオの交換）
	２学期		全学年	自立活動 図画工作 特別活動	手紙の交換 作品交流（ぽぷらっこ祭り） 作品交流（ふじざくら祭）
中	１学期	河口湖北中学校	全学年	特別活動 美術 自立活動	間接交流（自己紹介カード交換） 作品交流（北中学園祭） 作品交流（ふじざくら祭）
	２学期		全学年	特別活動 自立活動	リモート交流（レク等） 手紙交換
高	１学期	富士北稜高等学校	全学年	特別活動	リモート交流（ふじざくら支援学校高等部作業班の紹介）
	２学期		全学年	特別活動	リモート交流（ミニコンサート、創作活動、体操等） 手紙交換

４　学校間交流の様子

（１）小学部

小学部では、同学年同士での交流会を例年２回行っている。感染予防の観点から今年度も直接会っての交流会ではなく、間接交流を実施した。

１学期は、学年ごとに自己紹介カードとメッセージビデオを作った。１年生や２年生は、まだ直接会ったことがない鳴沢小の友達に向けて自己紹介をし、３年生、４年生、５年生、６年生は、２年前の学校間交流で会ったことがあるので「元気ですか？ぼくたちは元気です。また会いたいね。」などメッセージをカメラに向けて伝えた。また、鳴沢小から届いた友達の自己紹

介カードを見ると、好きな食べ物や好きなキャラクターなどを見つけて指を差したり「ぼくも好き」と言ったりする姿が見られ、同世代のやりとりを間接ながら行うことができた。メッセージビデオには、国語や音楽の授業や給食、遠足などの様子があり、友達の様子を見て笑ったりまねしたりするなど、興味をもって視聴する姿が見られた。１、２年生は違う学校の友達に興味をもち、楽しみながら友達を知ることができ、３年生から６年生は以前会った友達を思い出す機会となった。

２学期は、手紙交換とお互いの学園祭での作品交流を実施した。鳴沢小学校から本校の児童に向けてたくさんの手紙をもらい「元気ですか？」「ぼくは野球を頑張っているよ」「コロナが落ち着いたら会いたいな」などの友達からのメッセージを読み、それに対して「ぼくたちは元気です」「一緒に野球をやろう」など手紙の返事を書いてやりとりを行う間接交流に各学年で取り組んだ。

作品交流では、本校児童の美術作品を鳴沢小学校のポプラっこまつりに、鳴沢小学校の児童の美術作品をふじざくら祭で展示した。展示見学では、同学年の児童の作品に興味をもって作品を眺める児童がたくさんおり、「すごい」「じょうずだね」など、それぞれ感じたことを伝える場面が多く見られ、作品を通してお互いの学習や良いところを知り合うことができた。

自己紹介カード

メッセージビデオ

作品交流

（２）中学部

中学部では、例年、河口湖北中学校の２年生と交流会を行っている。昨年度、初めてリモート交流会を実施し、今年度もその内容を引継ぎ、１学期と２学期に交流会を実施することができた。

７月に実施された１回目の交流会は、『さいころトーク自己紹介』、『絵しりとり』の２つの活動を行った。『さいころトーク自己紹介』は、さいころに書かれた『好きな○○』をテーマに全員で自己紹介をした。最初は緊張した様子の生徒達が、活動が進むにつれ和やかな表情でさいころを振り、『みんなでポーズ』の目が出るとテレビの周りに集まって画面越しにポーズをとって、一緒に集合写真を撮り、すっかり打ち解けていた。次に『絵しりとり』では、お互いに答えが分かると「オッケーです！」と大きく身振りをつけて少しでも分かりやすいように工夫して伝え合い、相手のことを想ってコミュニケーションをとる姿が多くみられた。

２回目の交流会では、『ジェスチャーゲーム』『ソーラン節』等の活動を行った。２回目ということもあり、緊張する様子もなくカメラ越しの相手とジェスチャーを出し合って、和気あいあいとした雰囲気であった。また『ソーラン節』は、北中生に迫力のある踊りを披露していただき、アンコールをしたり一緒に踊ったりして終始、積極的に活動する生徒たちの姿が見られ、楽しく共同学習することができた。交流後は、お礼の手紙交換を行った。相手から手紙が届くと、嬉しそうな表情で一生懸命に文字を読む姿が見られた。

新型コロナの影響で、様々な制限のある中であったが、子どもたちの活動意欲や河口湖北中

学校の先生方の協力のおかげで、今年度も最高の交流会を行うことができた。

みんなでポーズ

ソーラン節

ジェスチャーゲーム

（３）高等部

高等部では、例年、富士北稜高校生と２回の交流会を行っている。昨年度は、感染症予防のために直接交流することができず、ビデオや作品による間接交流を行ったが、今年度はリモート交流会を１学期と２学期に実施することができた。

７月の交流会では、事前に自己紹介カードを交換し、４０名のボランティア委員とオンラインでの交流を行った。初めてのリモート交流会なので、高等部の授業風景を紹介するという内容で、本校について知ってもらう機会とした。Ａクラス、陶芸班、木工班、手工芸班、農園班の各班に分かれ、生徒が自分たちの授業について説明をしたり、北稜高校生へクイズを投げかけたりして、画面越しに生徒同士でやりとりを行うことができた。

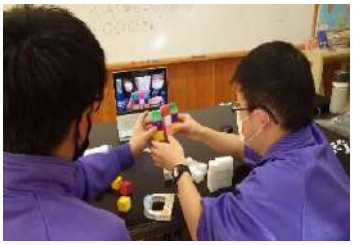
北稜高校の生徒からは、ふじざくらの生徒が一生懸命説明する姿を見て、「かっこいい」「作業が楽しそう」といった感想が聞かれ、ふじざくら支援学校の生徒に興味をもってもらえた様子もうかがえた。事後学習では、「説明する時に緊張したけど、上手に発表できた。」「北稜生に友達がいた！」などと交流会を振り返って様々な感想をもつことができ、同世代のお互いのことを知り合う交流会ができた。

１２月の交流会では、事前学習で富士北稜高校生による活動紹介ＶＴＲを視聴して期待を膨らませ、当日は建築デザイン系列１０名、福祉健康系列１５名、ボランティア委員１４名、吹奏楽部２０名と本校高等部生徒による２回目のリモート交流会を行った。２回目の交流会では、少人数で交流することで個人個人の会話が交わされ、より親密なコミュニケーションを図ることができた。建築デザイン系列の生徒から説明を受けながら木工小物を制作したり、福祉健康系列の生徒から健康体操の手ほどきを受けたり、ボランティア委員の考案したクリスマスクラフト作りをしたりして一緒に活動しながら親睦を深めることができた。また、音楽好きの生徒達は、吹奏楽部によるミニコンサートを鑑賞する活動に参加し、音楽を共に楽しむ交流会を通して画面越しにお互いの繋がりを感じる体験ができた。事後学習では手紙を書いて、感謝の気持ちや感想など自分の思いを相手に伝えることができた。

今年度も直接交流はできなかったが、新たな試みとしてオンラインによるリモート交流会を行うことができた。画面越しでの高校生同士のやりとりが良い刺激になり、お互いが知り合い、同世代としての仲間意識を育むことができ、有意義な交流会となった。

リモート交流会

農園班クイズ


クリスマスクラフト作り

５　成果と課題

（１）小学部

コロナ禍により、今年度も直接会っての交流は実施が難しかったが、両校の担当者同士で年間のスケジュールを立て、連絡を密に取りながらお互いに有意義な交流になるよう話し合いを重ねて交流計画を実施した。１年生や２年生にとっては、直接会って交流をしたことのない「鳴沢小のお友達」や「交流」のイメージをもつことが難しいので、児童にとって分かりやすい交流についてどのような方法が良いかを年度の始めに話し合った。昨年度は自己紹介カードや作品の交換を通しての交流であったが、今年度は自己紹介や授業の様子などをＶＴＲで視聴したり美術等の作品を見たりする活動後に手紙を書いて交換することに発展させることで、児童にとってより分かりやすく有意義な交流となるようにした。鳴沢小学校の児童への手紙に一生懸命に取り組む姿やビデオメッセージを見て友達に興味を示して笑顔になる姿を見ると、直接会えなくても関わりを絶やさず交流を継続していくことの大切さを改めて感じた。来年度も感染症の状況を見ながら様々な交流方法を模索し検討しながら双方の学校に有意義な交流を実施していきたい。

（２）中学部

今年度もリモートによる交流会を実施し、コロナ禍においても交流活動を継続することができた。両校の担当者で打ち合わせを重ね、機器やシステムの設定や活動内容の検討など入念に準備し、当日は生徒同士が進んで関わりながら、共に学ぶ楽しさを存分に味わうことができた。中学部段階では、画面越しのやりとりを楽しむことができる生徒が多く、リモート形式でも生徒同士がお互いのことを理解する目的を概ね達成することができた。７月の交流会では、山梨日日新聞とＵＴＹが取材に来校し、新聞やＴＶで学校間交流の様子が報道され、生徒がいきいきと活動する姿を広く知っていただく良い機会にもなった。

コロナ渦で交流活動を行うための一つのコミュニケーションツールとしてＩＣＴの活用は不可欠になってきている。リモートでのやりとりを体験して慣れていくことは生徒にとっても教師にとっても大切なことである。来年度も社会の状況や生徒の実態等、丁寧に情報交換をしながら交流活動を計画・実施していきたい。

（２）高等部

今年度は、お互いの学校を訪問し合う直接交流はできなかったが、オンラインによるリモート交流会を実施し、生徒同士が直接やり取りを行うことができた。生徒たちにとって他校の友達を意識したりお互いを理解したりすることが、より分かりやすい形で実施できた点が成果である。初めてオンラインによる実施ということで、両校の通信事情のことを踏まえ、例年以上に打ち合わせやテスト通信を行った。富士北稜高校からは、「ふじさくら支援学校と今まで築いてきたつながりをこれからも大切にしていきたい。」と全面的に協力していただき、大変感謝している。生徒の感想からは、「話ができて良かった」「一緒に踊って楽しかった」など高校生同士のやりとりを通して良い刺激を受けたという内容の感想が多かった。また、来年度は直接会って交流をしたという感想も多かった。

来年度も両校のねらいを確認し合い、生徒の実態等を共有しながら両校で連携を図り進めていきたい。感染症の対応も考えながら直接交流を実施することも検討していきたい。オンライン交流会、ビデオレター、作品交流等、その時の状況に適した内容で実施し、これからも両校で築いてきたつながりを大切にし、相互理解に向けて取り組んでいきたい。

Ⅳ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

（１）　全体

・交流を通じて児童生徒の経験を広げ、豊かな人間性を育てる。
・地域社会の人々と関わる中で、共に助け合い支え合って生きていくことを学ぶ機会とする。

（１）小学部

・活動を通して地域の人と触れ合い、関わりをもつ。
・関わりを受け入れ、共に活動することを楽しむ。

（２）中学部

・地域の方々と触れ合い、社会で活動しようとする意欲を高める。
・活動を通して、関わりを深めていくとともに、人間関係の幅を広げる。

（３）高等部

・地域の人々と関わる中で、お互いを理解し合うことができる。
・学校周辺の環境や身近な施設等で生活する方と日常的に関わりをもつ。
・共に活動を行う中で経験を広げ、社会に参加する気持ちを育てる。

２　交流先

学　　部	地域交流先
小学部	このはなさくや
中学部	喜楽広場
高等部	コーロ河口湖、はまなし寮
全学部	富士ふれあいセンター、富士吉田市、西桂町、富士河口湖町、鳴沢村、忍野村、山中湖村の文化祭での作品交流

３　実施状況

学部	月日	地域交流先	実施学年	教科等区分	内容
小	11 月	このはなさくや	全学年	国語 特別活動	絵本の読み聞かせ、紙芝居、パネルシアター
中	５月	喜楽広場	全学年	特別活動	体操、ふれあい遊び ※中止
高	11 月	コーロ河口湖 はまなし寮	全学年	音楽 自立活動	音楽、自立活動での授業交流 ※中止
全学部	11 月	富士ふれあいセンター	全学年	美術 自立活動	『ふれあいの樹』を展示
	７月 ３月 中止 中止 中止 中止 中止 中止	吉田空襲展 富士吉田市小中作品展 おしの村文化祭 おしの村福祉健康祭り 山中湖村文化祭 西桂町文化祭 富士河口湖町文化祭 鳴沢村文化祭	全学年	図画工作 美術 自立活動	居住児童生徒の作品を展示

４　地域交流の様子

（１）小学部

今年度は小学部の全ての児童生徒で、富士吉田市立図書館おはなし会「このはなさくや」の方々をお迎えして交流会を行った。今年度も感染症対策の為、低学年、高学年、A グループに分かれ、体育館や感覚訓練室を広く使って実施し、体育館の活動ではプロジェクターや大型紙芝居などを使って読み聞かせをしていただいた。『猫のお医者さん』のパネルシアターでは、次々に出てくる動物の患者さんのやり取りを見て、「おもしろいね」と盛り上がる児童がたくさんいた。『じゃがいもポテトくん』の絵本では、ピアノの伴奏に合わせての読み聞かせを楽しむ様子が見られた。読み聞かせや手遊びが好きな児童が多く、活動を楽しみながら地域の方と充実した時間を過ごすことができた。

集合写真

絵本の読み聞かせ

パネルシアター

（２）中学部

若返り体操教室「喜楽広場」との交流会を予定していたが、高齢者の多い団体であることから感染症の影響により中止となった。

（３）高等部

合唱団体「コーロ河口湖」と音楽交流会を予定していたが、まん延防止等重点措置により中止となった。

（４）全学部

富士ふれあいセンターとの間接交流では、生徒一人一人描いた葉っぱを集めて「ふれあいの樹」という大きなアート作品を展示し、センターを訪れる多くの方々に見ていただいた。

本校の児童生徒の居住地は、富士吉田市、西桂町、富士河口湖町、山中湖村、忍野村、鳴沢村と６市町村に渡る。本校の児童生徒を居住地域の方々に知ってもらうことを目的として、毎年、各市町村の文化祭に図工、美術、自立活動（造形）などの作品を出展していたが、今年度は市町村文化祭の多くが中止となったため、実施できなかった。富士吉田市の児童生徒の作品については、７月と２月に作品を出展した。地域の方からの感想をいただき、その感想や展示の写真を掲示することで、児童生徒に作品展の様子や感想を知らせていくようにした。

富士ふれあいセンターに展示された『ふれあいの樹』

５　成果と課題

（１）小学部

今年度は、学校間交流では直接交流できなかったので、地域交流で直接交流を行うことができて良かった。感染症対策として、来校者への２週間前からの検温や体育館や感覚訓練室を広く使って活動することなど、安全性を保つためのマニュアルが定められてきたので、それを遵守した形で実施した。事前に実施方法や内容について電話連絡等で丁寧に確認を行い、当日はスムーズに実施することができ、どの児童も楽しめるような交流を行うことができた。来年度も、感染症対策を行いながら小学部の各グループで「このはなさくや」の方々と引き続き地域交流を実施したいと考えている。

（２）中学部

今年度は感染症の影響により、「喜楽広場」との地域交流は中止となった。来年度も直接交流が難しいことも考えられるので、幾つかの案を出し合いながら計画していきたい。

（３）高等部

今年度は感染症の影響により、「コーロ河口湖」との地域交流は中止となった。来年度も感染状況を踏まえながら、関係団体と実施時期や内容を相談し、実施に向けて取り組んでいきたい。

Ⅴ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目　的

（１）居住地校の児童生徒と共に学び、関係をつくったり継続したりして相互に理解を深める。
（２）本校の児童生徒が、将来地域で生活するための基盤を作り、社会参加を促進する。

２　実施状況

本年度は、昨年度まで居住地校交流の希望が出されていた児童、生徒８名に加え、新たに小学部１年生の２名、中学部１年生の２名から実施の希望が出された。今年度は感染状況を考慮しながら直接交流の実施を計画していたが、両校の児童生徒の安全を確保した上での実施を検討し、間接交流に切り替えた。間接交流実施の希望が出された９名については相手校の御理解をいただき、３学期に手紙の交換による交流を実施した。

学部・学年	交流及び共同学習先校名	実施（活動）内容
小学部・１年	富士吉田市立富士吉田第一小学校	実施せず
小学部・１年	富士河口湖町立勝山小学校	実施せず
小学部・２年	富士河口湖町立大石小学校	間接交流（手紙交換）
小学部・２年	西桂町立西桂小学校	間接交流（手紙交換）
小学部・３年	西桂町立西桂小学校	間接交流（手紙交換）
小学部・５年	富士吉田市立吉田小学校	実施せず
小学部・５年	富士河口湖町立船津小学校	間接交流（手紙交換）
小学部・６年	鳴沢村立鳴沢小学校	間接交流（手紙交換）

中学部・１年	道志村立同地中学校	間接交流（手紙交換）
中学部・１年	忍野村立忍野中学校	実施せず
中学部・２年	忍野村立忍野中学校	間接交流（手紙交換）
学部中・２年	富士吉田市立明見中学校	間接交流（手紙交換）

３　成果と課題

今年度も直接会って、一緒に勉強をしたり遊んだりして交流を深めることは難しい状況であったため、児童生徒が地域の友達との関係を継続し、児童生徒のことを知ってもらう機会とすることを目標に間接交流を実施した。

間接交流では、普段の生活のこと、学園祭のこと、がんばっていることなど、居住地の友達に伝えたいことを児童生徒、保護者、担任とで相談し、家庭の協力を得ながら手紙や写真、絵などを作成した。取り組んだ児童生徒は、保育園や小学校時代の友達のことを思い出す機会となった。また、ポストを作成し、手紙などの作品とともに掲示もらい、居住地の友達からメッセージを書いてもらえるようにし、有意義な交流となるよう内容を工夫して実施することができた。相手校となる居住地校の御理解と保護者の方の御協力のおかげで昨年度よりも多くの児童生徒が実施することができたことが、大きな成果である。

感染症の収束はまだ見込めない状況であるため、来年度も両校の居住地校交流の実施方法や内容を充実させ、両校の児童生徒にとって実りある居住地校交流が実施できるよう努めていきたい。

Ⅵ　本年度の交流及び共同学習のまとめ

今年度も新型コロナウイルス感染症の流行により、例年のような直接交流を実施することは難しかったが、交流校や地域交流関係団体と連絡を取り合い、綿密な打ち合わせを行い、双方で実施可能な内容や方法を考え、交流及び共同学習をすすめてきた。

学校間交流では、ＩＣＴを活用してリモート交流会を実施した。交流校の友達と画面越しに会って、声を聞いたり話をしたりすることで、交流校の児童生徒と関わることの楽しさを感じている生徒の様子が見られた。また、ビデオレターや作品の交流も実施し、作品を交換し合うことで、交流校の友達のことやお互いの学校で行っている学習について知る機会となった。

地域交流では、小学部が絵本の読み聞かせの会を実施することができた。地域の人々と活動を共にする中で、児童が活動に興味をもったり地域の人との関わりを楽しんだりするなど充実した時間を過ごすことができた。また、地域の人々と関わることで、本校の児童生徒を理解していただく機会にもなった。

居住地校交流については、本年度は１２名の希望者があり、そのうち新規の希望者が４名であ

った。コロナ禍で安全に実施することと児童生徒が地域の友達との関係を継続し、児童生徒のことを知ってもらう機会となることを目標に間接交流を実施した。児童同士が手紙でやりとりを行い、お互いのことを思い合う機会となり、地域の仲間としての関係を継続していくことができた。

今年度もコロナ禍により、これまでの形での実施が難しく、新しい交流の形を模索した一年であった。オンラインによる学校間交流では、生徒同士が画面越しに楽しそうにやりとりをし、お互い良い刺激を受けあいながら自然に相手を理解していく姿が印象的であった。このように、交流及び共同学習を行うことの意義は大きいと考える。来年度も、引き続き各学校及び関係団体の方々と連携を図り、目的やねらいを共有し共に実施方法や内容を考えていきながら、意義のある交流及び共同学習を実施していきたい。

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立かえで支援学校
所 在 地	〒４００－０８０７　山梨県甲府市東光寺２－２５－１
電話番号	０５５－２２３－６３５５
校 長 名	柳　澤　縁
交流及び共同学習主任名	麻　川　貴　子

２　学校教育目標

－ 子どもたちが、幸せな人生を送るために －

・心身ともに健康な児童生徒を育成する。
・個々の能力・特性を生かして、基礎的・基本的な確かな学力を育成する。
・働く意欲や喜びをもち、社会の一員として共に生きる力を育成する。
・多くの人たちとの交流を深め、豊かな人間性・社会性・道徳性を育成する。
・子どもの人権を尊び、自己実現に向け、自己選択・自己決定する力を育成する。

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

１　交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所　　属・職　　名	備　　考
1	甲府市立里垣小学校・校長	会長
2	甲府市立里垣小学校・交流及び共同学習担当	
3	甲府市立東中学校・校長	
4	甲府市立東中学校・交流及び共同学習担当	
5	山梨県立甲府東高等学校・校長	
6	山梨県立甲府東高等学校・交流及び共同学習担当	
7	里垣地区社会福祉協議会・会長	副会長
8	里垣地区食生活改善推進員会・代表	
9	里垣地区大正琴サークル「つみき会」・代表	
10	里垣地区民生児童委員会・民生児童委員	
11	山梨県立かえで支援学校ＰＴＡ・会長	
12	山梨県立かえで支援学校・校長	

２　経過

開催時期	内　　容
６月	委嘱状交付、推進協議会の概要説明、本年度の計画について資料送付
２月	今年度の活動状況、来年度の課題について資料送付

Ⅲ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

同世代の児童生徒とのふれあいを通して、生活経験を拡大させるとともに相互理解を促し、共に学び共に育ち合う気持ちを育てる。

（１）小学部

①同世代の児童とのふれあいを通じ、生活経験を拡大させ共に学び合う気持ちを育む。

②友達とのかかわり方を身に付け、楽しくやりとりを行うことができるようにする。

（２）中学部

①同世代の生徒との交流活動を行い、生活経験を拡大させ、共に学び合い、共に育ち合う気持ちを育てる。

②同世代の生徒とのかかわりを広げ、多くの経験をする中で、基本的な生活習慣や社会生活上のきまりを身に付ける。

（３）高等部

①同世代の生徒との交流や学び合いを通して、相互に望ましい社会性を育む。

②互いの個性や立場を尊重し、思いやりや感謝の心をもって人と接する態度を育成する。

③他校の生徒との作品交流を通して、互いの理解を深めるとともに自らの表現意欲を高める。

２　提携校

学　　部	交流及び共同学習提携校
小学部	甲府市立里垣小学校、甲斐清和高等学校
中学部	甲府市立東中学校
高等部	山梨県立甲府東高等学校

３　実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	11 月 27 日	甲府市立里垣小学校	全学年	特別活動	かえで祭にて作品交流
	9 月～R4. 2 月	甲府市立里垣小学校	各学年	特別活動	学習発表ポスター交流 リモート交流
中	9 月 12 日	甲府市立東中学校	2　年　生	特別活動	東輝祭にて作品交流
	7 月・12 月	甲府市立東中学校	1　年　生	特別活動	ビデオ交流
	11 月 27 日	甲府市立東中学校	1　年　生	特別活動	かえで祭にて作品交流
	通年	甲府市立東中学校	全学年	特別活動	メッセージ交流
高	6 月 18 日 11 月 27 日	山梨県立 甲府東高等学校	全学年	特別活動	蒼龍祭・かえで祭にて作品交流

４　学校間交流の様子

（１）小学部

里垣小学校との交流においては、例年、年２回の直接交流を行っていたがコロナ禍のために間接交流を行った。それぞれの学年で、自己紹介や授業の様子、学校行事の様子などを写真や文章、動画などで伝えた。里垣小学校からの掲示物を興味深げに見たり、今までの交流で仲良くなった児童を見つ

けたりする様子が見られた。４年生の交流は、学校間交流において初となるリモートでの交流を行った。それぞれが授業の様子や頑張っていることを発表することができ、それに対して反応が返ってくることに喜ぶ様子が見られた。久しぶりに顔を合わせたり言葉を交わしたりするなどのかかわりができて、双方の児童が楽しそうに交流している様子が印象的だった。

甲斐清和高等学校との交流については、コロナ禍のために昨度に引き続き実施ができていない。交流のねらい及び交流の在り方について双方で確認を行い、実施方法について検討していく必要がある。

（２）中学部

①中学部１年

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、顔を合わせての直接交流は実施できなかった。そのため、第１回の交流では、互いに自己紹介カードを作成し交換を行った。直接交流ができず残念そうにしている生徒もいたが、東中学校からの自己紹介カードを見て「いつ会えるかな。」「一緒に遊びたいね。」と今後の交流に期待感をもつ様子が見られた。また東中学校の生徒の多さに驚いたり、好きなアニメや音楽が同じ生徒を見つけ喜んだりする生徒の姿が見られた。

第２回の交流では「東輝祭」（東中学校の学園祭）のビデオを送っていただき鑑賞した。東中学校の生徒たちと直接交流をしている気持ちになっていたのか、学年発表の劇を静かに見ていた。鑑賞後に感想を聞くと、「セリフが上手だった。」「衣装や道具がすごかった。」など、様々な感想が飛び交った。また、「東中ソーラン節」の映像では、迫力のある揃った踊りに、生徒たちは釘付けになっていた。

②中学部２年

お互いの学園祭で作品交流を行った。本校からは、中学部２年生が生活単元学習で作成した作品を東輝祭で展示していただいた。東中学校の作品は、かえで祭において、他の交流校の作品と共に展示した。お互いの作品を見ることで相互理解を深めることができた。

③メッセージの交流

向かい合う校舎の窓を使って、メッセージを貼り気持ちを伝え合った。本校では、各学年で学級活動の時間や特別活動の時間を使い、メッセージの作成を行った。「目標　受験　勉強　部活　がんばろう」（３年生）「笑顔で楽しくがんばろう！」（２年生）「いつも笑顔みんな友だち」（１年生）のメッセージを送り合った。メッセージの交換は、本校開校の際に東中学校からメッセージを貼っていただき、それ以来、毎年続けられている。生徒たちも毎日メッセージを見ることができるので、直接会えなくてもいつか会えることを楽しみに、友達を思い浮かべる良い機会となっている。交流を深めるために良い取り組みだと思うのでこれからも続けていきたい。

東中学校
『かえでのみんなよろしくね！』

かえで
『笑顔で楽しくがんばろう！』

（３）高等部

①作品交流（甲府東高校学園祭）

本校高等部の生徒が美術の授業で制作した作品を、甲府東高校の蒼龍祭で展示していただいた。１年生～３年生の実態が異なる学習グループの作品を展示していただくことで、甲府東高校の生徒やその保護者に本校の学習や取り組みについて知っていただける場となった。また、展示中に「メッセージでつながろう」と題したメッセージボードを掲示していただいた。「色づかいが素敵ですね。」「（Ｉグループの大きな作品を見て）迫力に圧倒されました。」「元気をもらいました。」等、作品を見た感想をたくさん聞くことができた。また、感想だけでなく「お互い１日１日を楽しみながら過ごしていきましょう。」「お互い頑張りましょう。」等、本校生徒に向けた励ましの言葉もいただいた。

②作品交流（かえで祭）

切り絵2点とクラス新聞2点、似顔絵2点を貸していただいた。切り絵は児生玄関に掲示し、クラス新聞と似顔絵は高等部棟に掲示した。どの作品も色鮮やかで精巧につくられていて、生徒達も興味をもって見ることができた。切り絵は、かえで祭終了後、高等部棟に掲示し、より近くで作品を見ることができた。作品を見て「これはどうやって作っているのか。」など制作工程に興味をもつ生徒もいた。展示場所には、「メッセージでつながろう」と題したボードを用意し、それぞれの作品に対する感想を書くことができた。また、メッセージには甲府東高校の生徒から頂いたメッセージに対するお礼や「コロナがおさまったら皆さんに会えることを楽しみにしています。」等、直接交流に対する期待も綴られていた。メッセージを介してではあるが、互いの想いを伝え合い交流を深めることができた。

５　成果と課題

（１）小学部

・間接交流で掲示や DVD を交換することで、相手校の友達の学習の様子を知ることができた。
・掲示物を作る時には、前回の活動を思い出しながら、相手校の児童を思い浮かべて作成することができる児童もいた。
・学校間交流をしたことがない１年生や交流の経験が浅い低学年児童、交流先児童を思い浮かべることが難しい児童にとっては、間接交流は難しいものであった。
・今年度取り組んだリモート交流を参考にしながら、来年度は全学年リモート交流を行っていくことを検討したい。

（２）中学部

・１年生は、新型コロナウイルス感染症対策のため間接交流となってしまったが、互いの作品を見ることで、東中学校の生徒の様子を知ることができた。

・２年生は、新型コロナウイルス感染症対策のため東輝祭に見学に行くことができず、作品を通しての間接交流となった。本校の学習の様子を知ってもらう良い機会となった。今後は、直接交流が設定できそうな場合は、双方の状況を十分考慮し、無理のない範囲で再開できると良い。
・３年生は、メッセージ交流のみであるが、お互いの存在を思い出すよい機会と考えている。今後も取り組みを続けていきたい。
・今後の状況によって、間接交流がしばらく続いていく可能性も考えられる。掲示物や作品等を用いた交流も良いが、より相手を意識した交流のために、リモートによる交流の検討も必要であると感じた。

（３）高等部
・部活動交流は、コロナウイルス感染症対策のため対外的な交流が難しかった。本校の部活動も例年に比べ少なく、実施が難しかった。今後の状況も踏まえ、交流の仕方を模索していく必要がある。
・作品交流では、互いの学園祭でそれぞれの作品を展示した。作品の感想や交流校に向けたメッセージを書けるようにメッセージボードを設置した。間接的ではあったが、互いに相手を思い言葉を送り合い、思いを伝い合えた良い機会になった。今後も続けていけるとよい。
・甲府東高校の作品は、高等部棟に掲示した。どの作品も力作で素晴らしく、生徒は間近でじっくりとみることができ良かった。
・今回の取り組みを通して、甲府東高校の生徒会より心温まる感想をいただき、本校の生徒も励みにすることができた。作品を通して言葉だけでなく気持ちの繋がりを作ることができた。

Ⅳ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

地域の人々とふれあったり、学校を取り巻く環境を体感したりすることにより、地域社会の中で共に豊かに生きていく力を身に付ける。

（１）小学部
①地域の方々とのあいさつや交流会で自然にふれあうことにより、生活経験を広げ、様々な人と楽しく過ごすことができるようにする。
②地域の方々と季節の食べ物や郷土料理を作ったり食べたりして、食生活の経験を拡大させる。
③地域の方々とのかかわり方を身に付け、楽しくやりとりを行うことができるようにする。

（２）中学部
①地域の方々と活動を共にし、ふれあいを楽しみ、お互いに理解を深め合う。
②生活経験や対人関係を広げ、地域社会の中で生きていく力の基礎をつくる。

（３）高等部
①地域の方々と共に活動する中で、自分たちが人のためになっているという意識をもち、奉仕の心を育てる。
②地域の方々とのふれあいを通し、お互いを理解する。

２　交流先

学　　部	地域交流先
小学部	里垣地区各自治会、里垣地区社会福祉協議会
中学部	中澤葡萄園、松永葡萄園
高等部	里垣地区各自治会
全　校	ヴァンフォーレ甲府

３　実施計画

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
小	12 月	社会福祉協議会 民生委員	１、２年	生単	焼き芋会
中	7 月、10 月、12 月	松永葡萄園 中澤葡萄園	２年	生単	かさかけ、収穫、枝拾い
高	11 月	学校周辺地域	1 年	特別活動	地域清掃
全校	２月	ヴァンフォーレ甲府	全校	特別活動	児童生徒のメッセージ送付
	10 月頃	社会福祉協議会	全校	特別活動	葡萄の贈呈式
	通年	希望者	全校	音楽	校歌 CD の紹介と配布

４　地域交流の様子

（１）小学部

①焼き芋会（低ブロック）

地域の方が７名来校してくださり、授業で収穫したサツマイモを使って焼き芋会を行った。早い時間から火をおこして準備をしてくださったり、子供たちに優しく声をかけてくださったりした。また、会の終わりには子供たちから地域の方へ焼き芋のプレゼントを行った。「ありがとう。」「また来てね。」など感謝の気持ちや楽しかった気持ちを伝えることができ、温かい交流となった。

（２）中学部

①ぶどう園との交流

松永ぶどう園に２年Ａ組、Ｂ組、中澤ぶどう園に２年Ｃ組、Ｄ組がそれぞれ３回に渡り訪問させていただき、ぶどうの栽培体験を通じて交流を行った。傘かけ、収穫、収穫後の枝拾いと体験を重ね、ぶどうがどのように栽培されているのか、おいしいぶどうを育てるためにぶどう園の方々がどのような思いで栽培をしているのかを学習することができた。複数の体験により、ぶどうの栽培過程や地域の名産を知ると共に、農家の方や自然の恵みに感謝する機会になった。ぶどう園の方々とも絆が生まれ、笑顔で体験をする生徒の様子が見られた。

（３）高等部

①地域清掃

秋晴れの中、高等部1年生がクラスに分かれ通学路や学校周辺を中心に清掃をした。日頃お世話になっている地域に感謝の気持ちが伝えられるように、生徒達は一生懸命に取り組んでいた。用意したごみ袋が集めた枯れ葉や枝、草でいっぱいになると、達成感を感じている生徒もいた。また、活動をしていると、近くを通った地域の方々から「ご苦労様」等と声を掛けられ挨拶を交わすこともあっ

た。地域清掃を通して、地域の方々とコミュニケーションをとることができただけでなく、地域のために自分たちも役に立てたことを実感することができた。これからも地域清掃等の地域貢献活動を継続していきたい。

（４）全体

①ヴァンフォーレ甲府との交流

新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度は選手が来校する例年のような交流は実施できなかった。ヴァンフォーレからの依頼を受けて缶バッチの製作をしたり、応援委員会を中心に試合結果を掲示したりするなどして、選手の活動を知る等の取り組みを行った。

②葡萄の贈呈式

今年度も、里垣地区社会福祉協議会から、里垣地区で栽培された葡萄を全校児童生徒に届けていただいた。今年度は、贈呈式を実施することが難しかったため、小学部の生徒が代表で葡萄を受け取った。いただいた葡萄は、各教室で一人ひとりに届けられた。葡萄を受け取った。児童生徒は、とても嬉しそうな笑顔を見せ、毎年、この日を楽しみにしている様子がうかがえた。本校からは、校長先生より感謝の言葉を伝えて頂いた。全校児童生徒との交流は難しかったが、里垣地区社会福祉協議会の方々には、様々な地域交流に参加していただき、本校を支えていただいていることを感じることができた。

③校歌『フレンズ』

校歌『フレンズ』は、作曲家の杉本竜一氏に作詞・作曲していただいた曲である。杉本氏の「多くの方々にこの曲を知ってもらいたい」という考えから、希望する方にはＣＤや楽譜を渡すようにしている。

この曲は、本校の児童生徒のありのままの姿の美しさや心の素直さを表現した曲で、聴く人にやさしさを伝えてくれている。今後も、多くの方々に届くよう、校歌『フレンズ』の交流を広げていきたい。

５　成果と課題

（１）小学部

・今年度は、低学年が焼き芋会を通して、地域の方々と交流することができた。感染症対策を行うことで、安全に実施することができた。
・焼き芋会を通した交流は、授業計画に沿って内容を決めて、こちらの希望に合わせて交流をしていただくことができ、ありがたかった。多くのふれあいは難しいと考え、ねらいを検討し直して、実施することができた。
・交流を通して、普段できない経験をすることができている。今後も授業計画に沿った形で、交流を進めていきたい。

（２）中学部

・実施にあたっては、昨年度の反省を生かしながら、今年度の生徒の実態や学習のねらいを考慮して計画を立てた。地域の方々の協力を得て、スムーズに交流を行うことができた。
・地域の方々が生徒の実態に配慮をし、かかわり方を工夫してくださったことで、自分から声を掛けることが難しい生徒もかかわり合える場面が多く見られた。たいへんありがたく思っている。

（３）高等部
・今年度は、コロナウイルス感染症予防のため地域の方と直接交流をすることは難しかったが活動中に地域の方々と挨拶を交わす等でコミュニケーションの機会をもつことができた。
・通学路や学校周辺地域の清掃を通して、多くの地域の方に支えられながら生活できていること実感することができた。また、自分達も地域のために役立てることがあること等、充実感や達成感を味わうことができた。
・地域に貢献していくという意味で、清掃範囲の拡大も検討していく。

Ⅴ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目　的

居住する地域の様々な人々とふれあうことにより、生涯を通じて地域と結び付いていく基盤をつくるとともに、地域の中で共に生きていくことができる力を培う。

２　実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部１年	湯田小学校	間接（１）	自己紹介カードの交換や、湯田小学校の校内を見学させてもらうなどの活動を予定していたが、校内見学は中止となった。

３　成果と課題

・今年度は、新規児童１名の実施となった。
・自己紹介カードや授業の様子の動画、手紙などを交換する予定である。

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立高等支援学校桃花台学園
所 在 地	〒４０６－００２６　山梨県笛吹市石和町中川１４００番地
電話番号	０５５－２６３－７７６０
校 長 名	若林　正人
交流及び共同学習主任名	久保島　真奈美

２　学校教育目標

生徒に誇りと自信をもたせ、他者への思いやりや協調性を培うとともに、職業教育を通じて、意欲的に社会参加する力を養成する。

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

１　交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所　　属・職　　名	備　　考
1	笛吹市石和町中川地区・区長	会長
2	山梨県立笛吹高等学校・校長	副会長
3	笛吹市立石和東小学校・校長	
4	山梨県立笛吹高等学校・教頭	
5	山梨県立笛吹高等学校・生徒会主任	
6	山梨県立高等支援学校桃花台学園・校長	

２　経過

開催時期	内　　容
５月 31 日（月）	第１回交流及び共同学習推進会議　→　紙面開催 委員委嘱状及び任命書の交付、推進事業の説明、運営要項の説明、本年度の活動計画の説明を紙面にて行った。
２月２４日（木）	第２回交流及び共同学習推進会議　→　紙面開催 本年度の活動状況、次年度への課題

Ⅲ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

（１）同世代の生徒及び異世代の児童との交流を通して、互いを理解し、助け合いや支え合って生きていくことの大切さを学ばせる。

（２）間接的な交流に加えて直接交流を通して、同世代の生徒及び異世代の児童の活動の様子を見たりふれ合ったりするなかで、気づきや学びにつながるようにする。

２　提携校

交流及び共同学習提携校
山梨県立笛吹高等学校
笛吹市立石和東小学校

３　実施状況

月日	提携校	実施学年等	教科等区分	実施内容
６月１日（火）	石和東小学校	農業生産コース	専門教科	（小１）石和東小学校にて、サツマイモの苗植え
７月 13 日（火）		２学年・３学年		（小２）本校にて、桃花ダイスキマーケットの案内・販売・接客
12 月３日（金）		環境メンテナンスコース		（小６）本校にて、花苗植え・清掃
６月	笛吹高等学校	農業生産コース	専門教科	（教員）ブドウ講座の予定だったが、感染拡大防止のため中止。
７月		美術部	特別活動	笛吹祭にて作品展示の予定だったが、縮小開催になったため、担当者同士で連絡を取り合い中止とした。
７月		生徒会・太鼓部・合唱部・美術部	特別活動	笛吹祭が縮小開催になったため、担当者同士で連絡を取り合い、見学を中止とした。
７月 ８月 ９月 10 月		太鼓部	特別活動	（すいれき太鼓部）合同練習の予定だったが、担当者同士で連絡を取り合い、感染拡大防止のため中止。
２月		農業生産コース	専門教科	（教員）笛吹高等学校農場にて、ブドウの剪定作業の予定だったが、感染拡大防止のため中止。

４　学校間交流の様子

（１）石和東小学校との交流

新型コロナウイルス感染防止対策を講じて、例年より規模を縮小して実施した。

サツマイモの苗植えの説明

サツマイモの苗植え

① サツマイモの定植

1年生27人とサツマイモの定植の交流を行った。本校農業生産コースの生徒は、どのように教えればわかりやすいかを考えて準備や練習をし、当日は話し方やかかわり方を工夫して教え、畝立てから定植まで一緒に作業をした。

1年生が説明を一生懸命に聞く姿や、自分たちを頼りにする姿に直接触れることで、自己有用感を感じられた。また、工夫して準備をしたことで1年生が正しく理解して上手に定植ができたことで、充実感や達成感を感じることができた。

さらに、交流後には苗植えの感想を、秋にはサツマイモの収穫した報告の手紙を送ってくれた。自分たちがかかわったことの結果を知ることができ、多くの感謝の言葉を受け、大変満足した様子であった。

桃花ダイスキマーケット

桃花ダイスキマーケット

② 買い物学習

2年生27人が、本校の桃花ダイスキマーケットに合わせて来校し買い物をした。本校3つの専門コースの生徒は、児童の案内・販売・接客を通じておもてなしをするという交流を行った。
あらかじめ児童からの注文をとり、パンや焼き菓子、野菜やポップコーンなど、確実に製品を購入できるよう準備した。また、小学生が買いやすいサイズや価格の製品や、購入時に双方がやりとりを確認できるよう、オリジナルのレシートを用意した。

本校生徒は、小さなお客様への接客の仕方を工夫し、児童の視線やペースに合わせて、優しく対応し、かかわりを楽しみながらやりとりすることができた。

自分たちが作った製品を喜んで購入する姿を見て、やりがいを感じることができた。

また、児童が家庭で本校の製品とともに話をすることで、家族にも本校の様子が伝わることも期待できる。

2年生も、マーケットの感想を書いた手紙を送ってくれ、本校の生徒たちは交流を振り返り、充実感を感じていた。

窓ふき清掃

③ 花苗の植栽、清掃

6年生36人と、屋外で小グループに分け、植栽活動及び窓ふき清掃を行った。

各グループに本校環境メンテナンスコースの生徒が花苗をプランターに寄せ植えする手順と窓清掃の実技指導をした。6年生に対して、寄せ植えの手順や清掃の楽しさなどをどのように教えたらよいのか、本校生徒は事前に悩んだり考えたりして、

植栽：花の植え方

交流会に臨んだ。児童の興味深げな顔つきや、スクイージーできれいに窓ふきができた喜びの感想は、本校生徒にとって大きな達成感や成就感を得る経験となった。

はじめて本校に来た児童も多く、送られた後日の感想文の多くには、コロナが収まったらマーケットに来てみたいという希望や、担当した環境メンテナンスコースの生徒に感謝の言葉が寄せられた。

（２）笛吹高等学校との交流

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、生徒同士の交流行事は実施できなかった。しかし、来年度以降も交流できる方法を模索していきたいと考えている。

一昨年、初めて笛吹高等学校の先生方と本校の生徒がブドウの剪定を学習する機会を設けた。しかし、その後新型コロナウイルス感染状況の変化や、学校行事の変更等があり、昨年度・今年度は実施できなかった。本校の生徒にとっては、身近な果樹について新たな知識や発見を得て、刺激を受ける機会となり、笛吹高等学校の先生方には、本校生徒の様子を知っていただける機会となるため、来年度は可能な限り実施したいと考えている。

５　成果と課題

石和東小学校との交流では、予定していた交流をすべて実施することができた。サツマイモの定植と花苗の植栽・清掃の交流では、わかりやすい教え方やかかわり方の工夫を事前に考え、準備を重ね、当日を迎えた。本校の生徒は、中学校時代に何かを自分が教えるという環境にはなかった生徒が多い。悩んだり考えたりして準備をして、「教える」という体験につながった。また、石和東小学校の児童も、専門的知識や技術を習得できたり、地域にある特別支援学校を身近に感じたりする機会になったと感じる。本校生徒との交流をきっかけに、児童から家庭、家庭から地域へと、本校や障害の理解につながっていくであろうと思われる。小学校との交流は、学校間交流にとどまらず地域交流の発展にもつながっていくといえるので、今後も大切にして継続していきたい。

笛吹高等学校との交流は、今年度新型コロナウイルスの感染拡大防止で中止になってしまい大変残念だった。来年度以降、部活動で同じ目標に向かって頑張っている同世代の仲間がいるということを双方の生徒が実感できる交流を目指していきたい。

Ⅳ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

（１）地域の方々とともに活動するなかで、相互扶助の経験を通して協働の大切さを学ばせる。

（２）学校で学習した内容を、社会の中で活用する経験を通してより確かな力に高める。

（３）地域の人々とのふれあいを通して、卒業後の就労に必要なコミュニケーション能力を実践的に育成する。

２　交流先

地域交流先
笛吹市石和町中川地区

３　実施状況

月日	地域交流先	実施学年	教科等区分	実施内容
５月～２月 （７回実施）	中川地区	２学年・３学年	専門教科	桃花ダイスキマーケット
５月～２月 （７回実施）	中川地区	広報委員会	特別活動	桃花ダイスキマーケット告知放送
６月３０日(水) ７月１日(木)	中川地区 藤巻農園	１学年	専門教科	ブドウのかさかけ
１１月	中川地区	美術部	特別活動	公民館祭作品展示の予定だったが、担当者同士で連絡を取り合い、感染拡大防止のため中止
１１月	中川地区	全校	専門教科	秋の大収穫祭の予定だったが、一般公開中止のため交流は中止
１２月６日(月)	中川地区	環境メンテナンスコース	専門教科	公民館内及び周辺の清掃、植栽作業
１２月	中川地区	食品加工コース	専門教科	けやきの会との茶話会、調理の予定だったが、感染拡大防止のため中止

４　地域交流の様子

桃花ダイスキマーケット

桃花ダイスキマーケット

（１）「桃花ダイスキマーケット」

桃花ダイスキマーケットを５月から２月にかけて７回行った。来場者の多くが学校周辺の地域の方々である。前日に広報委員会の生徒が中川地区に放送したり、回覧板でのお知らせも定着したりしていることから、心待ちにしていたお客様が多かった。手指消毒や検温、飛沫防止シートの使用等、感染症対策をしっかり行い開催した。生徒が丁寧に育てた野菜や、工夫して製造したパン、焼き菓子を地域の人々に購入していただくことを通して、生徒の学習の成果を知っていただく良い機会となった。また、桃カフェでは、ドリンクや焼き菓子を提供し、丁寧な接客を行うなかで、お客様の反応を直に感じられる大変有意義な機会となった。

ブドウのかさかけ

（２）ブドウのかさかけ

１年生の農業生産の授業において、本校農場の隣にある藤巻様の農園でかさかけ実習を実施した。

藤巻様にブドウにかさをかける意味やその方法を教えていただき、かさかけを体験した。実際に手ほどきを受けたり、ブドウ栽培に関する質問をしたりしながら、藤巻様と一緒に作業を行った。

地域の世代の違う方とかかわり、お話を聞くことで、知識だけではなく、精神的にも得るものがあったようである。

交流を重ねることで、地域の方に本校生徒の様子を知っていただけ、理解が深まっていることを感じる。感染症対策のため、開催日を２日に分散し、マスク着用、間隔を取る中で作業を実施した。

ブドウの収穫時期には、生徒達がかさかけをしたブドウを藤巻様が本校に届けてくださり、自分たちの作業の結果を知ることができた。本校生徒が、かさかけ体験とブドウのお礼の気持ちを書いた手紙の中には、勤労の大変さや、苦労したからこその充実感・達成感について触れているものが多かった。

公民館清掃

（３）公民館清掃

感染症対策を講じて、中川地区にある公民館周辺の清掃を1年生の環境メンテナンスの授業で実施した。

授業で学んだ清掃に関する知識や技術を生かし、地域の人々と一緒に館内外の清掃に取り組んだ。

また、プランターに花を植栽して設置した。区長さんより、「公民館がきれいになりありがたい」というお礼の言葉を直接生徒にかけていただけた。生徒達は、温かな言葉に励まされ、自分の行動が地域や社会に役立つことを実感することができた。

公民館清掃

５　成果と課題

新型コロナウイルス感染症対策をしながら行った。直接的な接触を避けること、屋外での活動、手指消毒等、できる限りの対策を行い実施した交流の成果は大きかった。開催を心待ちにしていてくださった方が多く、昨年度までの交流の積み重ねにより交流が地域に根付いてきたことを感じた。生徒たちも、先輩たちが積み重ねてきた活動により、地域の方々から温かい言葉をいただき、次につなぐ大切さを感じることができた。また、地域の方々は、温かい気持ちで本校や生徒たちを見守ってくださっていることがわかり、それを実感して、感謝の気持ちでいっぱいになった。

今後も、本校の理解や生徒への理解のさらなる広がりを目指し、内容を検討していきたい。地域交流の充実・拡大を進め、さらに地域に根ざした学校を目指していきたい。

令和３年度交流及び共同学習実施報告書 山梨県立特別支援学校うぐいすの杜学園

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立特別支援学校うぐいすの杜学園
所 在 地	〒４００－０８５１　甲府市住吉２丁目１番１７号
電話番号	０５５－２８８－１６２８
校 長 名	手塚　雅仁
交流及び共同学習主任名	遠藤　けさみ

２　学校教育目標

一人一人の心に寄り添った学習活動を通して、基礎的･基本的な知識や技能の定着を図り、自信をもって様々な事柄に意欲的に取り組む態度を養い、社会の中で主体的に生きていくために必要な「生きる力」を育む。

Ⅱ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

本校の児童生徒の実態及び個人情報について配慮する必要があることから、現在のところ学校間交流は実施していない。

Ⅲ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

（１）学園内外周辺地域の清掃活動を通して、地域について知る。
（２）地域清掃や作品展示などの地域の人々とふれあう機会から、社会参加の意識を育てる。

２　交流先

学　　部	地域交流先
小学部	山梨県子どものこころのサポートプラザ周辺（甲府市住吉・伊勢地区）
中学部	同上

３　実施状況

月日	地域交流先	実施学年	教科等区分	実施内容
６月１４日	甲府市住吉地区	全学年	特別活動	プラザ内の清掃活動
９月　６日	甲府市住吉地区	全学年	特別活動	プラザ内の清掃活動
１０月１１日	甲府市住吉地区	全学年	特別活動	校舎周辺及びプラザ内の清掃活動
１１月２２日	甲府市住吉地区	全学年	特別活動	植栽活動
１月３１日	甲府市住吉地区	全学年	特別活動	校舎周辺及びプラザ内の清掃活動
３月１４日	甲府市住吉地区	全学年	特別活動	校舎周辺及びプラザ内の清掃活動
通年（６月～）	甲府市伊勢地区	全学年	図工・国語・理科・写真部	甲府伊勢四郵便局作品展示

４　地域交流の様子

（１）校舎周辺及びプラザ内の清掃活動

小中学部合同で校舎玄関前や児童相談所の植え込みの除草作業を２回行った。児童生徒が、植え込みの中から小さな雑草を見つけ丁寧に抜いたり、根の張った雑草を協力して抜いたりする姿が見られた。終わりの会では、本校事務長にねぎらいの言葉をもらい、この活動が、地域に役立つ活動であることを確認することができた。また、プラザ周辺を歩きながら、ゴミ拾いや草取りにも取り組んだ。他学部や他学年の児童生徒がかかわり、作業をすることができた。作業中には、地域の方にあいさつを交わすことを、１つのねらいとしたが、その機会に恵まれず、残念であった。自分たちが生活している施設や学校を外から見たり、周辺地域を知ったりする機会となった。

（２）植栽活動

園庭が周辺の道から良く見えるため、地域の方々にも楽しんでいただけるように、チューリップの球根を植える活動に取り組んだ。児童生徒は、球根の色を選び、並べ方を考え、協力して、作業しようとする様子が見られた。地域の方々が通りがかった時にきれいに見えるように考える生徒もいた。

（３）地域郵便局での作品展示

今年度は、6 月小学部、８月中学部（写真部）、10 月小学部、12 月中学部と計４回、伊勢四郵便局に作品展示を行った。郵便局長のご厚意により展示スペースを提供していただき、絵画、習字、写真、標語など、授業や部活動で取り組んだ作品を展示した。伊勢地区自治会長（本校評議員）からは、楽しみに見ているとの話が聞かれ、地域の方々とのつながりになっていると感じられた。校内にも展示したことの紹介を掲示している。

５　成果と課題

開校２年目であり、本校としてどのような交流ができるのか手探りの状態である。児童生徒の実態や、個人情報について配慮が必要なことから直接的な交流場面を作りにくい状況がある。今年度も地域清掃を通して、地域を知ることや、地域の方々とあいさつ等でふれあう機会ができればと考えた。また、地域の郵便局に作品を展示することができ、本校のことを知ってもらう良い機会となった。今後も、直接交流には難しさが伴うことが考えられるため、地域清掃を継続的に実施し、ふれあいの機会をもったり、作品展示を行い、地域とのつながりをひろげたり、さらに地域交流の可能性を探っていくことが望ましいと思われる。

Ⅳ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

本校の児童生徒の実態及び個人情報について配慮する必要があることから、現在のところ居住地校交流は実施していない。

令和３年度交流及び共同学習実施報告書　　山梨大学教育学部附属特別支援学校

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨大学教育学部附属特別支援学校
所 在 地	〒400-0006　甲府市天神町１７－３５
電話番号	０５５－２２０－８２８２
校 長 名	井坂　健一郎
交流及び共同学習主任名	山主　ちよ

２　学校教育目標

「自ら考え、行動し、まわりの人と助け合いながら生き生きと生活できるたくましい心と体を養う」

・心身を鍛え、健康を維持し、つよい心と体を持つ。
・身のまわりのことが自分でできる。
・人とのかかわりが持て、集団に参加し、仲間と協力できる。
・自ら考え、持てる力を精いっぱい出して行動できる。
・幅広い視野を持ち、心豊かで文化的な生活を営む。

Ⅱ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

（１）　小学部

①　同世代の友達と関わり、一緒に様々な活動に取り組もうとする態度を養う。
②　ともに活動することを通して、自分なりに表現し、相手と自分から関わろうとする態度を養う。

（２）中学部

①同世代の生徒と交わり、共に活動する中で、互いに理解し合う。
②様々な活動を通して、コミュニケーション能力を身につけながら生活経験の拡大を図る。

（３）高等部

①　同世代の生徒と関わり、交流することで、互いに理解を深める。
②　文化的な交流及び共同学習を通して、豊かな心を育てる。

２　提携校

学　　部	交流及び共同学習提携校
小学部	山梨大学教育学部附属小学校
中学部	山梨大学教育学部附属中学校、甲府市立北東中学校
高等部	日本航空高等学校

３　実施状況

学部	月日	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	５月	山梨大学教育学部附属小学校４年	全学年	生活単元	校外学習として附属小へ行き、「よろしくねの会」を行った。
	相手校と検討の結果中止	山梨大学教育学部附属小学校	全学年	生活単元	
中	10 月	山梨大学教育学部附属中学校	全学年	特別活動	本校学園祭「きりの子まつり」における舞台発表用小物作りを依頼し製作品を活用した。
		甲府市立北東中学校	全学年	特別活動	生徒会より、本校学園祭「きりの子まつり」に応援動画をいただき上映した。
	11 月	甲府市立北東中学校特別支援学級	全学年	保健体育	北東中が来校し、交流会で自己紹介・学校紹介を行った後、少林寺拳法の授業に参加し一緒に身体を動かす学習を行った。
	12 月	山梨大学教育学部附属中学校 甲府市立北東中学校	全学年	総合的な学習の時間	夢単元で 12 月に行った「ステキな自分ショー」の紹介動画を撮影し、２校に活動を紹介した。
高	相手校と検討の結果中止	日本航空高等学校	全学年		

４　学校間交流の様子

（１）小学部

附属小学校４年生との活動について

小学部の校外学習「あるいていこう」で附属小の低学年校庭へ伺わせていただき、学校間交流の始まりとして、附属小の４年生児童と「よろしくねの会」を行った。感染症拡大防止のため、４年生児童１５名と一定の距離をとって対面形式で会を進めた。それぞれの学校の代表が挨拶をした。本校からは、高学年（５・６年生）の児童４名が代表として、「よろしくね」の文字付きの団扇を附属小児童に見せながら、挨拶をした。

１月には２回目の学校間交流として、校外学習「こうりゅうにいこう」を設定し、附属

小の体育館で４年生の児童と一緒に身体を動かす活動を計画した。双方の児童が取り組める内容として、本校の朝の体育の活動（ポーズをしよう）、体育で取り組んだ長縄跳び、ダンス（ごりらっぱんだ）の 3 つの活動を行う予定で計画した。附属小の４年生と本校児童が関わりながら活動できるようなグループを編成し、本校で普段から取り組んでいる活動を一緒に行う直接的な交流を通して、本校児童の理解に繋げることや本校児童にとっては同世代の友達に関心をもつことなどをねらいとしたが、コロナウイルス拡大により中止となった。

（２）中学部

昨年度は２校ともコロナ感染症状況により例年実施してきた対面による交流活動が実施できなかったが、本年度は相手校と内容を検討し間接的な交流を計画し実現することができた。

附属中とは、本校学園祭「きりの子まつり」に対して、1 年生が劇中で使用するボンボンを製作していただき活用することができた。依頼やお礼など事前事後に動画を通しての交流を図ることもできた。

北東中からは「きりの子まつり」に際して生徒会より応援動画を贈られ、学園祭当日上映を行った。11 月には一旦感染状況が落ち着き、体育の授業に特別支援学級の生徒に来校していただき、交流会を行ったり少林寺拳法を一緒に学習したりすることができた。

また、２校に対して本校の総合的な学習の時間に 12 月に取り組んだ、夢単元「ステキな自分ショー」を動画で紹介し、交流を深めることができた。

（３）高等部

日本航空高等学校太鼓隊との活動について

今年度は、感染症の状況により、実現には至らなかった。昨年度は感染症対策もあり、太鼓演奏を録画した動画を交換し、互いに鑑賞することで交流を行ったが、例年は本校に日本航空高等学校太鼓隊を招き、互いに太鼓演奏を行うことで交流を図っていた。

５　成果と課題

（１）小学部

今年度の学校間交流は、感染症拡大防止という視点からも制限された部分はあったが、できるだけ直接交流が実現できるように協議を重ねた。天候に左右されない交流場所として、また、密をできるだけ回避するために広い附属小の体育館という会場設定は良かった。今後も、感染症拡大防止という観点から、状況に応じて附属小の４年生の参加人数の調整や短時間での実施、密にならない会場設定等、工夫しながら交流を図っていきたい。

（２）中学部

今年度の学校間交流は、交流校と検討した結果、コロナウイルス感染症対策の状況下でも可能な間接的な交流活動を計画し実施することができた。間接的な交流となったため、どちらの学校とも動画を活用して相手の顔が見える交流の工夫ができた。11 月には感染レベルに合せて対応し、直接同じ場所で体育の交流授業が実施でき、少林寺拳法の実技を通

し、子ども同士のかかわりをもつことができたことも成果であった。

例年行ってきた対面での「劇の背景画共同製作」や「きりの子まつりへの招待」「きりの子バザールへの招待」などを、今後可能な状況になれば再開が望まれるが、感染症の状況に応じて、本年度のように間接的な交流を模索し継続できると良い。

（３）高等部

今年度の学校間交流は、提携校と検討した結果、感染症の状況により中止に至った。来年度も対面による交流の難しさが考えられるが、生徒の意欲にも繋がっている提携校との交流は続けていきたいと考えている。その為、リモート等における間接交流での実施を視野に、交流を図っていきたい。

Ⅲ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

（１）小学部

① 地域の方々と関わり、一緒に様々な活動に取り組もうとする態度を養う。

② 共に活動することを通して、自分なりに表現し、相手と自分から関わろうとする態度を養う。

（２）中学部

① 地域の方々と交わり、共に活動する中で、互いに理解し合う。

② 校内外での活動を通して、コミュニケーション能力を身につけながら生活経験の拡大を図る。

（３）高等部

① 地域の方々とのふれあいの中から、豊かな心を育てる。

② 協力し合い、共生することの大切さに気づく機会を作る。

２　交流先

学　　部	地域交流先
小学部	甲府市新紺屋地区シニアクラブ
中学部	甲府市新紺屋地区シニアクラブ、学校周辺の方々
高等部	甲府市新紺屋地区シニアクラブ、山梨大学の方々、学校周辺の方々

３　実施状況

学部	月日	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
小	本校で検討の結果中止	甲府市新紺屋地区シニアクラブ連合会	全学年		
中	１月	甲府市新紺屋地区シニアクラブ連合会	全学年	総合的な学習の時間	夢単元で取り組んだ学習内容を動画で紹介し、手紙を通して意見交換した。
	本校で検討の結果中止	学校周辺の方々	全学年		
高	本校で検討の結果中止	大学内の方々及び大学周辺の地域の方々	全学年		
	双方で検討の結果中止	甲府市新紺屋地区シニアクラブ連合会	全学年		
	本校で検討の結果中止	学校周辺の方々	全学年		

４　地域交流の様子

（１）小学部

甲府市新紺屋地区シニアクラブとの活動について

今年度は、間接交流を検討したが、感染症拡大防止の観点から、交流は中止と判断し、実施には至らなかった。

（２）中学部

甲府市新紺屋地区シニアクラブとの活動について

今年度も昨年度と同様、感染症拡大防止のため、対面による交流は行わず間接交流で実施することとした。内容としては、総合的な学習の時間の中で行った夢単元「ステキな自分ショー」動画をそれぞれのグループ毎に DVD にしてシニアクラブの方々にお届けし、コメントをいただいた。シニアクラブの方々から中学部生徒一人一人に心温かなコメントをいただき、生徒たちも達成感を得ることができた。また、シニアクラブの方々に本校作業学習製品を贈呈することで、本校の教育活動の成果を知っていただく機会とすることができた。

（３）高等部

甲府市新紺屋地区シニアクラブとの活動について

今年度は、間接交流を検討したが、感染症拡大防止の観点から、交流は中止と判断し、実施には至らなかった。

５　成果と課題

（１）小学部

例年では、「９月のわくわく集会」の「季節の話」の中で「敬老の日」を学び、地域の方々と一緒に活動する交流を行ってきた。昨年度は、感染症拡大防止という観点から、「コロナ禍での励ましメッセージ」を地域のシニアクラブの方に送るという間接交流を行った。相手が見えない交流が小学部児童の実態として難しいという昨年度の反省を踏まえ、今年度は間接交流も断念した。今後は、感染症対策を踏まえどのように地域の方々と交流を行うことができるのかを検討していきたい。

（２）中学部

例年、学校近隣の甲府市新紺屋地区のシニアクラブの方々10名ほどを学校に招き交流会を行っていたが、感染症の状況により対面での交流をするのが難しかったので、昨年度実施できた間接交流の形で行った。総合的な学習の時間に取り組んだ６グループの「ステキな自分ショー」動画をDVDにしてシニアクラブの方々（中学部担当：東地区）にお届けした。各グループに視聴依頼の手紙を書いたり、心のこもったコメントをいただき廊下に掲示したり、コメントの発表会を開いたりしたことにより、生徒たちは大変喜び、お礼の手紙を返信する活動が展開できた。来年度も、これまでどおりの対面での交流の実施が難しいこと考えられる場合、内容や方法を早めに検討し有意義な交流を行っていきたい。

（３）高等部

例年では、作業学習の製品を販売することを通して地域の方々との交流を行うことや、本校に新紺屋地区シニアクラブの方々を招き和太鼓の演奏を鑑賞していただき交流を行なってきた。今年度は残念ながらそういった交流をもつことはできなかった。今後は、感染症対策を踏まえどのように地域の方々と交流を行うことができるのかを検討していきたい。

Ⅳ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目　的

（１）同年代の小中学校の児童生徒と共に活動することにより、相互理解を深める。
（２）居住地域における交流及び共同学習を通し、日常的な交流場面への発展を導く。
（３）将来的な視点に立ち、より充実した人間関係の基盤を整える。

２　実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）の内容
小学部・３学年	双葉東小学校	１回	特別支援学級の自立活動の授業に参加した。「よろしくねの会」では、自己紹介やゲームを通して交流をした。

３　成果と課題

居住地区校交流を行うにあたり、事前に本児が双葉東小学校の様子を見に行く機会を設けた。学校の校舎の様子や教室内の様子を確認したり交流先の先生と話したり、本児が環境や人に慣れるための配慮から事前見学を行ったことで、とても安心した様子で当日を迎えることができた。また、本児の実態を伝え共有する中で、本児が一緒に活動できる内容での交流となり、本児はもちろん保護者もとても満足していた。２学期以降は、新型コロナウイルス拡大防止のため校内行事がずれ込むということもあり、学校間での予定がうまく合わず、交流することができなかった。今年度は１回ではあったが、居住地校交流を行うことができ本児にとって貴重な経験となった。今後も、感染症拡大防止の観点から、相手校と連絡を取り合い、交流の仕方について考えていくことが必要である。

令和３年度交流及び共同学習実施報告書

山梨県教育委員会